

# 令和6年度 第1回山形市スポーツ推進審議会

日時：令和6年9月26日（木）  
午後2時30分～午後4時30分  
場所：山形市役所11階 1101会議室

## 次 第

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 部長あいさつ
- 4 会長及び副会長の選任
- 5 報告事項
  - (1) 「アーバンスポーツ普及方針」の策定について  
(スポーツ課) 資料1
  - (2) 山形市における部活動の地域移行・地域連携の取組みについて  
(部活動地域移行連携室) 資料2
  - (3) 西部工業団地公園内スポーツ施設整備事業の進捗状況について  
(文化スポーツ施設整備室) 資料3
  - (4) 屋外スケート施設のあり方検討懇談会の検討結果について  
(文化スポーツ施設整備室) 資料4
- 6 議事
  - (1) 山形市スポーツ推進計画2028の進捗状況について 資料5
- 7 閉会

山形市スポーツ推進審議会委員（任期：令和8年5月31日まで）（敬称略）

No.	氏名	役職等	出欠
1	いし い たまき 石 井 環	山形県スケート連盟事務局長	出
2	お の かず ゆき 小 野 和 行	山形市スポーツ少年団本部長	欠
3	すず き よし のり 鈴 木 義 則	山形市スポーツ推進委員協議会会長	出
4	なか い がわ しげ とし 中 井 川 茂 敏	(株)フェザンレーヴ エグゼクティブアドバイザー	出
5	ふく た とし お 福 田 俊 夫	山形市健康づくり運動普及推進協議会副会長	出
6	へん み よし あき 逸 見 良 昭	(公財)山形市スポーツ協会会長	出
7	ほし かわ じん いち 星 川 仁 一	山形市中学校体育連盟会長 山形市立高楯中学校長	出
8	まつ た よし え 松 田 喜 恵	山形市レクリエーション協会理事	出
9	よこ やま かず のり 横 山 一 則	山形市体育振興会連合会副会長	出
10	わた なべ のぶ あき 渡 邊 信 晃	山形大学地域教育文化学部教授	出

事務局（山形市）

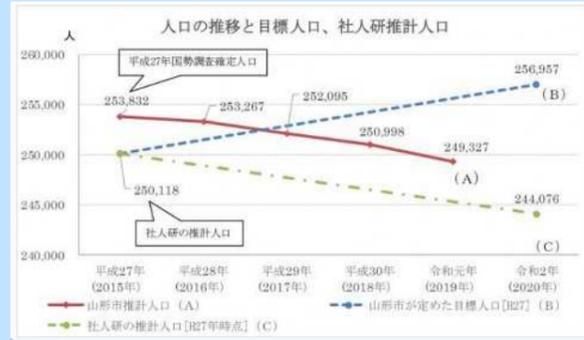
氏名	部署名
平 吹 史 成	文化スポーツ部 部長
早 坂 正 伸	文化スポーツ部次長（兼）スポーツ課 課長
古 内 和 彦	部活動地域移行連携室 室長
遠 藤 一 人	文化スポーツ施設整備室 室長
小 野 寺 孝	スポーツ課 課長補佐
齋 藤 芳 和	スポーツ課 スポーツ振興係 係長
武 田 貴 浩	スポーツ課 スポーツ交流係 係長
半 田 ル ミ 子	スポーツ課 スポーツ施設管理係 係長
羽 島 悠 平	部活動地域移行連携室 部活動地域移行連携係 係長
福 島 紀 宏	文化スポーツ施設整備室 スポーツ施設整備係 係長
林 部 和 貴	学校教育課 保健体育係 指導主事
安 達 茜	スポーツ課 スポーツ振興係 主査
水 澤 可 奈	スポーツ課 スポーツ振興係 主事

1. 方針策定の背景

昨今、「アーバンスポーツ」は若者の文化から競技スポーツへとその領域を広げ、オリンピックの競技種目にもなっています。国のスポーツ基本計画でも、地域経済の活性化や若者の地元定着の促進の重要性が認識されており、山形市もその一環として市スポーツ推進計画に基づきアーバンスポーツの振興を検討することとしていることを受け、市場調査や資源の整理を行い、適切なアーバンスポーツ競技の普及や環境整備を進める計画として策定するものです。

ポイント：アーバンスポの振興に期待すること

令和元年10月現在の推計人口は24万9,327人であり、住宅政策の効果等により、令和7年には年少人口の減少率が一時的に低減する見込みです。これを機に、改めて年少人口の定着に向けた施策に注力することで、中長期的な人口減少を鈍化させることができると考えられます。また、本市は多様な業務機能の集積や、複数の大学立地等から従業・従学人口が多く、特に従学人口は県内の3割が本市に居住しています。これらを鑑みると、本市の人口問題に対するアプローチとして、若者に向けた施策の重要性の高さが窺えます。



2. アーバンスポーツとは

アーバンスポーツとは「速さや高さ、危険さや華麗さなどの過激な (extreme)要素を持った、離れ業を売りとするエクストリームスポーツの中で都市での開催が可能なものとしており、音楽、ファッションなど遊び感覚の高い若者文化と深く結びつくスポーツです。本市スポーツ推進計画においては、スケートボード、BMX、パルクール、スポーツクライミング、バスケットボール3x3などやスノーボード等の冬季も含めた若者向けのスポーツの総称として定義しており、本方針においてもこれらの競技種について扱うものとします。

<アーバンスポーツ振興上の主な課題>

低い認知度	アーバンスポーツの認知度が低いため、メディアやSNSを活用して露出を増やし、実際に体験できる機会を提供する必要がある。また、「アーバンスポーツ」という言葉を定着させ、大会などの機会を作る際にはその名前を冠することが効果的である。
「する」ための障害	身近に体験できる場所や施設を整備し、適切な指導体制も整える必要がある。施設整備には、既存の施設の活用や利用頻度の低い施設の再活用も検討されるべきであり、また、既存の利用規則が新たなスポーツの導入を阻害している場合は、新しい共存ルールの策定も必要とされる。
「みる」ための障害	アーバンスポーツの振興では、「参加する」だけでなく、「観る」機会も重視される。トップ選手の競技やデモを見ることで興味を持つ人が増え、参加需要を喚起できる。しかし、イベント開催の費用が課題となる場合もある。
限定的な競技者	元々遊びから生まれ、誰でも参加できる特徴がアーバンスポーツであるが、競技として進化する過程で、ルールや条件が厳しくなり、参加しにくくなることがある。高齢者、子供、障がい者など多様な人が参加できるルールや施設の整備、適切な道具の開発が必要とされている。
活動を制限する法規制	「ストリートスポーツ」とも呼ばれ、道路や公園をフィールドとすることも多く、安全性や交通秩序のために規制が存在し、振興の阻害要因となる。制度の導入や公園の利用制限の見直しが必要だが、場所を増やすためには、活動者のモラル向上と一般の理解の深化が必要。
組織の漸弱さ	新しい分野で、資金や人材が不足しているが、収益性への抵抗が低い。企業との連携や競技人口の増加によって財源の課題は解決できる可能性がある。情報発信力が弱く、地域振興のためにはアーバンスポーツのクラスター化が重要だが、地方では協力が難しい状況である。
官民連携の必要性	施設整備や活動許可は行政の責任であり、アーバンスポーツの振興には地元行政の積極的な参加が必要だ。アーバンスポーツイベントや教室の支援を通じて、地域振興策として活用することが可能である。

3. 対象競技について

競技概要	国の動向	市の動向
 <p><b>スケートボード</b> 階段、手すり、壁、ベンチをモチーフにしたコースを使用する「ストリート」を始めとして、パーク・フリー・バーチカル・ビッグエアー・スラロームといった種目が存在する。</p>	現在、国内の競技人口は10代・20代を中心におよそ3000人。国内の愛好者は、推定で約40万人といわれている。また、競技人口は増加傾向にあり、現在は7000～8000人程度ともされている。	高校生の伊藤選手が注目され、スケートボード競技における地元で活躍。若手選手のけん引役となり、憧れた小学生や幼稚園児も競技を始める盛り上がりが見られる。一方でスケートボードの場所は限られており、積雪も課題である。
 <p><b>BMX</b> スケートパークで、ジャンプ技術の高さを競う競技である「フリースタイル・パーク」を始め、フラットランド・ダート・ストリート・ヴァートといった種目が存在する。</p>	競技者全体では1000名程度で、その他ファッションとしてBMXを楽しむ愛好者まで含むと数万人の規模になるといわれている。公式戦に出場するための選手登録数も直近7年で約4倍に増加している。	BMXには、双葉小学校での活用策として、自転車教室に東北唯一プロBMXライダー伊藤氏を招いての普及が図られている。
 <p><b>3x3</b> 横15m、縦11mのコート内で、10分間の試合時間やシュートの時間制限などにより、試合展開が5人制よりもさらに速いことが特徴として挙げられる。</p>	バスケットボール全体の競技人口は2018年時点で推計218万人である。3x3総合ブランド「3x3.EXE」によると、日本国内における3x3の潜在的なプレイヤーは約150万人と想定している。	県内ではしばしば高校生チームが好成績を残す。オリンピックを目指す選手や女子日本代表コーチを輩出。しかし、環境整備は不十分で、専用コートも少ない。公園のバスケットボールも騒音問題があり、苦情により撤去されるケースもある。
 <p><b>スポーツクライミング</b> 登ったコースの数を競う「ボルダリング」、登る速さを競う「スピードクライミング」、登った高さを競う「リードクライミング」の3種目が存在し、それらを複合したコンバインド競技も存在する。</p>	国内の愛好者人口は60万人、世界では4,450万人にのぼる。オリンピック採用が決まった年度前後から急速に右肩上がり伸びて、現在は横ばい状態である。	本市若年層の競技レベルが高く、国体で唯一の入賞競技。強化費も充実し、今後も強化を進める。世界コースで入賞するなど若手選手も多く、競技の伸びしろも期待される。市内の民間ジムや天童市の県総合公園等環境に恵まれている。
 <p><b>ブレイク</b> 1対1から2対2、もしくは大人数のチーム同士が向き合いながらダンスバトルを行う。難易度の高いパフォーマンスや、アクロバティックを披露するなど創造性を競い合うものである。</p>	ブレイクを含むストリートダンスの競技人口は約600万人と推定されている。日本ダンススポーツ連盟も、会員数こそ減少しているものの、感覚的には競技人口やイベント数は増え続けていると認識している。	コロナ禍で大会開催が中断されたが、今年度のダンスの日では東北各県代表を招き、山形からも4人が参加。過去に日本一になった選手や、Dリーグでも活躍する選手も。一方、活動場所の不足や首都圏への人口流出など、課題もある。
 <p><b>パルクール</b> パルクールは障害物を乗り越えるスポーツで、スピードや技術を競う。スピード競技とフリースタイル競技があり、欧州では学校や高齢者向けにも導入されている。</p>	日本国内におけるトレーサー（パルクールの実践者）は3000人程度とされている。	本市の児童遊戯施設コパルで園児～児童の体験イベントを開催し、人気を集めている。

## 4. 普及方針

第3期スポーツ基本計画においては、「スポーツによる地方創生・まちづくり」という政策の柱を掲げており、それは地域内住民向けのインナー事業と、地域外交流人口向けのアウトター事業の両輪、またそれらの装置としてのハード事業によって推進されるものとしています。本方針においても、若者の地元定着や地元愛の醸成等の効果を期待するインナー事業としての側面、アーバンスポーツをフックとしたスポーツツーリズムによる地域経済の活性化の一助としてのアウトター事業の側面、それらの実現のためのハード整備の必要性や可能性の検討が含まれています。

表面で6種目の競技を対象に現況を整理していますが、インナー施策の普及方針を検討するうえでは、検討のうえでの諸条件や市内ステークホルダーの親和性が高い、「スケートボード・BMX」と「クライミング・パルクール」は統合し、4区分6種目の形で整理しています。アウトター施策としての普及方針は上記4区分6種目のなかでも、本市のポテンシャルや競技者のニーズを鑑みたくえで比較的可能性がある「スケートボード」と「クライミング・パルクール」の2区分3種目について整理しています。

### インナー施策としての普及方針

#### スケートボード・BMX



##### 主な市民ニーズ

- 質の高い通年型の屋内施設
- 活動場所までの交通アクセス
- 迷惑行為の抑制

#### 3X3



##### 主な市民ニーズ

- 現時点でニーズは安定的に高いとは言えない

#### クライミング・パルクール



##### 主な市民ニーズ

- 若者にはボルダリングが人気
- 年配層にはリードが人気

#### ブレイキン



##### 主な市民ニーズ

- 広さを確保できる活動場所
- 活動場所までの交通手段
- 身近な場所での活動場所

### アウトター施策としての普及方針

#### スケートボード



##### 主な競技者ニーズ

- 世界水準を満たす施設
- 天候の影響がない屋内施設

#### クライミング・パルクール



##### 主な競技者ニーズ

- 他競技者のトレーニングプログラムとしてのニーズ
- 質の高いコース

### 普及方針

#### ソフト

- ベニちゃんバス等交通施策との連携（子どもが一人で通える仕組みづくり）
- 騒音や威圧感等、他者にとっての迷惑になる行為を明確化したうえで、コントロールのための地域ルールづくり
- 強化費の増加（県外遠征の助成）等の検討

#### ハード

- アクセシビリティ担保と、居住・勤労空間等、他者の日常生活の妨げにないこととのバランスのとれた環境整備の検討（この際、前述のとおり一定程度の質が伴わないと場所の確保にはあたらならないことから、より多くの愛好家・競技者のニーズを満たし得る可動式セクションの採用を検討）
- 高水準な屋内施設整備の検討

#### ソフト

- バスケットボール等と連携した普及啓発のためのイベント開催への助成の検討
- プロチームやアンバサダーとの連携による競技の露出
- 生涯スポーツとしての振興
- 騒音等、他者にとっての迷惑になる行為を明確化したうえで、コントロールのための地域ルールづくり
- ベニちゃんバス等交通施策との連携（子どもが一人で通える仕組みづくり）

#### ハード

- 公園等に附帯されるコートなどの量的・質的整備の検討
- 駅周辺や自転車移動可能圏等、子どもがアクセスしやすい場所へのコート整備
- プロチーム等の民間活力や、「スタジアム・アリーナ構想」等の国策を活用した屋内施設の整備検討

#### ソフト

- 幅広い年齢層をターゲットとした普及
- 部活動の地域移行・連携等の流れに合わせ、進学による競技を諦めずに続けられる環境づくり
- 他競技のトレーニングとしての展開
- 学生年代の競技力強化

#### ハード

- 市外施設や民間ジムとの有機的な連携



県総合公園リード壁

#### ソフト

- ベニちゃんバス等交通施策との連携（子どもが一人で通える仕組みづくり）
- 騒音や威圧感等、他者にとっての迷惑になる行為を明確化したうえで、コントロールのための地域ルールづくり
- 郷土愛醸成に向けた文化振興事業としての活動支援



溝ノ口駅

#### ハード

- 床の管理に関する正しい知識の啓発と管理にかかる補助や助成の検討（⇒公民館等の利用促進）

#### ソフト

- （ハード整備がなされた場合）施設と観光拠点（宿泊・飲食・観光スポット）との連携・送客強化
- （ハード整備がなされた場合）移住施策との連動
- 大型大会（またはイベント）の誘致活動

#### ハード

- 国際水準の屋内施設整備の検討
- 世界的ビルダーの招致
- 可変式セクションの導入



村上市スケートパーク

#### ソフト・ハード

- 周辺市との連携組織（会議体等）の設立
- 大規模大会の開催
- スポーツクライミングと外岩クライミングの交流
- 体育大学等と連携したトレーニング効果等の研究・メニュー開発



天童市で練習し SASUKEに出場する選手

# 山形市アーバンスポーツ普及方針

令和6年3月  
山形市



# INDEX

1	方針の策定にあたって	1
	(1) 本方針策定の趣旨	1
	(2) アーバンスポーツに関して	4
2	現況	6
	(1) わが国における状況（市場性）	6
	(2) 本市における状況（市民のニーズ/本市の資源）	21
3	普及方針	30
	(1) インナー施策としての普及方針	31
	(2) アウター施策としての普及方針	42
	(3) 総括	45
4	活動環境整備の事例	46
	(1) 全国レベルの大会開催や、市民に利用されている施設	46
	(2) 既存施設を活用した環境整備	49
	(3) 地域活性化への貢献	50
	(4) 有識者からの推薦	51

---



# 1 方針の策定にあたって

## (1) 本方針策定の趣旨

### ア 上位・関連計画におけるアーバンスポーツ

アーバンスポーツは、オリンピック競技種目になるなど、起源である若者文化としてのみならず、競技スポーツとしても人気が高まっており、国の第3期スポーツ基本計画においても、スポーツによる地方創生・まちづくりのコンテンツとしてのアーバンスポーツの可能性について言及されています。

このことを鑑み、本市においてもアーバンスポーツを振興することで、若者の地元定着や地元愛の醸成等の効果が期待できると考え、「山形市スポーツ推進計画 2028」において、本市における今後のアーバンスポーツの普及方針等について検討を進めることを位置づけています。

これらの背景から、アーバンスポーツに関する市場性や市民ニーズ、本市の有する資源の適正やポテンシャル等を調査・整理し、調査結果を踏まえ本市で推進し得る各種アーバンスポーツ競技の普及や環境整備に関する方針を策定するものです。

スポーツによる地方創生 具体的施策：スポーツツーリズムの更なる推進
国は、スポーツによる地方創生においても重要な要素の一つであるスポーツツーリズムについて、各地域や関連事業者と連携し、ウィズコロナの中でも三密を避けて楽しむことができる、各地域の自然資源を活用した「アウトドアスポーツツーリズム」や、ポストコロナを見据えてインバウンドニーズの高い日本発祥の武道を活用した「武道ツーリズム」について、コンテンツ開発を積極的に推進する。また、アーバンスポーツ、ワーケーション等の地域資源をいかした新たなコンテンツの開発や、DXの活用等新たな分野の開拓・チャレンジを積極的に推進する。

図表 1 第3期スポーツ基本計画におけるアーバンスポーツに関する記載

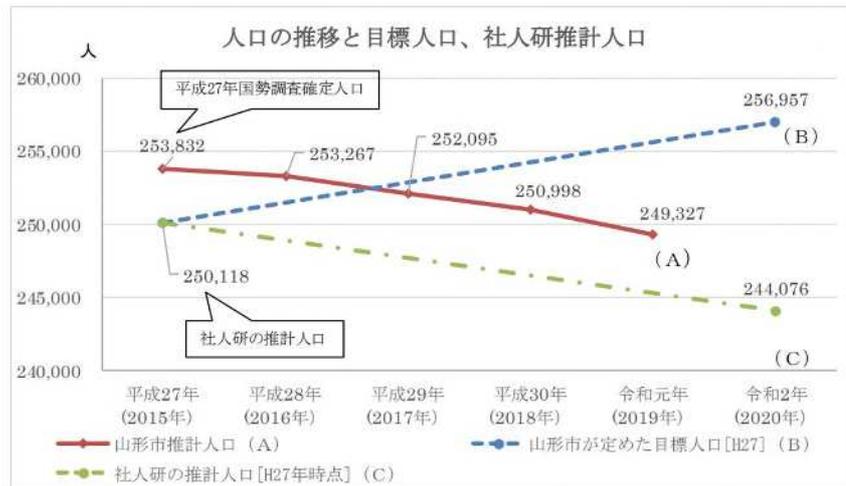
山形市スポーツ推進計画 2028 基本施策 1-2 郷土愛の醸成や定住につなげる若者のスポーツ参加の促進
<b>【課題・背景】</b> アーバンスポーツは、若者を中心とするサブカルチャーを形成しており、近年のオリンピックにおいて正式競技種目になるとともに、エクスゲームズなどの大会で注目を浴びています。また、国の「第3期スポーツ基本計画」においてもアーバンスポーツの導入が示されています。本市においても行う市民が増えていると見込まれ、スノーボードで活躍するアスリートも現れています。現状、 <u>山形市のアーバンスポーツ等の公共施設は少なく、冬季についても、スキー場にアーバンスポーツのコースがない状況です。</u>
<b>【今後の方向性】</b> 若者の郷土愛醸成や定住促進の要素として、アーバンスポーツを「する」又は「みる」競技として普及する方針を作成し、 <u>中心市街地活性化も含めた交流人口の増加や心身の健康づくり・仲間づくりの場の提供などを検討します。</u> また、 <u>アーバンスポーツを活用し、観光振興や関係人口増加を図るため、冬季エクスゲームズの大会の誘致・開催の可能性について調査研究を行います。</u>

図表 2 山形市スポーツ推進計画 2028 におけるアーバンスポーツに関する記載

## イ 本市の人口に関する現況

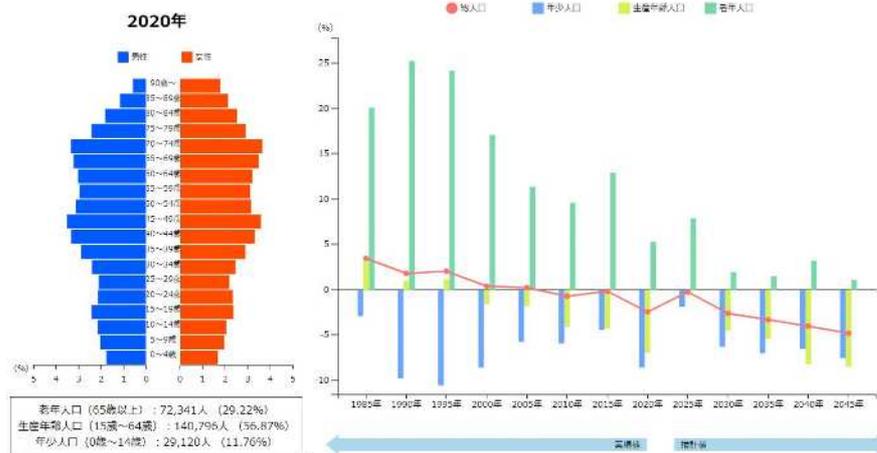
前述のとおり、アーバンスポーツ普及の目的が若者を中心とした定住・交流・関係人口の呼び水であることを勘案し、以下のとおり現況を整理します。

令和元年10月現在の推計人口は24万9,327人です。宅地開発や産業団地の造成など、これまでの政策による効果もあり、社人研の推計値を約5,000人上回ったものの、目標人口には約8,000人達しない結果となっています。



図表 3 人口推移（山形市発展計画 2025、R2）

上記の宅地開発や団地造成等住宅政策の効果等が作用することが要因のひとつとして考えられますが、令和7年には年少人口の減少率が一時的に低減する見込みです。これを機に、改めて年少人口の定着に向けた施策に注力することで、中長期的な人口減少を鈍化させることができると考えられます。



図表 4 年齢別人口比・年齢3区分別増減 (RESAS)

また、本市は多様な業務機能の集積や、複数の大学立地等から従業・従学人口が多く、特に従学人口は県内の3割が本市に居住しています。

これらを鑑みると、本市の人口問題に対するアプローチとして、若者に向けた施策の重要性の高さが窺えます。



図表 5 各種統計値の県内シェア（山形広域都市圏パーソントリップ調査、H31）

## (2) アーバンスポーツに関して

### ア アーバンスポーツとは

アーバンスポーツとは「速さや高さ、危険さや華麗さなどの過激な (extreme)要素を持った、離れ業を売りとするエクストリームスポーツの中で都市での開催が可能なものとされており、音楽、ファッションなど遊び感覚の高い若者文化と深く結びつくスポーツです。

アーバンスポーツに取り組む背景・定義
<p><b>【背景】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 東京 2020 に採用されたアーバンスポーツ 3 種目を盛り上げ、成功に寄与するとともに、レガシーの創造を支援すること、また、若者に人気のあるこれらアーバンスポーツの普及を通じて、青少年の健全な育成支援と国民の健康増進に貢献することを目的として、JOC はじめ、一般社団法人日本アーバンスポーツ支援協議会が主体となってアーバンスポーツを推進している。</li><li>● 街中の道路での遊びから派生したものが BMX やスケートボード競技であるように、アーバンスポーツは「ストリートスポーツ」とも呼ばれ、もともとは都市内で気軽にできるスポーツである。また、「エクストリームスポーツ」とも呼ばれ、際どいパフォーマンスを演じることで、観衆の目を引こうとする側面もある。X-GAMES や FISE ワールドシリーズなどに代表されるように、一流の競技者によるパフォーマンスは、人を魅了し、集める効果がある。国内でも、FISE ワールドシリーズ広島やキメラ A-SIDE は、<u>全国から多くの人を集めるイベント</u>となっている。</li><li>● このようにアーバンスポーツへの取組は、若者や子供などを引き込む地域の魅力やアーバンスポーツの体験・観戦のツーリズムを生み出すものとして期待される。</li></ul> <p><b>【定義】</b></p> <p>アーバンスポーツとは「エクストリームスポーツの中で都市での開催が可能なもの」として、音楽、ファッションなど遊び感覚の高い若者文化とともに進化するものと捉えることができる。種目としては、ボルダリング、BMX、スラックライン、パルクール、スケートボード、3×3などを例として挙げるができるが、<u>特に種目などを限定するものではない。</u></p>

図表 6 アーバンスポーツツーリズム推進に向けた論点整理 (アーバンスポーツツーリズム研究会)

### イ 本方針における射程

本市スポーツ推進計画においては、スケートボード、BMX、パルクール、スポーツクライミング、バスケットボール 3X3 などやスノーボード等の冬季も含めた若者向けのスポーツの総称として定義しており、本方針においてもこれらの競技種について扱うものとします。



## ウ アーバンスポーツ推進の課題

アーバンスポーツは、近年注目され、言葉としては流布され始めているものの、競技人口は依然少ないのが現状です。アーバンスポーツを推進するうえで、一般的に以下のような課題が挙げられおり、本市での普及においても留意する必要があります。

アーバンスポーツ推進上の主な課題
<p><b>【低い認知度】</b></p> <p>一部を除いて総じて競技人口は少なく、一般に対する露出が少ないため、露出を増やすためのメディア活用、実際に見て、体験できる機会づくりなどの情報発信が必要。また、対象競技のファン向け雑誌や SNS を活用した情報発信の強化が有用。「アーバンスポーツ」という言葉そのものの定着から取り組むべきであり、大会等機会創出の際には、「アーバンスポーツ」を冠して開催することが有用。</p>
<p><b>【「する」ための障害】</b></p> <p>場所や指導者が身近に得られる人は限られていることから、身近にアーバンスポーツを体験できる場所・施設を整備すること、次に、適切な指導を行うことのできる体制の整備が必要。ハード整備にあたっては、必ずしも新たに施設を整備する必要はなく、使われていない施設の活用、低利用頻度施設の活用でも対応可能。特に運動施設では、利用種目を制限する既存のルールがあって、新しい種目による利用を妨げているケースもあるため、共存のための新たなルールの検討が必要。</p>
<p><b>【「みる」ための障害】</b></p> <p>アーバンスポーツの推進にあたっては、「する」機会づくりと並行・連携して「みる」機会づくりも重要。一流の競技やデモを見ることで、関心を持つ人が増え、「する」需要の喚起につながる。これら「みる」環境を作るためのイベント開催コストの顕在化が課題。</p>
<p><b>【誰もが参加できるアーバンスポーツ】</b></p> <p>アーバンスポーツは、遊びの感覚から始まり、だれもが参加できるという基本的側面を有しているが、競技スポーツとして進化する過程において、ルールや競技条件が厳格化されることで、参加のしやすさが薄れる傾向にある。高齢者、子供、障がい者など様々な人が参加できるルール作りや施設等の整備、道具の開発も求められる。</p>
<p><b>【都市内での活動を妨げる法規制】</b></p> <p>アーバンスポーツは「ストリートスポーツ」とも呼ばれ、道路や公園をフィールドとすることも多いが、安全性や交通秩序のために規制があり、これが推進を妨げる要因となっており、制度の導入や公園の利用制限の見直しが必要。アーバンスポーツの場を増やすためには、活動者のモラル向上と一般の理解の深化が必要。</p>
<p><b>【活動組織の脆弱さとクラスター化】</b></p> <p>アーバンスポーツは歴史が浅く、財源や人材などが脆弱であるが、遊び感覚が強く収益性への抵抗が低い。企業との連携や競技人口増加により、財源の課題は解消できる可能性がある。アーバンスポーツは情報発信力が弱く、アーバンクラスター構想のような結集が重要。全国ではクラスター化が進んでいるが、地方では各種目の協力体制が弱く、連携が図りにくい状況。</p>
<p><b>【地域振興策としての行政の関与】</b></p> <p>施設整備や道路・公園等における活動の許認可は行政に委ねられているため、行政を巻き込んだ取組の推進が必要。アーバンスポーツイベントの開催、底辺拡大の教室事業への支援など、地元行政の関わり方次第では、地域振興策として「アーバンスポーツ」を活用することも十分可能。</p>

図表 7 アーバンスポーツツーリズム推進に向けた論点整理（アーバンスポーツツーリズム研究会）より加工

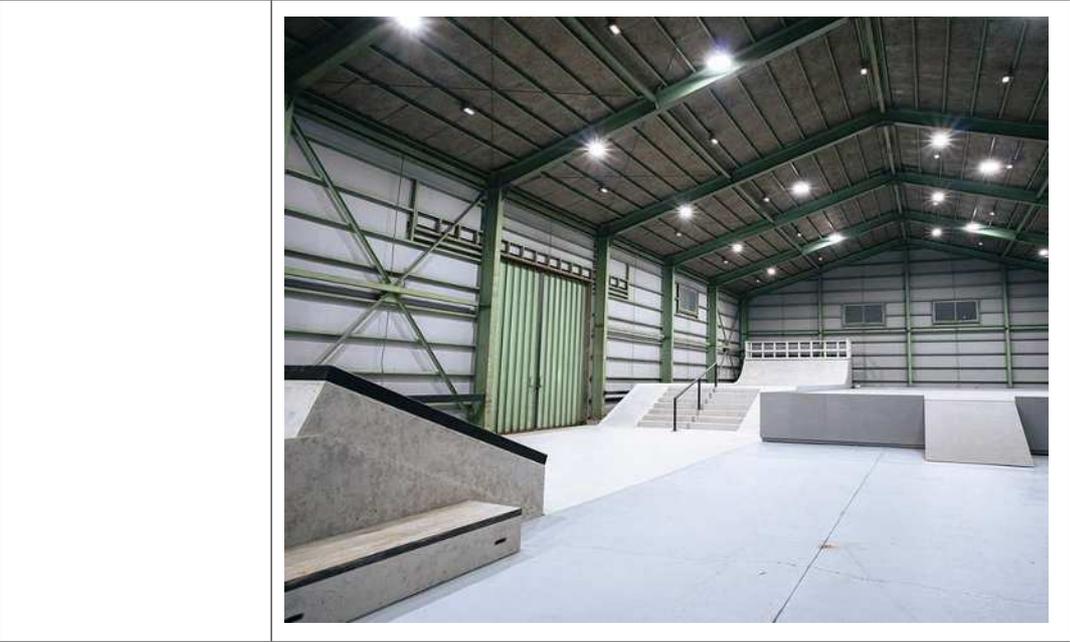
## 2 現況

### (1) わが国における状況（市場性）

#### ■ ア スケートボード

成り立ち	1940年代のカリフォルニアで木の板に鉄製の戸車を付けて滑った遊びが始まりとされている。50年代に入りローラーダービー社から「ローラーサーフィン」という木製チップとゴム製のホイールが付いたおもちゃが売り出され、これが現在のスケートボードの原型といわれる。
競技概要	<p>"街にあるような階段、手すり、壁、ベンチをモチーフにしたコースを使用した「ストリート」、おわん形の湾曲した複雑な滑走路を組み合わせたコースで行われる「パーク」が東京五輪で実施された。</p> <p>そのほか「フリー」「バーチカル」「ビッグエアー」「スラローム」といった種目が存在する。"</p> 
競技人口の動向	<p>日本スケートボード協会によると、現在、国内の競技人口は10代・20代を中心におよそ3000人。国内の愛好者は、明確な基準がないが、推定で約40万人といわれている。</p> <p>一方で、ワールドスケートジャパンによると、競技人口は増加傾向にあり現在は7000～8000人程度ともされている（協力団体も含めた団体が開催する国内諸大会への総参加選手数に推測されるショップ、スケートパークや個人スクールが開催する大会への参加選手数の総計）。</p>
大会の開催状況	<ul style="list-style-type: none"><li>・XGAMES @ZOZO マリンスタジアム</li><li>・ストリートリーグ@有明アリーナ</li><li>・日本スケートボード選手権大会等@村上市スケートパーク</li><li>・全日本アマチュア選手権大会@有明アーバンスポーツパーク</li><li>・WINGRAM CUP@ムラサキパーク東京</li></ul>

	
<p>常設施設の立地状況</p>	<p>東京五輪での種目採用を契機に全国でのパーク整備が実施、計画されている。</p> <p>パーク検索サイト「スケパ」 (<a href="https://sk8parks.net/">https://sk8parks.net/</a>) の収録数は775件 (2023.8時点)</p> <p>国内スケートパークの立地状況は様々である。町の中、山の中、森の中どこにもある。日本スケートボード協会 (AJSA)のホームページにスケートパーク情報の掲載がある。大会開催のパーク規格の制限はないが、参加選手のレベルにより自然とパークレベルが決まる。例えば日本選手権にはムラサキパーク笠間、村上スケートパーク、鶴沼スケートパーク、松坂スケートパークなど極限定的になる (オリンピックに向けた国内予選の為)</p> <p>それ以下のレベルの大会は出場する選手のレベルにより判断してパークを選択するのが一般的である。また、レベルの高いパークによりレベルの高い選手が育つ事も事実。</p>
<p>参考事例施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ムラサキパーク笠間 (茨城県笠間市)</li> <li>・村上スケートパーク (新潟県村上市)</li> <li>・鶴沼スケートパーク (神奈川県藤沢市)</li> <li>・松坂スケートパーク (三重県松阪市)</li> <li>・THE PARK (神奈川県寒川町)</li> </ul> <p>※寒川町営プールの営業停止をうけ、取り壊されるはずの屋内プールをスケートパーク&amp;BMX パークに改装して営業している。町民の高齢化に直面していたこともあり、若者文化であるスケートボードや BMX ができる場所の誕生は町民の関心も高く、町役場もサポートする形となっている。現在は別の場所に移転し、倉庫を丸々スケボー施設として運営している。</p>



## イ BMX

<p>成り立ち</p>	<p>1970 年代初頭にアメリカ西海岸を中心に始まったとされている自転車のカテゴリーが BMX であり、子どもたちがオートバイのモトクロススターに憧れ、20 インチの自転車を乗り回していたことが原点とされている。</p>
<p>競技概要</p>	<p>BMX やスケートボード、インラインスケートなどを乗る「スケートパーク（競技専用施設）」で、ジャンプ台を利用し空中で技を披露し、その技術の高さを競う競技である「フリースタイル・パーク」が東京五輪にて実施された。そのほかに「フラットランド」「ダート」「ストリート」「ヴァート」といった種目が存在する。</p> 
<p>競技人口の動向</p>	<p>全日本フリースタイル BMX 連盟によると、競技者全体では 1000 名程度で、その他ファッションとして BMX を楽しむ愛好者まで含むと数万人の規模になるといわれている。 連盟としても把握方法を模索しているところであるが、公式戦に出場するためには競技者登録を行う必要があり、その登録者数は 2017 年 72 名 → 2023 年 296 名と、増加傾向にある。</p>
<p>大会の開催状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・XGAMES@ZOZO マリンスタジアム</li> <li>・全日本 BMX フリースタイル選手権@下石井公園・イオンモール岡山</li> <li>・マイナビ JapanCupYokosuka@うみかぜ公園</li> </ul>
<p>競技規則</p>	<p>巻末資料参照</p>
<p>常設施設の立地状況</p>	<p>東京五輪より、新たに種目として採用された。BMX はスケートボードと併用の施設である事例が多く、スケートボードパークの増加に伴い、パークは増加傾向にある。上記「スケパ」に併載。以下ライダーがよく利用するパーク。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>うみかぜ BMX パーク（神奈川県横須賀市）</li> <li>鵜沼スケートパーク（神奈川県藤沢市）※改修のため現在閉鎖中</li> <li>KOASTAL BIKE PARK（神奈川県藤沢市）</li> <li>新横浜スケートパーク（神奈川県横浜市）</li> <li>境町アーバンスポーツパーク（茨城県境町）</li> </ul>

	<p>ムラサキパーク（茨城県笠間市・東京都立川市）  東静岡アート&amp;スポーツヒロバ（静岡県静岡市）  432 BMX PARK（静岡県袋井市） ※プライベートパーク  NEO BMX PARK（岐阜県本巣市） ※プライベートパーク  シムジャスケートパーク（岐阜県高山市） ※プライベートパーク  SECRET BMX PARK（愛知県津島市） ※プライベートパーク  Hi-5（愛知県あま市）  Wing Park 1st（京都府宇治市） ※プライベートパーク  サイクルパーク京都（京都府向日町）  FSS35 スポーツパーク BMX パーク（奈良県三郷町）  "g"skate park（兵庫県神戸市）  みなとのもりスケートパーク（兵庫県神戸市）  Hiroe Forest Skate Park（岡山県倉敷市）  ライト BMX パーク（岡山県岡山市） ※JFBF 所有、スポーツ庁 競技別強化拠点 認定施設  YAKATA BMX PARK（福岡県八女市）</p> 
<p>参考事例施設</p>	<p>一般的な BMX パーク使用料だけで収益化することはできないため、何かと掛け合わせて行う必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・強化に特化し強化拠点として活用、ネーミングライツ販売（ライト BMX パーク）</li> <li>・アーバンスポーツのまちとしての取組（うみかぜ BMX パーク）</li> <li>・廃校活用（三陸 BMX スタジアム）</li> <li>・高架下活用（みなとのもりスケートパーク、新横浜スケートパーク etc）</li> <li>・競輪場の活用・賑わい創出（サイクルパーク京都）</li> </ul> <p>また、上記理由からパークが整う条件のハードルが高いため、現在はプライベートパーク（特定のライダーへの支援 or 自ら所有する土地・財産の活用によりパークを作る）をもつライダーも増えている。※その中の一部は有料で仲間開放しているパークもある。</p>

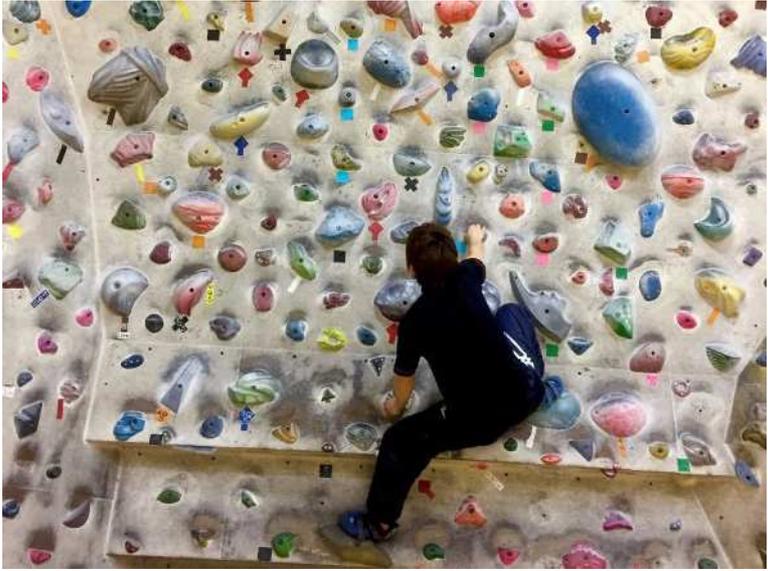
	
<p>日本自転車競技 連盟</p>	<p>トライアル部会の回答の活用について要検討</p>
<p>全日本フリースタ イル BMX 連盟</p>	<p>BMX フリースタイルを統括する団体。国際自転車競技連合や日本自転車競技連盟と連携。国内における国内公式戦の主催・主管や、国際大会の誘致支援等をはじめ、選手強化・競技普及・選手育成・ジャッジ育成などを行なっている。</p>

## ウ 3X3

成り立ち	世界中のストリートでプレイされている 3 人制バスケットボール 3on3 に FIBA（国際バスケットボール連盟）が 2007 年に正式な統一ルールを設け、バスケットボールの新種目として確立したものである。
競技概要	<p>3x3 用のコートは横 15m、縦 11m となっており、縦の長さは 5 人制コートの半分（14m）よりも少し短くなっている。</p> <p>また、試合時間は 10 分間であることや、シュートの時間制限などにより、試合展開が非常に速いことが 5 人制と比較した際の特徴として挙げられる。</p> 
競技人口の動向	バスケットボール全体の競技人口は 2018 年時点で推計 218 万人（スポーツライフ・データ）である。3x3 総合ブランド「3x3.EXE」によると、日本国内における 3x3 の潜在的なプレイヤーは約 150 万人と想定している。
大会の開催状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3x3.EXEPREMIER@全国各地</li> <li>・3x3 日本選手権大会@大森ベルポート等"</li> </ul>
常設施設の立地状況	<p>興行としては、オープンスペース等に特設ステージを組んで催行できることが強み。</p> <p>ハーフコート有する公園は全国各地に存在。"</p>
参考事例施設	青森県八戸市の FLATHACHINOHE は 3X3 会場としてもアイスホッケー会場としても使える施設となっている。このように競技ごとの年間稼働を鑑みて複数スポーツに対応することは効果的であると考えられる。



## エ スポーツクライミング

成り立ち	複数のルーツがあるとされ、1940 年代後半から 1980 年にかけて、当時のソビエト連邦において自然の岩場で、規定の高さまで登る速さを競うスピード種目の競技会を開催したのが始まりとされている
競技概要	<p>登った課題（コース）の数を競う「ボルダリング」、壁を登る速さを競う「スピードクライミング」、登った高さを競う「リードクライミング」の 3 種目があり、東京五輪では、3 種目を複合した結果で成績を決める「コンバインド（複合）」が採用された。</p> 
競技人口の動向	<p>日本山岳・スポーツクライミング協会によると、国内の愛好者人口は 60 万人、世界では 4,450 万人にのぼる。オリンピック採用が決まった年度前後から急速に右肩上がりで伸びて、現在は横ばい状態。</p> <p>国内の人口は都道府県別、市町村別に Web アンケートを実施し把握している。</p>
大会の開催状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンバインドジャパンカップ西条@石鎚クライミングパーク SAIJO</li> <li>・回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会@加須市民体育館</li> <li>・ユースフューチャーカップ（銚田市生涯学習館スポーツクライミングセンター）</li> </ul>
常設施設の立地状況	<p>民間によるボルダリングジムが各地に存在する。</p> <p>クライミングに関する複合メディアプロジェクト「CLIMBERS」(<a href="https://www.climbers-web.jp/gym-search/">https://www.climbers-web.jp/gym-search/</a>) の検索エンジンでは 466 件掲載（2023.8 時点）</p> <p>以下、ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設となっている施設一覧。いずれも 1-4 までは全国大会や国際大会実施の実績あり。5 は新施設。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.葛飾区東金町運動場スポーツクライミングセンター（東京都葛飾区）</li> <li>2.岩手県営運動公園 スポーツクライミング競技場（岩手県盛岡市）</li> </ol>

	<p>3.石鎚クライミングパーク SAIJO（愛媛県西条市）  4.倉吉スポーツクライミングセンター（鳥取県倉吉市）  5.九州クライミングベース SAGA（佐賀県多久市）  【参考：公認競技会申請】  <a href="https://www.jma-sangaku.or.jp/sports/sc_info/institution/">https://www.jma-sangaku.or.jp/sports/sc_info/institution/</a></p> 
<p>参考事例施設</p>	<p>上記施設は、全国大会や国際大会を実施した経験があり、地元の山岳連盟の方々にも運営で審判等協力頂いているため、大会開催に関するノウハウがある。</p>
<p>国内競技団体</p> <p>日本山岳・スポーツクライミング協会</p>	<p>NF（中央競技団体）は、対象スポーツに関して、国内を統括する団体であり、代表選手等の選考権限や選手強化予算の配分権限等、特別な権限を独占的に有する組織であり、他に類を見ない唯一の組織である。合わせて、PF（都道府県競技団体）と協力し、当該スポーツの普及、振興、競技力の向上を図るための取り組みも行っている。</p> <p>NF の選手、指導者や審判等の NF 構成員以外にも、スポーツ、メディア、ファン等、ステークホルダー（利害関係者）へのアウトリーチも行っている。</p>

## オ ブレイキン

<p>成り立ち</p>	<p>ブレイキンは、1970年代にニューヨークのブロンクス地区で生まれたアーバンダンススタイルのダンススタイルである。ブレイキンのアスリートは通称“Bボーイ”、“Bガール”、“ブレイカー”と呼ばれるが、“B”は“Break”の略で、曲中でビートだけが流れているブレイクビートの間にダンスの動きを入れたことから、このように呼ばれている。</p>
<p>競技概要</p>	<p>1対1から2対2、もしくは大人数のチーム同士が向き合いながらダンスバトルを行う。難易度の高いパフォーマンスや、アクロバティックを披露するなど創造性を競い合うものである。</p>  <p>写真: Battle Of The Year World Finalより</p>
<p>競技人口の動向</p>	<p>一般社団法人ストリートダンス協会によると、ブレイキンを含むストリートダンスの競技人口は約600万人と推定されている。</p> <p>公益社団法人日本ダンススポーツ連盟も、会員数こそ減少している（2020年に会員システムを導入した年が話題性やオリンピックへの期待等から、600人と最も多く、その後は2021年300人、2022年200人）ものの、感覚的には競技人口やイベント数は増え続けていると認識している。</p>
<p>大会の開催状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BattleOfTheYearWorldFinal@沖縄アリーナ</li> <li>・全日本ブレイキン選手権@渋谷ストリームホール等</li> <li>・マイナビ JDSF ブレイキンジャパンオープン@IHI ステージアROUND東京</li> <li>・マイナビ DANCEALIVEHERO'S@両国国技館"</li> </ul>

	
<p>常設施設の立地状況</p>	<p>民間のダンススタジオが各地に存在するものの、アーバンスポーツとしての「プレイキン」はまさに都市空間のオープンスペースにて行われるものであり、常設施設を必要としない。ダンススタジオの他は、体育館、公民館、駅や公園等のオープンスペースが練習場所としてあり得るが、どこも制約や料金等のハードルが存在する。</p> <p>大会に関しては、規模にもよるが公民館、体育館、ダンススタジオ、商業施設、クラブ、倉庫、屋外等、様々な場所で実施される。</p> <p>主な環境の条件としては以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・床が水平である。斜めでない。</li> <li>・床の素材が絨毯などではなく、ツルツルとした突起のない床であること</li> <li>・床が硬すぎない、柔らかすぎない</li> <li>・音が流せる</li> <li>・スペースがある程度確保できる</li> </ul>
<p>参考事例施設</p>	<p>川崎市高津区の JR 武蔵溝ノ口駅前、世界的にも聖地「ミゾノクチ」として有名。夕方以降改札前のガラスを鏡にダンス練習する若者が集まる場所となっている。地域と競技者の歩み寄りにより地域の文化として定着しつつある。</p> <p>職場の施設である空き倉庫を改修してダンススタジオとして活用。利用料は 1 回 500 円、1 日あたり 20 人以上は練習に訪れており、無人で運営が行われているため、信用で成り立っている。</p>

	
<p>国内競技団体</p> <p>日本ダンススポーツ連盟</p>	<p>世界ダンススポーツ連盟（IF）の国内統括団体（NF）として活動しており、アーバンスポーツとしてのブレイキン以外では、スタンダード、ラテンといったダンススポーツを所掌している。</p> <p>ブレイキンの現況については以下の通り。</p> <p>■ パリオリンピック</p> <p>2024 年のパリオリンピックの出場権をかけた(男女 16 名ずつ)、海外選考会が行われており、日本選手団を派遣している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内、国外合宿を実施し、強化選手の競技力向上</li> <li>・オリンピック審査員の審査力強化</li> <li>・情報戦略の活用。（世界ランキングの推移、競技の動画で競技者を分析し、その時々最適な解を見つけ出す）</li> <li>・助成金・補助金を活用し、事業を計画的に実施</li> <li>・オリンピックムーブメントを利用したスポンサーの獲得</li> </ul> <p>■ 強化</p> <p>強化合宿、練習会の実施。</p> <p>普段アーバンスポーツを行なっていると、会うことがあまりない専門家の講義などを実施。</p> <p>海外ゲストを招いてワークショップを実施するなど。</p> <p>2026 年のユースオリンピックに向けた準備</p> <p>■ 普及</p> <p>競技会の実施</p>

## カ パルクール

成り立ち	<p>起源は第一次世界大戦まで遡り、Georges Hebert（ジョルジュ・エベル）海軍将校によって作られ、フランス軍のトレーニングとして画期的に取り入れられていた Methode Naturelle（ナチュラル・メソッド）が元になったとされている。</p>
競技概要	<p>パークールは様々な障害物（オブスタクル）を、跳ぶ・飛ぶ・回る・越える・走る・掴む・振る・登る・降りる・捻るなどの動作を行いながら乗り越えていくスポーツで、その中でスピードや安全性、機敏性、流れ、そしてダイナミックさを競うものである。</p> <p>スタート地点からゴール地点まで、コース上のオブスタクルを超えながら、タイムを競う「スピード」、90秒間の中で技を最大限表現する「フリースタイル」といった種目が存在する。</p> <p>本場欧州では、学校教育にパークールの導入や、福祉面では高齢者向けのパークールレッスンの実施がされている。"</p> 
競技人口の動向	<p>日本パークール協会によると、日本国内におけるトレーサー（パークールの実践者）は3000人程度とされている。</p>
大会の開催状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FIG パルクール世界選手権@有明アーバンスポーツパーク</li> <li>・第3回パークール日本選手権@有明アーバンスポーツパーク</li> <li>・PARKOUR TOKYO CHAMPIONSHIP@TOKYO TORCH Park</li> <li>・TOKIO インカラム</li> <li>・presents PARKOUR PREMIER CUP@サッポロファクトリーホール</li> </ul>
常設施設の立地状況	<p>「パークール」は都市空間の様々な構造や躯体を障害物に見立て乗り越えていくものであり、常設施設を必要としないが、練習用に都市空間を模して障害物を設置した専門施設も数は多くないものの存在する。</p>

	
参考事例施設	<p>上記の一方、若年層向けのスポーツとしての展開としてニュースポーツ的にやや難易度を落とした形態としてパルクール鬼ごっこが誕生しており、2022年には日本初の常設施設として兵庫県西宮市にパルクールプレイハウスが誕生した。</p>

(2) 本市における状況（市民のニーズ/本市の資源）

■ ア スケートボード

<p>市内の取組み 市民の参加状況</p>	<p><b>「第 16 回 山形市民スポーツフェスタ」</b> 山形市、山形市教育委員会、公益財団法人山形市スポーツ協会によるイベントで、2023 年 10 月 8 日、山形市総合スポーツセンターにて開催。各種目の体験会が行われた。柔道のオリンピックとボルダリングのトップ選手が招かれ、また東北楽天ゴールデンイーグルスによる野球教室、モンテディオ山形によるファミリーサッカー教室、パスラボ山形ワイヴァンズによるバスケットボール教室も行われた。</p> <p><b>「KITAMACHI BASE Block party vol.1」</b> 2020 年 10 月 25 日、山形県山形市の「北町ベース」にて、スケートボードとアメリカンカルチャーをミックスさせたストリートイベントが開催された。</p> <p><b>「ENJOY GREEN CUP」</b> 2023 年 9 月 17 日に蔵王みはらしの丘スケートパークで、山形市スケートボード協会員の中学生が主催し開催された。10 歳代が多く、ほとんど市内からの参加者である。</p> 
<p>活動場所</p>	<p><b>「蔵王みはらしの丘スケートパーク」</b> 2014 年に完成。スケートボード、インラインスケート用の公共のパークで、1000 m<sup>2</sup>を超える東北地方でも屈指の広大な敷地面積を有する。使用料金は安く（大人 260 円、児童 130 円～※より安くなる回数券もある）、道具のレンタルも可能。毎週土曜日にはスケートボード体験スクールを開催。無料駐車場やトイレ、自動販売機、カフェなども併設され、快適に利用可能。スケボーニャンコというマスコットキャラクターがいる。 子どもから大人まで多くの利用者が訪れる。スケートボードパーク機能を有する「最上川ふるさと総合公園」と合わせて、年間約 1 万人が利用する ※2021 年 8 月時点。</p>

**「霞城公園 管理等前 駐車場」**

市民のニーズに応えるため、2023年10月7日より暫定的にスケートボードの利用に開放。管轄は山形市まちづくり政策部公園緑地課 施設維持係。

**「JOCKS NANO RAMP」**

スノー・スケート・サーフィンを扱うショップ「JOCKS（ジョックス）」が管理する、室内ミニランプパーク。



**「THE WEST BASE」**

12月～3月末までの期間限定パーク（2022年を以て終了）。除雪車の格納庫を活用したスケートボード施設。車両の出動で空いたスペースを活用する県の社会実験の一環で、受託した建設会社が運営を担う。



キーマン

**「伊藤選手 アジア大会銅メダル獲得」**

2023年09月28日、中国の杭州で開催されたアジア大会に出場した伊藤美優選手（山形城北高等学校）が、スケートボード女子ストリートで銅メダルを獲得した。2023年スケートボード女子ストリート強化指定選

手ランキング 1 位。ジョックス所属。



「日本スケートボード協会(AJSA)プロ 斉藤 剛 選手」

ジョックス所属。

「佐藤心晴 ( 山一中 ) AJSA 東北サーキット第 1 戦 第 3 位」

「工藤瑠香 ( 山九中 )」

#### 活動上の課題

競技力向上には毎日の練習が必須だが、みはらしの丘スケートパーク(屋外 17:00 閉場)では放課後及び雨天、冬季間は滑走できない。冬季の練習も可能で、子供達が毎日通って練習のできる市街地への全天候型練習場を必要としている。

山形県内にも山形市内にも公共の屋内 SKATEBOARD 施設が無いため冬季間の積雪や真夏の直射日光などからも影響を受けない全天候型の屋内施設が必要。また施設のハード面だけでなく施設を運営管理する方の育成も必要。スケートボードは子供達だけのものではなく、2020 東京オリンピック以降スケートボードへの認知もあって最近では 60 代の方や 40 代の女性の方の愛好者も増えている現状があることから施設や利用時間などを含めた住み分けも重要。

<p>市内の取組み 市民の参加状況</p>	<p><b>「双葉 COG (コグ) 開校式」</b> 2021 年、双葉小学校の利活用策を検討するためのプロジェクトとして、学びと遊びの自転車学校「双葉 COG」が開催された。プロロードレーサーの土井選手やプロ BMX ライダーの伊藤選手を招き、自転車を教えてもらう体育の時間をはじめ、家庭科の時間や音楽の時間など、学校の時間割にならったプログラムで小学校を活用した試み。</p>
<p>キーマン</p>	<p><b>「プロ BMX ライダー 伊藤敬大」</b> 山形市出身の、東北唯一のプロ BMX ライダー。本多アルミ株式会社で勤めながら全国の BMX 大会に出場し、2016 年度 KOG プロクラスラウンド 1 で 3 位の成績を収めた。また「山形に BMX を広めたい」という思いから、イベントでの BMX ショーを企画している。</p> 

<p>市内の取組み 市民の参加状況</p>	<p><b>「3X3 U18 日本選手権山形県予選大会」</b>          一般財団法人山形県バスケットボール協会主催。3x3 U18 エリア大会、日本選手権大会への出場権を得ることができる予選大会。2023年9月18日に、第10回大会が開催された。</p> <p><b>「バスケットボールアカデミー」</b>          山形ワイヴァンズによる活動。山形市内を含む県内複数個所で、スクールやユースチームの活動をしている。スクールは、幼稚園年中～高校3年生までが対象で、週一回の練習を基本とし、技術の習得と集団スポーツの活動を通しての礼儀やコミュニケーション能力を育成する。ユースチーム（U15・U12）は、週3～4回の練習を基本とし、世界水準の選手育成を目指し、将来、ワイヴァンズのトップチームで活躍できる選手を育成する。※山形ワイヴァンズ HP に3x3 について個別の記載は無いが、年間スケジュールに「《U15》3x3 日本選手権 U18 山形予選会」が入っているため、それに向けた指導をしている可能性がある。</p> <p>また、2019年10月19日にイオンモール天童駐車場スペースで行われた NHK スポーツパーク 3x3 バスケットボールパークにも、地域活動として参加している。</p>
<p>活動上の課題</p>	<p>市内の競技人口をもっと増やしたい（山形県バスケットボール協会）。</p>

エ スポーツクライミング

<p>市内の取組み 市民の参加状況</p>	<p><b>「第 16 回 山形市民スポーツフェスタ」</b> (再掲のため内容省略)</p> <p><b>「The North Face Cup」</b> 毎年、FLAT bouldering を会場に The North Face の主催により開催されている。20 歳以下が多く、とりわけ小中高生が多い。市内からの参加者は全体の 10%以下程度。</p> <p><b>「FLAT bouldering 主催大会・イベント」</b> FLAT bouldering が主催で不定期開催。大会は 20 歳以下が多く、イベントでは少し年齢層が広がり 30 歳代もみられる。大会は地元参加が 30%程度、イベントは 50%程度。</p> <p><b>「BOULDERING HOUSE 358 主催コンペ」</b> BOULDERING HOUSE 358 が主催で開催。20 歳以下が多く、地元参加は 50~70%程度。</p>
<p>活動場所</p>	<p><b>「FLAT bouldering」</b> 平松幸祐（キーマン欄参照）が手がけるボルダリングジム。大会やイベントを企画・開催している。2019 年 11 月 2 日の「SPORT CLIMBING JAPAN TOUR 2019 ボルダリング 第 3 戦 FLAT 大会」（公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会）は、このジムで開催された。</p> <p><b>「BOULDERING HOUSE 358」</b> 会員制のボルダリングジム。BOULDERING HOUSE 358 が運営。体験会や上級者向けスクールも開催している。</p> 
<p>キーマン</p>	<p><b>「工藤選手 スポーツクライミング入賞」</b> 2020 年 11 月 24 日、工藤花選手（山形城北高等学校）が、スポーツクライミング第 6 回ボルダリングユース日本選手権葛飾大会に出場し、女子ユース A（2003・2004 年生まれ）の部門で第 2 位となった。</p> <p><b>「IFSC 国際ルートセッター 平松幸祐」</b> 国内に 5 名しかいない、IFSC 国際ルートセッター。</p>

	<p>「工藤 空（城北高校） FISE World Series Hiroshima 2019（国際大会）第8位」</p> <p>「栗田 瑛真（城北高校）第8回ボルダリングユース日本選手権倉吉大会 第6位」</p> 
<p>活動上の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的に大会は県外で行われる為、選手への遠征費負担が課題</li> <li>・山形県山岳連盟のスポーツライミングへの協力が必要</li> <li>・山形市のボルダリング人口（特に子ども）が増えない</li> <li>・スタッフ不足</li> </ul> <p>（全て、山形市山岳連盟 意見）</p>

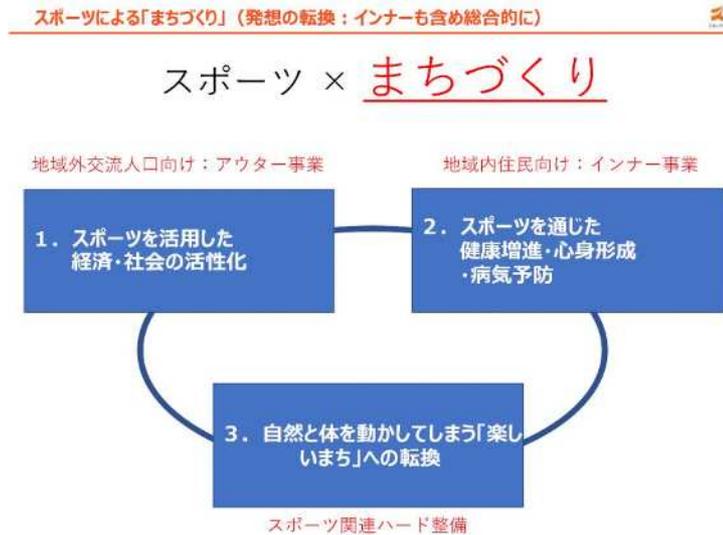
<p>市内の取組み 市民の参加状況</p>	<p><b>「第 16 回 山形市民スポーツフェスタ」</b> (再掲のため内容省略) <b>「やまがたストリートダンスの日 2024」</b> 山形県総合文化芸術館 指定管理者みんなぐるやまがた（公益財団法人山形県生涯学習文化財団、公益社団法人山形交響楽協会、サントリーパブリシティサービス株式会社の三者からなる共同事業体）主催。 2024 年 2 月 24 日、やまぎん県民ホールで開催。県内ダンススタジオメンバーやオーディションで選抜されたメンバーによる SHOWCASE のほか、パリ五輪で正式種目となり注目を集めるブレイキン・バトルも開催。公演に先駆けて、オーディションやワークショップも実施する。</p>
<p>活動場所</p>	<p><b>「dance studio MPF」</b> 山形市・東根市にあるダンス&amp;エンターテインメントの総合スタジオ。dance studio MPF が運営。代表は MAKO。山形校、東根校がある。初心者から上級者まで、オールジャンルのストリートダンスレッスンを提供している。 <b>「BEAT FACTORY」</b> 未経験者をダンサーに育てることを得意とするスタジオ。BEAT FACTORY が運営。山形・米沢・寒河江と、県内 3 か所のスタジオでダンスレッスンを行っている。幼児クラス・小学生低学年クラスもある。 <b>「ダンススタジオ ブリリアン」</b> ダンススタジオ ブリリアンが運営。ダンスレッスンのみならず、エアロビクスやバランスボール等のフィットネスレッスンも充実したスタジオ。</p>
<p>キーマン</p>	<p><b>「JDSF 山形県連盟（山形県ダンススポーツ連盟）」</b> 県内市内の様々なダンススポーツによる地域振興を行っている。 <b>「尾形胡桃選手」</b> 山形市出身。第 3 回全日本選手権（2022 年）ベスト 8。ダンサーネームは miru-k。</p>
<p>活動上の課題</p>	<p>ダンススタジオ以外の活動場所の不足※床の瑕疵の懸念などから公民館等の一般開放を断られるケースが多い（JDSF 山形ブレイキン部）</p>

## カ パルクール

市内の取組み 市民の参加状況	<p><b>「パルクール体験会」</b> 2022年6月11日、蔵王みはらしの丘ミュージアムパークで開催された。県内の小学生らが、パイプで作った障害物に上ったりぐったりする技を練習しながら思い切り体を動かした。Boldering house 358 が主催。</p> <p><b>「【copal×APLS×市民ワークショップ】スポーツマルシェ」</b> 2023年10月9日、山形市コパル（南部児童遊戯施設）で開催された。幼稚園児～小学生を対象にしたパルクール体験などが行われた。</p>
-------------------	--

### 3 普及方針

冒頭に記載の通り、第3期スポーツ基本計画においては、「スポーツによる地方創生・まちづくり」という政策の柱を掲げており、それは地域内住民向けのインナー事業と、地域外交流人口向けのアウトター事業の両輪、またそれらの装置としてのハード事業によって推進されるものとしています。



図表 8 地方の視点での国の計画の見方（スポーツ庁 HP）より

本方針においても、若者の地元定着や地元愛の醸成等の効果を期待するインナー事業としての側面、アーバンスポーツをフックとしたスポーツツーリズムによる地域経済の活性化の一助としてのアウトター事業の側面、それらの実現のためのハード整備の必要性や可能性の検討が含まれています。

本市においては、人口問題への解決策としての文脈によるアーバンスポーツ振興であるため、上記すみわけのうち、インナー事業が 1 丁目 1 番地であるという整理のもと普及の在り方を模索し、副次的あるいは将来における発展的な視点としてのアウトター事業についても補足的に可能性を検討するものとします。その際、社会性の強いインナー施策と、経済性が強いアウトター施策では、事業効果の尺度も異なることに留意が必要です。

また、各種アーバンスポーツ種目を、どのように普及していくかを整理するにあたり、イベント開催やしきみづくり等ソフト面での対応と、施設の改修・整備等のハード面での対応それぞれにどのような方法・可能性があり得るかを検討します。

なお、前ページまで 6 種目の競技を対象に現況を整理していますが、インナー施策の普及方針を検討するうえでは、諸条件や市内ステークホルダーの親和性が高い、「スケートボード・BMX」と「クライミング・パルクール」は統合し、4 区分 6 種目の形で整理するものとします。

さらに、アウトター施策としての普及方針は上記 4 区分 6 種目のなかでも、現時点での本市のポテンシャルや競技者のニーズを鑑みたくえで比較的可能性がある「スケートボード」と「クライミング・パルクール」の 2 区分 3 種目について整理します。

## (1) インナー施策としての普及方針

### ■ ア スケートボード・BMX

#### ア) 市の現状

スケートボードにおける地元の注目選手としては、高校1年生の伊藤美優選手が、去年の全国大会で優勝して、有明で行われているワールドスケートジャパンというオリンピック選考会にも参加しています（決勝進出）。JOCKS の斉藤 剛選手も大きな存在ですが、現在は伊藤選手のようなさらに若手の選手が競技振興のけん引役になってきており、さらに下の世代の小学生、幼稚園児が彼ら彼女らに憧れて競技を始めるという盛り上りをみせています。

現状、スケートボードをする場所として、みはらしの丘や、寒河江スケートパークなどがありますが、子どもが一人で行きやすい環境とは言えない状況です。また、積雪により通年利用に課題（できない、またはできるようにするためにはお金がかかる）があります。

BMX については、旧双葉小学校での活用策として、自転車教室に東北唯一プロ BMX ライダー伊藤氏を招いての普及が図られています。



みはらしの丘スケートパーク

## イ) 市民ニーズ

市の協会員では、大規模な大会に出場しているメンバーを有しており、東京都立川市で行われた全国大会（マイナビ日本選手権）や、新潟県村上市で行われている全米の予選会（DAMN AM JAAPAN）のような国際大会にも参加しています。このような水準の競技者にとっては、施設の質が本市での活動の一番のネックであり、現状冬季はスキルアップのために、村上市のスケートパークまで通って、全国水準にある施設で練習している状況で、全ての親が送り迎えに時間を割けるわけではないことを鑑みると、競技人口を増やし、よりトップ選手を輩出していくためには市内への屋内施設整備の需要は高いものと考えられます。

また、そこまでの高水準な競技者でない、愛好レベルの競技者にとっても、スケートができる場所までのアクセス性は極めて重要です。例えば、みはらしの丘は 17 時に閉所するため、16 時半に学校が終わってから、公共交通を乗り継いで向かっても時間内に辿り着けないことになり、親の送迎が前提な環境となっています。

年度	利用者数
令和3年度	4,729 人
令和4年度	6,011 人※寒河江市パーク改修期
令和5年度	3,625 人

図表 9 山形市 蔵王みはらしの丘スケートパーク利用状況

また、施設や場所の量や質が不足・不十分であることの弊害も顕在化しています。令和5年度秋に、本市が実施した事業で、霞城公園の駐車場をスケートボード利用に開放しましたが、元々同公園には、地域の愛好家に有名なスポット（滑走が許可されていないスポット）が園内の別の箇所にあり、低年齢層の子どもが市の事業の枠の中で楽しんでいる横で、高校生年代などが禁止エリアを滑走していると地域住民からの指摘もありました。このことを踏まえると、施設・場所の量の不足により、愛好家が他人の迷惑になりかねない環境で滑走してしまうということはもちろん、質についても一定程度担保しなければ、量の補填にはならないことが窺えます。具体的には、まとまった広さのある舗装空間を開放するだけでは、愛好家のニーズは満たされず、段差や傾斜等、パークにおける「セクション」にあたる、障害物（階段や手すり等）の存在も求められる要素であると言えそうです。



霞城公園の立て看板

ウ) 普及方針

他種目にも言えることですが、特にスケートボードにおいては、普及方針を策定するにあたって、愛好家を増やすことを目指すのか、全国大会出場レベルの競技者を輩出することを目指すのか、というターゲット設定の視点が重要です。それによって、以下に示す、ハード面での対応の程度が大きく変わってくるものと考えられます。①「場所が必要である」ということが第一義であり、次いで、それらを補完する②「アクセス性やルール等のしくみが必要である」ということは競技者のレベル・水準に関係なく言える共通事項と言えますが、とりわけ現状ルールやしくみ等秩序に縛られていない愛好家層にこそなんらかの手立てが必要です。

これらを踏まえ、以下のような形で普及を図っていくことが考えられます。

ソフト	<p>&lt;ターゲット：愛好家&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ベニちゃんバス等交通施策との連携（子どもが一人で通える仕組みづくり）</li> <li>・ 騒音や威圧感等、他者にとっての迷惑になる行為を明確化したうえで、コントロールのための地域ルールづくり（特に競技的志向が強い若者よりも、都市空間で自由に行うストリートカルチャーとして概念が根付いている上の年代において、ルールが必要）</li> </ul> <p>&lt;ターゲット：愛好家&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 強化費の増加（県外遠征の助成）等の検討</li> </ul>
ハード	<p>&lt;ターゲット：愛好家&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アクセス性担保と、居住・勤労空間等、他者の日常生活の妨げになりにくいことのバランスのとれた環境整備の検討（この際、前述のとおり一定程度の質が伴わないと場所の確保にはあたらないことから、より多くの愛好家・競技者のニーズを満たし得る可動式セクションの採用を検討）</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>【可動式セクション】</b>            競技レベルに合わせて高さ等を調節できるセクションのこと。日常的な開放の際にはリスク管理として難易度を下げ、大会や週末開放等管理人をおけるタイミングでは難易度を上げる等の運用が可能。            またキャスター付きの移動可能式のセクションもあり、夏は舗装のみ綺麗にしたオープンスペースへの設置、積雪のある冬季は、大型倉庫等屋根の下や屋内に移動して活用する等の運用が可能。</p> </div> <p>&lt;ターゲット：競技者&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高水準な屋内施設整備の検討（詳細はアウター施設の普及方針で後述）</li> </ul> <p>※BMX はスケートボードと概ね同様の環境で楽しめますが、大会会場等本格的な環境としては、スケートボードよりやや大型の規格となります。</p>

## イ 3X3

### ア) 市の現状

本市ではないものの県内では、鶴岡市内高校チームの東日本大会優勝実績や米沢市内高校チームの全日本優勝実績があり、そのタイミングでは盛り上がりを見せるものの、その波を継続的に保てていない状況にあります。

一方で、3X3はオリンピック種目であり、オリンピック出場が目指せるレベルの本市の高校出身者がおり、今後競技そのものの、またキープレイヤーとして本市所縁の選手の露出が高まれば、熱が高まる可能性もあります。その他、本市が本拠地の一つであるパストラボ山形ワイヴァンズの存在や元 W リーグ（女子バスケットボール日本リーグ）選手で、協会アンバサダーであり、3X3女子日代表コーチも務める大神氏の存在等、キーマンとなり得る存在もいます。

ただし、現状では以下イ)に記載のとおり、大きなニーズがあるとは言えず、環境整備も不十分な状況にあり、県大会でも専用コートはなく、5人制コートを半分に仕切って開催しています。また、市内には専用コートではないものの、バスケットボールリングが附帯される公園が存在しますが、スケートボード同様、騒音問題と隣り合わせであり、公園によっては住民からの苦情でリングが外されてしまったケースも発生しています。

No.	公園の名称
1	西公園
2	若宮公園
3	馬見ヶ崎河川公園（天神町公園）
4	馬見ヶ崎河川公園（釈迦堂公園）
5	馬見ヶ崎河川公園（沖町公園）
6	沖西公園
7	蔵王美原公園

図表 10 山形市 屋外バスケットボールコート一覧（リングのみ含む）



西公園のバスケットボールコート増設工事

## イ) 市民ニーズ

5人制の通常のバスケットボールにおける競技人口は、安定的かつ、近年においてはワールドカップ等の影響で人気が高まっている状況にある一方で、3×3に関しては、前述のとおり不安定な状況です。全国大会に繋がる県予選を開催しても、一般カテゴリーの出場希望は1チームのみ(そのままストレートに全国大会に出場)、U18カテゴリーにいたっては、山形市内の高校生が参加したことはこれまでないような実情にあります<sup>1</sup>。

このように、3×3はまだニーズが高いとは言い難い状況です。一方で、岩手県一関市などでは、大きな体育館の脇の公園のような広場に、3×3コートが何面もあり、そこで遊んでいる子ども達で賑わっている状況を鑑みると、特別バスケットボールが盛んである地域でない東北地域でも一定数需要は存在するものと考えられます。上記のとおり、本市にも既に屋外コートは相応に存在しますが、より数や質、立地条件等が向上すると、競技振興の加速化につながることを期待されます。



西公園のバスケットボールコート増設工事（一関市の事例）

<sup>1</sup> ワイヴァンズのユースチームが出場したことはあるが、あくまで活動のメインは5人制バスケットボールで、3人制に積極的なわけではない模様。

## ウ) 普及方針

3X3は、日本バスケットボール協会の傘下にあります。協会の方針として、「バスケットボールのキッズサポーター養成」というものがあり、方策の一つとして、3X3を幼児からシニアまで気軽に楽しめるスポーツとしてPRし、競技者増につなげていきたいという思惑があります。

また、バスケットボールと3X3間では戦術戦略も異なるので、本格的な競技転向はそこまで多くないものの、バスケットボール競技者の個人のスキルアップのトレーニングとしての可能性が考えられます。

このように、3X3は、①低年齢層にとってのバスケットボールへの入り口として、②学生年代や競技者のトレーニングメニューとして、③社会人や高齢者が、生涯スポーツとして再度始める際の“再入場口”として、普及啓発の可能性があるものと考えられます。したがって、サッカーにおけるフットサルや、ゴルフにおけるグラウンド・ゴルフのように、親和性の高い派生元競技との連携やすみ分けのもと進めていく必要があります。

これらを踏まえ、以下のような形で普及を図っていくことが考えられます。

ソフト	<ul style="list-style-type: none"><li>・ バスケットボール等と連携した普及啓発のためのイベント開催への助成の検討</li><li>・ プロバスケットボールチームやアンバサダーとの連携による競技の露出</li><li>・ 生涯スポーツとしての振興</li><li>・ 騒音等、他者にとっての迷惑になる行為を明確化したうえで、コントロールのための地域ルールづくり</li><li>・ ベこちゃんバス等交通施策との連携（子どもが一人で通える仕組みづくり）</li></ul>
ハード	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 公園等に附帯されるコートなどの量的・質的整備（増設やコートラインの塗装等）の検討</li><li>・ 駅周辺や自転車移動可能圏等、子どもがアクセスしやすい場所へのコート整備</li><li>・ プロチーム等の民間活力や、「スタジアム・アリーナ構想」等の国策を活用した屋内施設の整備検討</li></ul>

## ウ スポーツクライミング・パルクール

### ア) 本市の現状

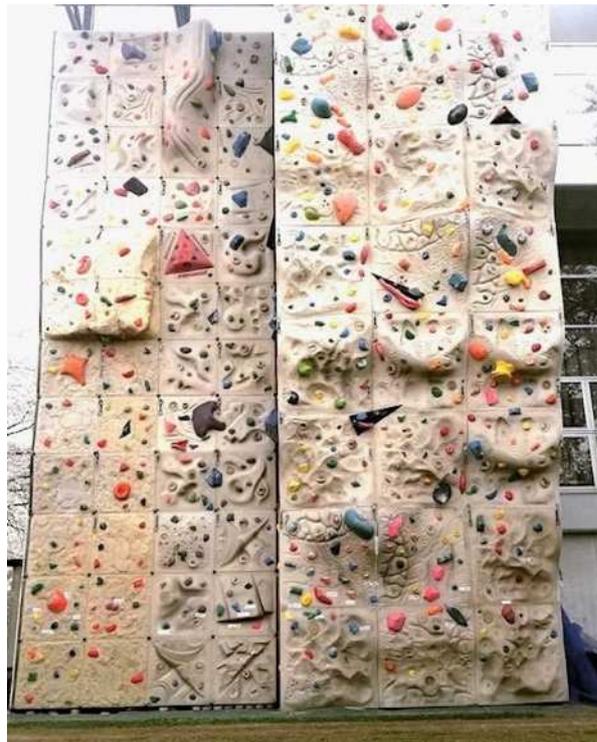
クライミングは本市における低年齢層の競技レベルが高く、本件の対象競技の中で唯一国体競技であり、県下で唯一国体において少年男子少年女子の部で入賞した競技であることから、県からの強化費もが手厚く、今後さらに強化を充実していく見込みです。

工藤花選手が世界ユースで3位に入賞、その他、国体少年男子の部で本市の中学3年生、天童市の高校1年生が入賞するなど、若年層のキーマンが多いことから伸びしろもあり、この先中長期にわたって成果が期待できる競技です。

一方で、全国的な傾向としては、一時期のブーム期から比べると競技人口は頭打ち気味なこともあり、連盟が管理運営を任されている天童市の県総合運動公園リード壁で体験会等展開、民間ジムによる幼稚園児向けのクライミング施設整備等、新たな競技者の確保や育成にも精力的です。

パルクールにおいても、本市児童遊戯施設コパルにて園児～児童の体験イベントを行っており、人気を博しています。

競技の性質上、指導者数が少ない構造であり、低年齢層の競技振興においては、必ずしも専門家ではない親たちを中心とした体制で組織しているため、体制面の脆弱さがあります。



山形県総合運動公園リード壁

## イ) 市民のニーズ

ア) には競技人口が頭打ちと表現したが、残っている競技者も一定数おり、ある意味でジム・競技者共にライト層が淘汰され、愛好家の純度が高まったという見方もできます。

なお、クライミングにはボルダリング・リード・スピードと3種類あり、それぞれ市民ニーズの年齢層の違いがあります。ボルダリングはダイナミックで大きな動きがあり若い層に人気、リードはメンタルが重要な競技で年配層に人気、スピードは市内に施設なく、あまりニーズもない状況です。

## ウ) 普及方針

関東の大きなジムでは年配者が漬物を持ち寄って、おしゃべりしながら休み休み丸1日楽しむような光景も見かけるほどであり、幅広い年齢層に訴求するスポーツです。スポーツクライミングは本普及方針における他の対象競技に比べ、対象年齢が幅広く、さらに他の競技のトレーニングメニューとしても有用（アウター施策として後述）で、他の競技よりも公共性が高いと言えます。

スポーツクライミングは部活がなく、部活動加入が必須な学校では、別の競技の部活や文化部に入り、週末はジムでクライミングという子もいるが、段々と部活動を優先せざるを得なくなりクライミング競技から離れていってしまう流れが常態化しています。ただでさえ競技人口が少ないなかで、制度や環境的な要因で他のスポーツに流れてしまうことは非常にもったいなく、中学校への進学後もクライミングを続けられる選択肢を用意することが必要です。

これらを踏まえ、以下のような形で普及を図っていくことが考えられます。

ソフト	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 幅広い年齢層をターゲットとした普及</li><li>・ 部活動の地域移行・連携等の流れに合わせ、進学による競技を諦めずに続けられる環境づくり</li><li>・ 他競技のトレーニングとしての展開</li><li>・ 学生年代の競技力強化</li></ul>
ハード	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 市外施設や民間ジムとの有機的な連携</li></ul>

## エ ブレイキン

### ア) 本市の現状

以前は全国から集まるような大会も定期開催されていましたが、コロナによって大会に関わる主要な連盟スタッフが仕事の都合で県外に流出してしまったこともあり、思うように開催されていませんでしたが、今年度山銀ホールで開催されるダンスの日のなかで、東北各県の代表を招待選手として招聘し東北ナンバー1を決めるブレイキンの大会も催されることとなっており、山形からも4人の選手が出場しました。

過去には日本一になった選手も輩出しており、近年では全国選手権に3年連続出場している尾形選手等が世界を狙える若手が台頭してきています。

その他国内のダンスプロリーグであるDリーグでは、山形県でブレイキンを軸に育った選手が昨シーズン総合優勝を果たしています。

一方、イ)に記載のとおり、活動場所が潤沢とは言えない環境下であり、山形で育った選手も、高校進学タイミングなどで、場所や機会、仲間が豊富な東京大阪に憧れて出ていってしまうことも少なくありません。本市においても、今から20年ほど前には山形駅の自由通路で若者が、暗黙の了解と自分たちに課したルールに基づき踊っていましたが、競技人口が爆発的に増えたタイミングで、利用者間でのコントロールが効かなくなり、通行の邪魔やごみ問題などでクレームが顕在化して使用禁止になってしまった経緯があります。



山形駅前

#### イ) 市民のニーズ

普段の活動場所として、市内に4～5店舗ほど民間スタジオがありますが、他ジャンルの方々の練習やレッスンで枠が埋まってしまっている状況にあり、競技者は慢性的に場所の確保に苦慮しています。ブレイキンは場所を広く使う踊りであるため、例えば他ジャンルであれば10人で利用できる部屋の大きさでも、ブレイキンだと3人でも狭いと感じてしまうほどの感覚です。

設備として大きな鏡が最低限必要なだけで、音量なども場所に合わせて調整が効く要素も多く、最近では小中学生を中心にコミュニティセンター需要が高まっています。しかし、競技者からするとコミュニティセンター等でも活動場所として十分である一方、施設側が、床の瑕疵（回転する際の靴跡が床についてしまうこと）を懸念し難色を示し、利用禁止になってしまうケースもあるようです。地域によっては、利用者がフロアマットを自分たちで買って使用許可を取り付けた話も聞かれますが、結局踊っているうちにマットがずれてきて傷つけてしまって、最終的には禁止となってしまっています。コミュニティセンターで活動できると、子ども達自らで通うことができ親の送迎負担が減るため、床の傷問題は寛大にみもらいたいという声が挙がっています。

#### ウ) 普及方針

溝の口駅（神奈川県川崎市にある東急電鉄の駅）のような聖地と呼ばれる場所や、東京大阪のようなクリエイティブな強い選手が多い地域のこれまでの経過を参考にすると、先人たちが地域住民との良好な関係性を築けていると、練習場所もしっかり確立できているケースが多いことが窺えます。

本市においても東京大阪にあるような環境が1箇所でもあると、ストリートカルチャーは文化なので、自分たちの育った環境・ホームグラウンドを非常に大事にし、特別の外因が生じなければ、基本的には同じところで活動する傾向にあり、本普及啓発策定主旨でもある「定住」という狙いに大きく貢献することが期待されます（スケートボード等にも同様のことが言えます）。



溝ノ口駅

さらに有名な選手が輩出されてくると、「どどこは誰々の指定席」「誰々はどどこで育った」のような認知が広まって、聖地化がなされ、憧れた子たちがさらに集まってくる循環が生まれます。前述の溝の口駅がまさにそのような経緯であり、川崎市ではこうした効果を認め、市としてストリートカルチャーを文化振興としてバックアップしており、さらにその後押しが世界大会3連覇するような選手の輩出につながり、さらなる好循環を生んでいます。この状態になると、地域からも「どうぞ使ってください」という、まさに市民権を得るまでに至るようです。

溝の口駅では、「点字ブロックより窓側で踊ってそこから出ない」や「決められた時間帯しかやらない」等の暗黙の地域ルールが脈々と紡がれており、よほどの大事にならない限りは住民からのキックアウト（追い出すこと）の声が拳がったり、警察の動員がなされるような事態にはならないようです。

これらを踏まえ、以下のような形で普及を図っていくことが考えられます。

ソフト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ベニちゃんバス等交通施策との連携（子どもが一人で通える仕組みづくり）</li> <li>・ 騒音や威圧感等、他者にとっての迷惑になる行為を明確化したうえでの、コントロールのための地域ルールづくり</li> <li>・ 郷土愛醸成に向けた文化振興事業としての活動支援</li> </ul>
ハード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 床の管理に関する正しい知識の啓発と管理にかかる補助や助成の検討</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【スポーツ場づくり～地域の身近なスポーツ施設の安全管理～】</p> <p>スポーツ庁では第3期スポーツ基本計画のなかで、屋内スポーツ施設において、床の瑕疵への懸念から車いすスポーツの競技者の利用が不当に断られる（実際には健全者の利用と躯体にかかる負担は大きくは変わらない）という事案を問題視しています。一方で、床板の剥離による不祥事故の危険性についても触れつつ、適切な理解と管理の必要性を訴えつつ、対応する技術の紹介等を進めています。</p> </div>

## (2) アウター施策としての普及方針

### ■ ア スケートボード

#### ア) 市の現状（インナーに記載した内容の再掲）

スケートボードにおける地元の注目選手としては、高校1年生の伊藤美優選手が、去年の全国大会で優勝して、有明で行われているワールドスケートジャパンというオリンピック選考会にも参加しています（決勝進出）。JOCKS の斉藤 剛選手も大きな存在ですが、現在は伊藤選手のようなさらに若手の選手が競技振興のけん引役になってきており、さらに下の世代の小学生、幼稚園児が彼ら彼女らに憧れて競技を始めるといった盛り上りをみせています。

現状、スケートボードをする場所として、みはらしの丘や、寒河江スケートパークなどがありますが、子どもが一人で行きやすい環境とは言えない状況です。また、積雪により通年利用に課題（できない、またはできるようにするためにはお金がかかる）があります。

BMX については、旧双葉小学校での活用策として、自転車教室に東北唯一プロ BMX ライダー伊藤氏を招いての普及が図られています。

#### イ) 競技者ニーズ

スケートボードの全国大会が行われる会場は開催都市によって場所が異なりますが、競技のレベルや難易度が上がるにつれて、風の影響など天候に左右されないことの重要性が高まるため、屋内が選ばれやすい傾向にあります。オリンピックなどは屋外開催なもの、最近の多くの国際大会や全国大会において屋内開催が主流となっています。

その際、パーク（コース）の設計者や施工会社によっても微妙にコースの特性が異なるため、1年も前から大会会場を拠点に調整のための長期滞在するケースもあります。

なお、アメリカなどでは開催地の選定基準としてパーク（コース）の質が占める割合は極めて大きく、質の良いパークの有無で開催地が決まってしまうと言っても過言ではありませんが、現状、日本国内では村上市の屋内パークしかその水準にないような状況です。

結果的に全国大会に出場してプロになるような子どもたちは、自地域以外のそのようなハイレベルな施設環境で練習してきた子どもたちばかりの状況です（本市の伊藤選手も県外での活動が多い）。



村上市スケートパーク

## ウ) 普及方針

本方針対象競技のなかでも突出して競技人口が多いことから、市場性は最も高いと言えます。また「する」・「みる」いずれも誘引の要因となり得ることからもアウトター事業としてのポテンシャルは認められます。

ただし、もし舵を切るのであれば、国際大会誘致できる水準のものを用意することが有益であり、中途半端なものでは、かえって無駄な投資になりかねないと言えます。パーク自体や設計者の質が訪問の動機となるため、昨今全国的に行政主導のパーク建設ラッシュとなっていますが、見様見真似で作って失敗しようものなら、悪い評判が広まって、次第に誰も来なくなってしまうことも十分あり得ます。

逆に、国際水準の施設を整備できれば国際大会の誘致により、開催時の観客の観光需要や大会前の競技者の中長期滞在需要で、宿泊費や飲食費等地域へ与える経済効果は小さくありません。ひいては、本格的な環境の近くで生活したい若手競技者の移住等にもつながる可能性もあります。現状村上市にしか国際水準を満たす施設がないことを好機と捉え、山形市が同等の存在として、国際大会開催地として2地域目の候補に名乗りをあげるという考え方もできます。

また、アウトター事業の側面を考える施設整備方法においても、「可変式」の有用性が挙げられます。例えば大会の予選・本戦によって必要となるコース（セクションの高さ等）が異なるため、近年は世界水準のパークでも可変型セクションが主流になりつつあります。今年（令和5年）全国大会を開催した東京都立川市での大会でもハンドレールの高さを変えられる可変式のセクションを採用しています。

これらを踏まえ、以下のような形で普及を図っていくことが考えられます。

ソフト	<ul style="list-style-type: none"><li>・ （ハード整備がなされた場合）施設と観光拠点（宿泊・飲食・観光スポット）との連携・送客強化</li><li>・ （ハード整備がなされた場合）移住施策との連動</li><li>・ 大型大会（またはイベント）の誘致活動</li></ul>
ハード	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 国際水準の屋内施設整備の検討</li><li>・ 世界的ビルダーの招致</li><li>・ 可変式セクションの導入</li></ul>

## イ クライミング・パルクール

### ア) 市の現状

インナーに記載の内容に加え、国内5名しかいない国際ルートセッターがいることも本市の有するポテンシャルです。スケートボード同様、コースそのものやコースビルダーが訪問動機になる可能性があり、国際ルートセッターが組んだコースを売りにジムや大会に誘引できる可能性があります。

また、詳細は公表前であるものの、現在寒河江市に高さ15m級の国内最大壁を有するジムの整備が進んでおり、令和6年4月にオープン予定となっています。

その他、スポーツクライミングの起源である岩登りという視点に立ちかえれば、本市には東北最大級の岩場であり観光地である「山寺」があり、実際宮城や福島からの遠征者も多く訪れます。

### イ) 競技者ニーズ

上記ア)に記載のポテンシャルはそれぞれ外から人を呼び込み力のある資源であると言えます。

その他、クライミングはクライミング競技者以外からのニーズも存在します。数年前に東京都杉並区（荻窪）のジムが柔道日本代表の強化練習で使われたケースもあり、本市内ジムにおいてもスキー競技者が夏季トレーニングとしての利用や、山形大学陸上部による定期的なトレーニング利用の実態があり、他競技者のトレーニングとして、合宿誘致等の形態のスポーツツーリズムとの組み合わせの可能性が考えられます。

また、今年、TBS系『SASUKE』を基に考案された障害物レースを新たに加えた近代五種が2028年ロサンゼルス五輪の実施競技として採用されることが決定しましたが、「SASUKE」に出場者している県出身の多田氏が天童市の壁で練習したこともあり、今後SASUKEやパルクールが競技性を高めて知名度を上げていくことで、そのトレーニングとしてのクライミングという相関も益々強まるものと考えられます。



SASUKEに出場する山形県庁職員

### ウ) 普及方針

本競技におけるアウトター施策については、「山形市にクライミング競技者を集客する」という限定的な考え方ではなく、寒河江市や天童市と連携のもと、国内最大級の施設や国際ルートセッターの存在に魅力を感じるクライミング界のトップオブトップから、山寺を目指す外岩クライマー、トレーニングメニューとして取り入れる他競技者等、幅広いターゲット設定のもと、展開していくことが有用そうです。

これらを踏まえ、以下のような形で普及を図っていくことが考えられます。

ソフト・ハード	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 周辺市との連携組織（会議体等）の設立</li><li>・ 大規模大会の開催</li><li>・ スポーツクライミングと外岩クライミングの交流</li><li>・ 体育大学等と連携したトレーニング効果等の研究・メニュー開発</li></ul>
---------	--

### (3) 総括

アーバンスポーツは「するスポーツ」としての側面の他に「みるみせるスポーツ」としての要素も強く、特にスケートボードやブレイキンなどはお客さんも観て楽しめるものであるため、駅前に特設会場を設けて開催する FISE 広島のような人が集まる場所で、色々な協議を魅せることができると普及啓発として効果的です。

また、イベント開催を検討する際、スポーツ好きな人が集まるスポーツイベントの一幕でアーバンスポーツを紹介するという発想ではなく、スポーツに限らず様々な人が集まるイベントにアーバンスポーツを露出していくという発想が効果的であると考えられます。例えばこどもの日のイベントで七日町を歩行者天国にする際に、3X3 コートを設置したり、スケートボードのセクションを設置したり、複合的に色々な競技を楽しめる形で、地域の子どもや家族連れに体験してもらえる形式にすると非常に盛り上がるものと考えられます。また、その第一歩として、関連団体やキーマンによる協議会のようなものを発足させることも一案です。



FISE 広島

## 4 活動環境整備の事例

### (1) 全国レベルの大会開催や、市民に利用されている施設

#### ■ ア 「夢の島スケートボードパーク」東京都

江東区「夢の島公園（夢の島総合運動場）」内に 2022 年 11 月にした公共スケートボードパーク。江東区出身の堀米雄斗選手が金メダルを獲得したことで、地元でもスケートボードの人気の大いに高まったことが誕生の契機となった。総面積 2400 m<sup>2</sup>で、その広さは都内でも屈指の規模。初心者エリアと中級者エリアに分けられており、幅広いレベルのユーザーが楽しめる構成となっている。

2022 年 11 月スポーツ振興くじ助成金を受けて新設。江東スポーツ施設運営パートナーズが運営。



#### ■ イ 「ZOZO マリンスタジアム」千葉県

X Games Chiba 2023 や CHIMERA STREET JAM が開催されている。

1990 年にオープンした千葉市美浜区にある千葉市が所有する野球場。

### ウ 「ムラサキパークかさま」茨城県

笠間芸術の森公園あそびの杜内にオープンした、ムラサキスポーツが手がけるスケートパーク。パーク面積は 17,800 m<sup>2</sup>（進入路や駐車場を合わせた全体では 25,200 m<sup>2</sup>）と広大で、スケートボード・BMX・インラインスケート・フリーボード等がプレイでき、体験会も開催している。子どもや初心者からトップ選手まで練習に訪れる。2023 年 1 月、オープン 2 年目にして入場者数 3 万人を突破した。

県営都市公園内に 2021 年 4 月に開園。指定管理者制度を導入し（独立採算制）ムラサキスポーツを選定した。



### エ 「境町アーバンスポーツパーク」茨城県

フランスの HURRICANE 社が設計と建設を行った、日本初・世界大会レベルの常設パーク。マイナビ JapanCup（BMX フリースタイルパーク）や JASPA2021PARK（インラインスケート）、第 1 回全日本選手権 JASPA2022PARK（インラインスケート）が開催されている。

2021 年 3 月に完成し 5 月にオープン。ABC プランニング株式会社が指定管理者。総事業費約 2 億 2,400 万円のうち、地方創生拠点整備交付金 50%（約 1 億 1,200 万円）、地方交付税措置額 25%（約 5,600 万円）、町の持ち出し 25%（約 5,600 万円）



## オ 「村上市スケートパーク」新潟県

村上市生涯学習課スポーツ推進室が管理。年間約1万人の利用者のうち、18歳未満が6、7割を占める。雪国のため屋内型の施設としており、屋内施設では国内最大規模。世界を目指すスケートボード選手を育成する拠点にも活用し、「スケートボードの聖地」を目指す。他に、ボルダリング、スラックラインも体験可能。2023年10月に「AJSA全日本アマチュア選手権大会」（スケートボード）開催。

スポーツ振興くじ助成金を活用し「村上市スケートパーク建設事業」（助成予定金額1,600万円）として実施。さらに企業版ふるさと納税の制度を活用して「スケートボードの聖地『むらかみ』プロジェクト」を実施している。



## (2) 既存施設を活用した環境整備

### ア 「有明アーバンスポーツパーク」東京都

東京 2020 大会のレガシーとして、有明北地区に整備されることになった複合スポーツ施設。運営期間を 2025 年 3 月～2035 年 2 月までの 10 年間と予定していたが、その後、全面開業は 2024 年 10 月予定へ前倒しとなっている。約 14,446 m<sup>2</sup>の「大会レガシーゾーン」と、13,132 m<sup>2</sup>の「多目的ゾーン」、その間にある 3,607 m<sup>2</sup>の「広場」で構成される。

『未来の東京』戦略』を推進する事業。民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律に基づき、「大会レガシーゾーン」は東京都、「多目的ゾーン」は民間業者の資金・提案によって整備。



### イ 「アーバンサイクルパークス広島」広島県

2025 年 4 月オープン予定。老朽化した広島競輪場が、BMX やスケートボードなどのアーバンスポーツ施設やホテル・飲食店などを内包した日本最大級のサイクルアーバンスポーツ複合施設へ再整備される。現在も子供がアーバンスポーツを楽しめるサイクルパークやエア遊具が併設されているが、今後は競輪とアーバンサイクルスポーツが融合する市民参加型都市公園を目指すしている。

事業者は株式会社チャリ・ロト。費用負担は、解体費：広島市負担、再整備費：事業者負担（新施設の所有権は事業者に帰属。ただし広島市は施設使用料を負担。）、競輪事業包括委託費：広島市負担（ただし事業者は広島市に対し 3 億円／年の収益を保証）。

### (3) 地域活性化への貢献

#### ア 「横浜赤レンガ倉庫」神奈川県

主催：YOKOHAMA URBAN SPORTS FESTIVAL '23 実行委員会。2022年6月、2023年7月と、アーバンスポーツのエンターテインメントイベント「YOKOHAMA URBAN SPORTS FESTIVAL」が開催された。スケートボードやBMX、ブレイクダンスやパルクールなど、全7種目の世界的プレイヤーが集い、各競技のエキシビションをはじめ、各競技の国内大会も実施。その他、子ども向けのコンテンツやマーケットプレイス、ワークショップや音楽LIVEなど、様々な視点から楽しめるフェスとなった。



#### イ 「URBAN SPORTS FES OSAKA」大阪府

大阪府の主催。2025年大阪・関西万博に向け、誰もが楽しめるアーバンスポーツによるスポーツツーリズムを推進するため、「アーバンスポーツツーリズムによる地域活性化事業」を実施。2023年3月、インテックス大阪6号館Bにて開催され、スケートボード・BMX・ダブルダッチ・フリースタイルバスケットボール・VRコンテンツの体験会とトップ選手によるショーケースが行われた。

#### ウ 「岡山理大付属高校 アーバンスポーツ部」岡山県

2022年5月、岡山理大付属高校が日本トップクラスのアーバンスポーツ練習施設を完成させた。アーバンスポーツを学校の“売り”にしようと、体育館のひとつをまるごと改修。広さはおよそ600㎡で、高さや傾斜が違う9つのジャンプ台を設置。BMX、スケートボードやインラインスケートなどを滑ることができる。これまでの部活動のイメージとは違い、顧問の役割は安全管理のみで、競技を指導する教師やコーチ、キャプテンはおらず、生徒の自主性に任されている。県外から来て寮生活を送っている部員もあり、大阪出身のBMX選手である上村竜生さんもその一人。



#### (4) 有識者からの推薦

#### ア 「MOAI SKATEPARK」北海道

北海道札幌市南区に2023年4月にオープンしたばかりの屋外スケートボードパーク。札幌中心街からは車で約30分ほど。プロデュースを手掛けたのはプロスノーボーダーでスケートボードにも明るい安藤健次氏で、施設運営は「滝野スポーツパーク準備委員会(管理業務:北海道アーバンスポーツ協会)」。実施人口の裾野を広げるため料金を低く設定し、パブリックパーク感覚で利用できる。コンセプトは、“老若男女・目的目標も問わず、全てのスケートボーダーが楽しめるパーク”。子どもから大人、ビギナーからベテランまでさまざまな人たちが集い和気あいあいとスケートを楽しんでいる光景が見られる。





令和5年度までの経過について

1 取組みの目的について

部活動の地域移行・地域連携に向け、文化芸術団体及びスポーツ団体等との調整、指導者の確保、参加費用負担等への支援について総合的に推進していく。

2 取組みの背景と基本的な方向性について

- (1) 主な背景
- ・少子化に伴う部員数の減少で部活動の持続が困難となるなど、やりたい活動ができない
  - ・専門的指導ができる教員の不足により、生徒にとって望ましい指導が受けられない
  - ・多くの教員にとって部活動が業務負担となり、教材研究や学級経営等への影響がある
  - ・生涯にわたり、スポーツ・文化芸術活動に親しむ機会の充実が求められている
- (2) 山形市の基本的な方向性
- ・生徒のニーズに応じた多様で豊かな体験の機会の確保
  - ・地域における文化芸術・スポーツの振興
  - ・学校の働き方改革の推進による教育の質の向上

3 令和5年度の取組みについて

- (1) 検討協議会における検討
- 学識経験者や学校組織の代表者、文化スポーツ関係団体の代表者を構成員とした「山形市における部活動の地域移行に係る検討協議会」（以下「検討協議会」という。）を設置し、中学校の部活動の地域移行・地域連携に関すること、地域クラブ活動の在り方に関することについて検討を行った。

構成員		開催状況	
学識経験者	3名・関係団体の代表者	6名	第1回 令和5年7月31日
市職員	4名	計13名	第2回 令和6年2月27日

- (2) コーディネーターの配置
- 部活動と受け皿団体をマッチングするコーディネーター3名(校長経験者)を配置した。

- (3) 学校関係組織等への対応状況
- 令和5年度の進め方と推進状況等について、学校関係組織等へ順次説明を行った。

期日	対象
1 9月29日	市内小中学校PTA会長及び母親委員長等
2 10月19日	モデル事業対象保護者(なぎなた)
3 11月以降	市小中学校校長会及び教頭会、市中学校体育連盟及び中学校文化連盟
4 12月12日	市スポーツ少年団本部役員会
5 12月18日	市内中学校教職員(本市の取組等に係る資料の配布)
6 12月22日	教育委員会会議
7 2月8日	小学5年～中学2年の児童生徒及び保護者、中学校教職員(アンケート実施に合わせ、本市の取組等に係るチラシの配布)

※今後、広く情報を発信するために、山形市ホームページを活用していく。(4月公開)

- (4) モデル事業の実施
- 受け皿となる団体に休日の部活動を委託するモデル事業を実施した。四者会議(モデル事業の受け皿団体、コーディネーター、市、教育委員会)において、実施後の成果と課題について検討を行った。

①文化部活動 3部活動 実施期間 令和6年1月～2月

モデルケース	部活動	受け皿団体	実施状況		参加状況(人)	
			期間	回数	実人数	延べ人数
全校合同	1 吹奏楽	山形大学吹奏楽団の学生	1～2月	5	3	15
	2 茶道	山形茶道宝紅会	1～2月	15	12	36
	3 写真	山形県写真連盟と民間事業者	2月	2	8	8

※その他、やまがた秋の芸術祭の一環として旧千歳館において茶道体験会を開催：生徒32名参加

②運動部活動 14部活動 実施期間 令和5年10月～令和6年1月

モデルケース	部活動	受け皿団体	実施状況		参加状況(人)	
			期間	回数	実人数	延べ人数
学校単体	1 野球	高楯中部活動改革推進委員会	11～1月	4	8	32
	2 男子バスケットボール		10～11月	4	11	44
モデル	部活動	受け皿団体	実施状況	参加状況(人)		

ケース		期間	回数	実人数	延べ人数	
学校単体	3 女子バスケットボール	高楯中部活動改革推進委員会	10～11月	4	9	36
	4 ソフトボール		11～12月	4	6	24
	5 卓球		11～1月	4	8	32
	6 剣道		10～11月	3	6	18
複数学校	7 なぎなた(西部)	山形県なぎなた連盟	11～1月	10	30	300
	8 なぎなた(北部)		11～1月	10	25	250
全校合同	9 ラグビー	山形県ラグビーフットボール協会	11～1月	9	17	102
	10 ボルダリング	(株)FLAT	12～1月	6	4	13
	11 ボルダリング	BOULDERING HOUSE 358	12～1月	6	3	10
	12 スケートボード	山形市スケートボード協会	12～1月	8	4	32
	13 ハンドボール	H.C山形	11～1月	9	11	108
	14 バレーボール	山大クラブ Jr	11～1月	9	47	—

- (5) アンケート調査の実施(調査結果については、令和6年6月定例会において報告済)
- 今後の山形市における部活動の在り方検討に向けて、次のアンケート調査を実施した。

対象	内容	期間
①小学5・6年の児童及び保護者、 中学1・2年の生徒及び保護者、 中学校教職員 合計17,032名	現在の部活動の状況や地域クラブ活動への参加についてなど	2月9日 ～2月21日
②運動部活動の地域連携の受け皿団体となりえるスポーツ団体等((公財)山形市スポーツ協会、競技団体、 スポーツ少年団等) 166団体	R6年度以降のモデル事業への参加意向、今後の地域連携への考え方など	1月31日 ～2月15日
③令和5年度実施のモデル事業に参加した生徒、保護者及び指導者 417名	文化芸術団体及び地域スポーツクラブ活動等のモデル事業に参加しての感想など	2月10日 ～2月29日

4 地域移行と地域連携について

「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」(令和2年9月文部科学省通知)により、休日の部活動の段階的な地域移行を図ることとされた。令和4年12月に全面改定されたガイドラインから「地域連携」の文言が追加され、国は令和5年秋以降、その概念について広く普及を図っている。山形市では、当面、地域の実情に応じて、地域移行と地域連携の両面から取組みを進めていく。

部活動の地域移行	部活動の地域連携
地域の多様な主体が運営・実施する地域クラブ活動によって、部活動を代替すること ※地域クラブ活動…地域が主体となって行われる活動、多様な場所で実施、多世代・多様な活動のこと	複数校でまとまって一つの部活動とする合同部活動の導入や、部活動指導員等の地域の人材を活用することにより、生徒の活動機会を確保すること

5 令和6年度の進め方について

部活動の地域移行・地域連携の一層の推進を図るため、令和6年度に新設する文化スポーツ部内に「部活動地域移行連携室」を設け、教育委員会との緊密な連携のもと、検討協議会や四者会議での協議を深めながら、次の取組を進めていく。

- (1) モデル事業の拡充実施
- 部活動の地域移行・地域連携に向け、受け皿となる団体等の整備充実、指導者の確保、費用負担への支援等について、文化部、運動部でのモデル事業を拡充実施して検証を進める。
- (2) (仮称)部活動地域移行・地域連携推進計画の策定に向けた検討
- 令和7年度までモデル事業を実施し、その成果と課題を検証しながら、(仮称)部活動地域移行・地域連携推進計画を策定していく。ICTや公共交通の活用を視野に入れながら情報収集や動向等の整理に取組み、計画策定に向けた検討を行う。
- 計画の策定主体：山形市、山形市教育委員会  
計画の想定内容：山形市の現状・基本方針・具体的な取組み・移行スケジュール・数値目標 等

## 部活動地域移行・地域連携に関する意識調査報告書【概要版】

(調査対象：市内小学校 5・6 年生の児童及びその保護者、市内中学校 1・2 年生の生徒及びその保護者、市内中学校の教職員)

### 1 調査目的

部活動の地域移行・地域連携にかかる児童生徒、保護者、教職員の意識を把握して、今後の取組に生かしていくため。

### 2 調査対象

- (1) 市内小学校 5・6 年生の児童 (4,083名) 及びその保護者
- (2) 市内中学校 1・2 年生の生徒 (4,217名) 及びその保護者
- (3) 市内中学校の教職員 (432名)

### 3 調査方法

上記(1)(2)の児童生徒：教職員の指導のもと、タブレット端末を使用して URL や QR コードからの Web 回答

上記(1)(2)の保護者、教職員：紙や電子メールで案内した URL や QR コードからの Web 回答

### 4 調査期間

令和 6 年 2 月 9 日 (金) ～ 令和 6 年 2 月 21 日 (水)

### 5 回答状況

対 象	配付数	回答者数	回収率
小学校 5・6 年生の児童	4,083	2,632	64.5%
中学校 1・2 年生の生徒	4,217	2,901	68.8%
小学校 5・6 年生の保護者	4,083	919	22.5%
中学校 1・2 年生の保護者	4,217	681	16.1%
中学校の教職員	432	203	47.0%
合 計	17,032	7,336	43.1%

### 6 回答からわかった主なこと

#### (1) 児童 (小学 5・6 年生)

- ① 約 70% の児童がスポーツ活動・文化芸術活動を行っている。
- ② スポーツ活動・文化芸術活動を行っている児童のうち、66.7% の児童が平日の部活動への参加を希望している。また、それらの活動をしていない児童でも、半数以上が平日の放課後に部活動に参加したいと考えている。
- ③ 平日の部活動に参加したいと考えている児童は 63.4% いるが、休日の部活動に参加したいと考えている児童は、33.7% にとどまっている。
- ④ 部活動、地域クラブ活動に期待していることは、体力や技術の向上、友だちを増やすなどの人間関係を広げること、大会等で良い成績をとることを挙げる児童が多い。
- ⑤ 部活動、地域クラブ活動で気がかりな点は、勉強との両立、活動時間や休みに関すること、人間関係の構築を挙げる児童が多い。

(2)生徒（中学1・2年生）

- ① 97.7%の生徒が部活動に所属している。また、40.7%の生徒が地域クラブ活動に参加している。
- ② これからも平日の部活動に参加したい生徒の割合は72.9%と多い。一方で、休日の部活動参加希望は、平日のそれに比べて約10%下がっている。
- ③ 部活動、地域クラブ活動に期待していることは、体力や技術の向上、大会等での成績向上などの競技力等の向上を多く挙げている。また、友だちや仲間との人間関係の構築や拡大を多く期待している。
- ④ 部活動、地域クラブ活動で気がかりな点は、学業との両立を挙げる生徒が最も多い。次いで、活動時間の長さを心配している。地域クラブ活動においては、金銭的な負担や移動手段を心配する回答が特に増えている。

(3)児童の保護者（小学5・6年生）

- ① 部活動に期待していることとして、約7割の保護者がチームワークや規律を身につけることを挙げ、次いで生活の充実、生徒同士の交流やレベルにあった活動の実施が多く挙げられている。
- ② 地域クラブ活動に期待していることは、チームワークや規律を身につけることが一番多く（53.9%）、次いで技術力の向上、生活の充実、専門性の高い指導、レベルにあった活動が多く挙げられている。
- ③ 部活動、地域クラブ活動ともに、気がかりな点は、活動場所への送迎の負担が最も多く、次いで部活動では活動時間の長さ、学業との両立、地域クラブ活動では会費等の金銭的な負担、活動時間の長さが多く挙げられている。
- ④ 部活動でも地域クラブ活動でも、会費等の費用は3,000円以下が妥当と考える保護者が最も多い。地域クラブ活動の費用では、5,000円以下と考える保護者の割合が部活動よりも9%ほど増えている。

(4)生徒の保護者（中学1・2年生）

- ① 部活動に期待することとして、チームワーク・規律の涵養、学校生活の充実などを多く求めている。次いで技術力の向上、生徒との交流、レベルにあった活動になることを望んでいる。
- ② 地域クラブ活動に期待することは、子供の技術力の向上、専門性の高い指導を受けさせたいと多く考えられている。また、チームワークや規律を身につけさせたいと考える割合も高い傾向にある。
- ③ 部活動の気がかりな点は、学校外の活動となった際に子供を送迎する負担感が強く、次いで指導者の指導方針や学業との両立、活動の時間帯や長さが挙げられている。
- ④ 地域クラブ活動の気がかりな点は、学校の部活動と同様に、送迎の負担感が回答のトップで、次いで金銭的な負担、活動の時間帯や長さが挙げられている。
- ⑤ 部活動、地域クラブ活動ともに、会費は3,000円以下が妥当と答える割合が最も多い。地域クラブ活動では、5,000円以下と答えた保護者の割合が、部活動に比べて13%ほど増えている。

(5)中学校教職員

- ① 部活動の指導状況として、もともと競技・活動経験のない部活動を担当している教職員は半数近くおり、経験したことのある教職員数を上回っている。
- ② 部活動の顧問をしていて負担に感じることで、休日の指導や大会引率、平日の勤務時間を超える指導、競技・活動経験のない部活動の指導等について多く挙げられている。
- ③ 兼職兼業の許可を得て自身も外部での指導に関わりたいと考えている教職員は、15%に留まり、66%の教職員は行うつもりはないと考えている。

## 運動部活動地域移行・地域連携に関するアンケート報告書概要版

(調査対象：市スポーツ協会加盟競技団体・市内スポーツ少年団・モデル事業の参加生徒・保護者・指導者)

- 1 調査目的 本市の運動部活動の地域移行・地域連携に向けた、競技団体・スポーツ少年団及びモデル事業※注1参加者の実態把握と課題等を探るもの
- 2 調査内容 令和6年度以降のモデル事業への参加意向、モデル事業に参加しての感想、今後の地域連携への考え方など
- 3 調査期間 令和6年1月31日～2月15日

4 調査対象	対象者	団体数/人数	回答数	回答率
	(1) 市スポーツ協会加盟競技団体	47団体	19団体	40.4%
	(2) 市内スポーツ少年団	119団体	39団体	32.8%
	(3) 令和5年度モデル事業参加者			
	生徒	189人	72人	38.1%
	保護者	189人	32人	16.9%
	指導者	17人	14人	82.4%

※注1：運動部活動の休日（土、日、祝日）の活動を地域スポーツとして活動を行い、その成果と課題を検証していくもの。令和5年度は14部活で実施し、189人が参加した。

## 【種目】

野球・バスケットボール・ソフトボール・卓球・剣道・なぎなた・ラグビー・ボルダリング・スケートボード  
ハンドボール・バレーボール

## 5 調査結果の概要

## (1) 市スポーツ協会加盟競技団体

- ①休日の部活動の受け入れに前向き又は検討したいとする回答が約半数あるが、難しいと考える団体が4割程度となっている。受け入れ可能な種目は中学校の部活動に存在しない競技種目も多く挙げられている。（キックボクシング、ボウリング、ゲートボール等）
- ②受け入れにかかる会費は、競技種目によって経費が異なるため、ばらつきがあるものと思われる。
- ③受け入れにあたっての心配な点として、「活動場所の確保」や「生徒や関係者のトラブル対応」が多く挙げられている。
- ④市に希望する支援として、「活動場所の優先的な利用」が最も多く、次いで「会費等の補助」が多くなっている。

## (2) 市内スポーツ少年団

- ①スポーツ少年団の活動場所は、多くが小学校の体育館及びグラウンドを利用しており、休日の部活動の受け入れには、中学校の活用も今後の検討課題と言える。
- ②受け入れに前向き又は検討したいとする回答が約半数あるが、難しいと回答した団体も4割強ある状況となっている。受け入れが難しい理由は、「指導者の調整や確保」や「自分たちの活動が忙しい」などの回答が多くなっている。
- ③受け入れ可能な種目は、全体的に中学校の部活動に存在する競技種目となっている。（バレーボール、バスケットボール、野球など）
- ④中学生を指導する場合の心配な点として、「責任の所在」や「指導内容・指導方法」について多くの団体が不安を抱えている。
- ⑤市に希望する支援として、「活動場所の優先的な利用」や「会費等の補助」が多く挙げられている。

### (3) 令和5年度モデル事業参加者

#### (生徒)

- ①参加して良かった点として、「専門的な指導」や「活動の充実」などが多く挙げられている。
- ②参加して課題だと感じたこととして、「保護者の負担（送迎など）」や「移動手段」が多く挙げられている。
- ③約75%が今後の参加に対して前向きな回答となっており、今後の継続参加に期待が持てる。

#### (保護者)

- ①参加して良かった点として、参加保護者でも「専門的な指導」や「活動の充実」などが多く挙げられている。
- ②参加して課題だと感じたこととして、参加保護者でも「保護者の負担（送迎など）」や「移動手段」が多く挙げられている。
- ③休日の部活動が地域クラブに移行・連携することについて、参加保護者の約6割が肯定的な考えを示している。
- ④約9割が今後の参加に対して前向きな回答となっており、今後の継続参加に期待が持てる。

#### (指導者)

- ①メリットとして、専門的な指導を受けることができることが多く挙げられている一方で、活動場所の確保についての課題が多く挙げられている。

# 令和6年度 山形市における部活動の地域移行・地域連携の取組みについて

資料2-4

## 1. 取組みの目的について

「健康医療先進都市」「文化創造都市」という市の二大ビジョンを進める上で、生涯にわたり、スポーツや文化芸術を享受することができる環境づくりという視点を重視しながら、部活動の地域移行・地域連携に向け、文化芸術団体及びスポーツ団体等との調整、指導者の確保、参加費用負担等への支援について総合的に推進していく。

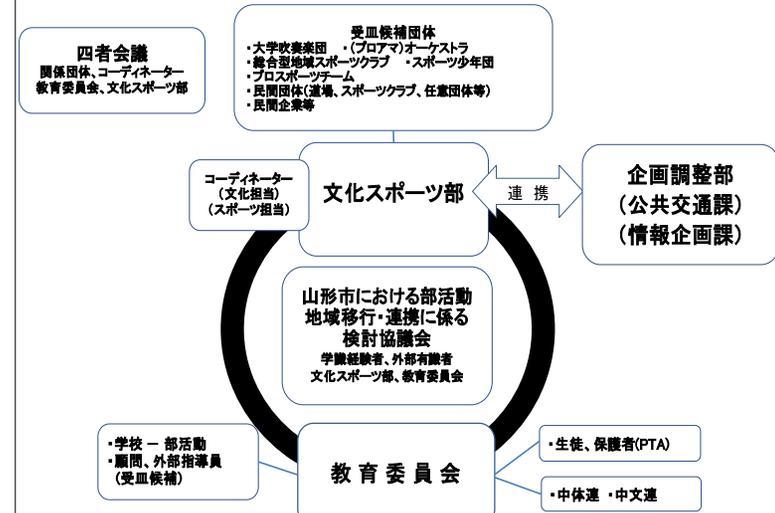
## 2. 取組みの背景と基本的な方向性について

### (1) 主な背景

- ・ 少子化に伴う部員数の減少で部活動の持続が困難となるなど、やりたい活動ができない。
- ・ 専門的指導ができる教員の不足により、生徒にとって望ましい指導が受けられない。
- ・ 多くの教員にとって部活動が業務負担となり、教材研究や学級経営会等への影響がある。
- ・ 生涯にわたり、スポーツ・文化芸術活動に親しむ機会の充実が求められている。

### (2) 山形市の基本的な方向性

- ・ 生徒のニーズに応じた多様で豊かな体験の機会の確保
- ・ 地域における文化芸術・スポーツの振興
- ・ 学校の働き方改革の推進による教育の質の向上



令和6年度取組み・対応	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<b>1 部活動地域移行に向けた支援事業(実証事業)</b> 部活動の地域移行・地域連携に向け、受け皿団体の整備充実、指導者の確保、費用負担等の支援について文化活動、スポーツ活動でのモデル事業を拡充実施	○関係団体との連携調整等の取組み ○地域クラブ活動等のモデル構築(地域クラブ活動の実証・収支構造等の検証)											
<b>2 (仮称)部活動地域移行・地域連携推進計画の策定に向けた検討</b> 令和7年度までモデル事業を実施し、その成果と課題を検証しながら、推進計画の策定に向けた調査・検討	○ニーズとリソースの調査・分析・研究 ○部活動改革の目指す姿及びロードマップ等骨子の検討											
<b>3 山形市における部活動の地域移行・地域連携に係る検討協議会</b> 生徒にとって望ましいスポーツ・文化環境の構築と、教員の働き方改革の推進のため、有識者等の検討により市の部活動改革を進める	検討協議会											
<b>4 四者会議</b> (四者会議とは:関係団体・コーディネーター・教育委員会・文化スポーツ部) 受皿団体、学校関係団体、競技・文化芸術団体を中心に、部活動の地域移行・地域連携に関する細やかな検討・整理についての情報交換と意見聴取を行う。(随時)	○好事例等の情報提供 ○各中学校、関係団体に応じた支援 個別の課題に応じた相談と助言 関係団体へのヒアリング											
	校長会	中体連	中文連	市内各中学校	PTA関係	受け皿団体						
	市スポーツ協会・競技団体・市芸術文化協会											

# 部活動地域移行に向けた支援事業(実証事業)活動一覧

## スポーツ活動

	団体名	種目	モデル型	活動の概要	参加人数
1 2 3 4 5 6 7	高橋中部活動改革推進委員会	野 球 男子バスケ 女子バスケ ソフトボール 卓 球 剣 道 サッカー	学校単体型	既存の部活動を母体とした「休日の部活動の段階的な地域移行」を目指し、休日の活動を外部指導者等の地域の指導者に依頼し、学校施設を活用しながら、部活動と同様の活動を試行している。	96名
8 9	山形市なぎなた連盟 山形ジュニアなぎなたクラブ	なぎなた(西部:二中・三中) なぎなた(北部:四中・七中)	学校合同型	月2回 隔週土曜日 会場:市スポーツセンター等 市内4校のなぎなた部員が集まり、演技や防具の練習をし、競技力向上を目指す。日本スポーツ協会のコーチが指導にあたる。	60名
10	フラッグス	ラグビー	全学校型	毎週日曜日 会場:松波ラグビー場 中高生を対象としたラグビークラブで、他競技からの転向や、現在行っている競技を続けながら、ラグビー技能向上に取り組む。	10名
11 12	山大クラブJr	男子バレー 女子バレー	全学校型	月3~4回 毎週土曜日 会場:山形中央高校体育館 子どもたち一人一人の目的・技能・志向に応じた多様な練習機会を提供し、楽しみながら技能向上を目指す。	男女 各30名
13	HC山形	ハンドボール	全学校型	毎週土曜日 会場:南山形小体育館 基礎から実践までの練習で クラブカップ・春中出場を目指す	20名
14	山形市スケートボード協会	スケートボード	全学校型	隔週土曜日または日曜日 会場:県内、宮城県、新潟県の施設 定期的な練習やイベントに参加をし、技能向上を目指す	4名
15	連生館柔道教室スポーツ少年団	柔 道	学校単体型	毎週土曜日または日曜日 会場:山形九中武道館 地域の指導者による定期的な練習会を実施 他校生徒も参加	20名
16	山形大学医学部スポーツクラブ	柔 道	全学校型	毎週日曜日 会場:県武道館柔道場 小中学生を主に、幼児から保護者まで科学的トレーニング法を取り入れた、柔道の練習に取り組んでいる。	30名
17 18	山形市剣道連盟	剣 道(男子) 剣 道(女子)	全学校型	毎月2回 日曜日 会場:県武道館・市スポーツセンター 市内の中学生を対象に、コース制(級・団審査合格を目指すコースと技能を高めトップ選手を目指すコース)の練成会を実施	約100名
19 20 21 22	山形地区野球連盟	軟式野球(イースト) 軟式野球(サウス) 軟式野球(ノース) 軟式野球(セントラル)	学校合同型	全日本軟式野球連盟主催大会を目指し、山形市内4つの地域で合同チームを編成し、学校施設等を活用した合同練習会を実施している。 イースト山形 山形一、山形三、山形六、附属 サウス山形 山形九、山形十、蔵王一 ノース山形 山形四、山形七、高橋 セントラル山形 山形二、山形五、金井	92名 62名 56名 52名

## (仮称)山形市部活動地域移行・地域連携推進計画の策定について

### 1 計画策定の趣旨

中学校部活動については、令和2年9月の文部科学省通知「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」により、休日部活動の段階的な地域移行が示され、令和4年12月にスポーツ庁及び文化庁が策定した「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」においては、学校部活動の適正な運営や効率的・効果的な活動の在り方とともに、新たな地域クラブ活動を整備するために必要な対応が示された。

その中で「地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる。」という意識の下、生徒の望ましい成長を保障できるよう、地域の持続可能で多様な環境を一体的に整備するとともに、地域の実情に応じ生徒のスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消することが重要とされている。

上記をふまえ、国では令和5年度から令和7年度までの3年間を部活動改革推進期間として、地域連携・地域移行に取り組む実証事業を全国の都道府県(市区町村)へ委託し、検証をふまえて、令和8年度以降、さらなる改革を進めるとしている。

山形県では、生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術環境の構築と教員の働き方改革を目的に令和5年3月に「部活動改革のガイドライン」を策定し、さらに令和6年中に「山形県における学校部活動及び新たな地域クラブの在り方に関する方針」の策定作業を進めるとしている。

以上の国・県の動きを注視しながら、山形市では「健康医療先進都市」「文化創造都市」という本市の二大ビジョンを進める上で、生涯にわたり、スポーツや文化芸術を享受することができる環境づくりという視点を重視しながら、部活動の地域移行・地域連携の取組を進めていく。本計画の策定にあたっては、本市の発展計画、教育振興基本計画、スポーツ推進計画、文化創造都市推進基本計画等と整合を図りつつ、部活動の地域移行・地域連携について望ましい方向性と具体的な進め方を定めていくものである。

### 2 部活動改革の背景と基本的な方向性

#### (1) 主な背景

- ・少子化に伴う部員数の減少で部活動の持続が困難となるなど、やりたい活動ができない
- ・専門的指導ができる教員の不足により、生徒にとって望ましい指導が受けられない
- ・多くの教員にとって部活動が業務負担となり、教材研究や学級経営等への影響がある
- ・生涯にわたり、スポーツ・文化芸術活動に親しむ機会の充実が求められている

#### (2) 山形市の基本的な方向性

- ・生徒一人一人のニーズに応じた多様で豊かな体験の機会の確保
- ・地域における文化芸術・スポーツの振興
- ・学校の働き方改革の推進による教育の質の向上

(3) 部活動地域移行・地域連携の想定するイメージ

- ① 中学校の休日部活動を順次、段階的に地域クラブ活動等へ移行
  - ② 地域クラブ活動の持続可能な運営方法等の支援及び多様な選択肢の情報発信を行う
  - ③ 地域移行が困難な場合、合同部活動、部活動指導員等による対応を想定(地域連携)
- ※ 条件整備に時間がかかる場合、地域の実情に応じて、可能な限り早期の実現を目指す。  
※ 平日の環境整備はできるところから取り組む。

これらの基本的な方向性のもと、山形市に合った地域移行・地域連携に向けた具体的な指針を示すことを想定している。

例:地域クラブ活動のあり方、指導者の確保・育成、活動場所、保護者の負担軽減策等

3 計画期間

令和8年4月1日より令和13年3月31日（5年間）

- ※ ただし、県では、令和7年度～11年度の5年間の取組の指針とする「山形県における学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関する方針(仮称)」について、令和6年12月の策定を目指している。これらの動向をみながら必要な検討を行う。

4 策定スケジュール(想定)

- ・令和6年7月 検討協議会:アンケート結果、計画策定の進め方について  
計画骨子案の検討

↓

- ・令和7年2月 検討協議会:計画骨子案について  
3月 3月定例会:計画骨子案について  
7月 検討協議会:計画案について  
10月 検討協議会:計画案について  
12月 12月定例会 計画案について  
計画策定
- ・令和8年1月～3月 学校・市民への周知期間  
4月 計画スタート

## 西部工業団地公園内スポーツ施設整備事業の進捗状況について

「西部工業団地公園再編事業」により整備される新しい公園に、新施設整備後廃止予定の鋳物町運動広場の代替機能とともに、壮青年をはじめ幅広い年代にニーズがあり、身近なスポーツであるソフトボール場を整備することで、市民が幅広くスポーツに親しみ、楽しみながら健康な体作りを行うことができる環境を整備して、健康医療先進都市の確立への寄与を目指す。

また、ソフトボール競技力向上のために、国際ルールに対応したソフトボール場の規格にするとともに、県大会、東北大会や全国規模の大会が誘致可能な付帯設備の充実を図る。

## 1 スポーツ施設の整備内容

- (1) 多目的広場（軟式野球\*、ソフトボール場、サッカー、グラウンド・ゴルフ等）
- (2) ソフトボール場1面（専用）
- (3) 用具庫兼管理棟

「\*」は、鋳物町運動広場の代替機能

## 2 事業スケジュール

年度	内容
令和4年度	スポーツ施設整備に係る基本設計・実施設計（スポーツ施設分）
令和5年度	スポーツ施設整備に係る実施設計（スポーツ施設分）
令和6年度以降	スポーツ施設整備工事 （令和6年9月着工、令和9年6月完了予定） 市道敷拡張工事、備品等購入 用具庫兼管理棟整備工事 鋳物町運動広場・庭球場解体

## 3 公園施設整備（トイレ、駐車場、広場等）

スポーツ施設整備工事の進捗に合わせ発注していく。

## 4 供用開始時期について

スポーツ施設整備工事が完了し、施設運営の準備が整い次第、スポーツ施設が供用開始となる。令和9年度の供用開始を目指す。

公園施設工事（大型駐車場や築山、遊具等）が完了次第、公園施設を開放する。



# 山形市における屋外スケート施設あり方検討懇談会 報告書



令和 6 年 2 月

山形市における屋外スケート施設あり方検討懇談会

## 目次

はじめに	1
1. 検討の背景	2
2. 検討の経過	2
(1) 検討懇談会構成員一覧	2
(2) 懇談会の概要	3
3. 検討結果	4
(1) 山形市における屋外スケート場の必要性	4
(2) 大規模改修もしくは新規整備についての考え方	4
(3) 整備にあたり望まれる機能	5
(4) その他新規整備にあたって留意すべき事項	6
(5) その他	7
4. まとめ	9

## はじめに

山形市総合スポーツセンタースケート場は、平成元年 11 月に「べにばな国体」のスピードスケート競技会場として仮設で整備され、平成 4 年度の国体終了後も全国規模のスピードスケート競技大会を開催するとともに、山形中央高等学校の練習拠点として多くのオリンピックを輩出するなど、選手育成においても活用されてきました。

また、県内唯一の屋外スケート場として幅広い世代からスケートの楽しさを体感できる場としてご利用をいただいております。

しかしながら、竣工から 34 年が経過し老朽化が進み、令和元年度にはブライン管の破損により臨時休業となるなど、近年は修繕がほぼ毎年必要になっており、今後のあり方について検討が必要となっています。

懇談会においては、スケートに携わる様々な方の意見や、他県で屋外スケート施設を運営する事業者（アドバイザー）から実状等を伺い、様々な情報を整理し、山形市における屋外スケート施設のあり方について協議してまいりました。

今後、山形市において屋外スケート施設のあり方の検討を進めて行くにあたり、本報告書の内容を踏まえ、山形市民のみならず広域的に活用され、スケートはもとより通年で身近にスポーツを親しむことができ、また、スケートの競技力向上に資する有意義な施設として整備されることを願います。

最後に、当懇談会に参加された委員をはじめ、検討にあたりご協力いただいた関係者の全ての皆様に厚く御礼を申し上げます。

令和 6 年 2 月

山形市における屋外スケート施設あり方検討懇談会  
座長 笹瀬 雅史

## 1. 検討の背景

山形市は健康医療先進都市の実現に向け、日常的に利用できる身近なスポーツ施設の整備を推進し、積極的な学校開放も行ってきましたが、健康の維持・増進のためのスポーツ活動に対する市民ニーズが高まっていることや、新たな種目の増加などにより、施設や設備に求められる機能は年々多様化、高度化しており、これらに対応する環境の整備が求められています。

スポーツ推進計画の成果指標である「スポーツ実施率」は横ばい、「国際・全国・東北大会等開催数」は減少しており、気軽に使える施設の整備や全国大会等が開催できる施設整備等が必要となっています。

主要なスポーツ施設は経年劣化による老朽化が進んでいますが、山形市は、同人口規模の都市と比較しても過剰にスポーツ施設を有しているわけではなく、施設を廃止する場合は、同等の代替機能確保の検討が必要となっています。

山形市のスケート環境の現状としては、フィギュアスケートやアイスホッケー競技の公式大会を開催できる施設はなく、スピードスケート競技について、山形市総合スポーツセンタースケート場は全国的なスピードスケートに係る競技会を開催する基準を満たしているものの、冬期間のみの利用となっています。

また、平成4年度開催の「べにばな国体」のスピードスケート競技会場として平成元年度に仮設で整備したもので、老朽化が進むとともに冷媒に使用しているフロンは生産が終了し、早ければあと7年程度で入手できなくなるため、山形市における屋外スケート施設の今後のあり方について検討が必要となったものです。

## 2. 検討の経過

### (1) 山形市における屋外スケート施設あり方検討懇談会構成員一覧 (敬称略、五十音順)

区 分	所属等・職名	氏 名	備 考
競技者・指導者	オリンピック	ウィリアムソン師円	委員
指導者・利用者	山形中央高等学校 スケート部顧問	小 野 俊	委員
競技団体	山形市スケート協会 会長	片 山 健 一	委員
学識経験者	山形大学 教授	笹 瀬 雅 史	座長
スポーツ団体統括機関	山形市スポーツ協会 会長	逸 見 良 昭	委員
関係行政機関	山形県教育委員会 企画専門員	大 江 夕	オブザーバー
スケートリンク 関連事業者	株式会社パティネレジャー	増 田 哲 士 金 子 智 洋 斎 藤 克 博	アドバイザー

## **(2) 懇談会の概要**

### **第1回懇談会（令和5年9月6日開催）の概要**

- 報告事項
  - (1) 山形市における屋外スケート施設あり方検討懇談会について
  - (2) 山形市総合スポーツセンタースケート場の利用状況
  - (3) 現施設の現状と課題
  - (4) 山形市スポーツ推進計画2028における方向性
  - (5) 他施設の状況
- 意見交換
  - (1) 山形市における屋外スケート場の必要性
  - (2) 大規模改修もしくは新規整備についての考え方
  - (3) 今後検討に当たっての課題・留意点

### **第2回懇談会（令和5年11月2日開催）の概要**

- 意見交換
  - (1) 山形市における屋外スケート施設あり方検討懇談会報告書（素案）について
  - (2) その他

### **第3回懇談会（令和5年12月26日開催）の概要**

- 意見交換
  - 山形市における屋外スケート施設あり方検討懇談会報告書（案）について

### 3. 検討結果

#### (1) 山形市における屋外スケート場の必要性

山形県内唯一の400mトラックである山形市総合スポーツセンタースケート場（以下「現施設」という。）は、竣工から34年が経過し老朽化が著しく、また、冷凍機は使用するフロンの生産終了により今後数年で使用ができなくなる状況にある。

その利用状況はトップアスリートを目指す選手の練習会場としての活用や、市民の冬のレジャー施設として山形市民のみならず幅広い地域、年代の方々から利用されている状況である。

現施設はこれまで次のような役割を果たしており、また、スピードスケート競技用の屋外スケート施設は県内唯一で他に代替施設がないことから、その機能存続が望ましい。

##### ① スポーツを気軽に親しむ施設

気軽に取り組むことができるスケートを通じて、冬期間における運動機会の提供、運動不足の解消の場を確保すること。

冬期間における運動機会の提供

冬期間における運動不足の解消

##### ② こどもたちがスケートに触れる機会の確保

競技人口の増加と普及を図るため、こどもたちがスケートに触れる機会を確保すること。

幼児期から様々なスポーツに触れる機会が向上

競技人口の増加と普及

##### ③ アスリート育成の拠点確保

次世代のアスリート育成に資する練習拠点を確保すること。

オリンピックやメダリストを輩出しているトラック

次世代のアスリート育成に資する練習拠点

#### (2) 大規模改修もしくは新規整備についての考え方

機能存続については、大規模改修と新規整備が考えられる。現施設は建設後34年が経過し、老朽化が著しく改修による対応では今後の長期間の使用には耐えられず、また、冷凍機はフロンの生産終了により今後数年で使用ができなくなり、冷凍機のみ更新についても高額になる。

そもそも仮設の施設であり、長寿命化工事を行ったとしても新規整備より耐用年数は劣るものと思われる。具体の費用比較は山形市に委ねるが、次のような利点や課題があるものと思われる、新規整備が望ましい。

## ■ 大規模改修と新規整備の比較表

	大規模改修	新規整備(現地、移転)
利 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備期間が新規整備より短い</li> <li>・新規整備より整備費が安価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・維持管理運営コスト削減につながる整備が可能</li> <li>・使用しながらの整備が可能(移転)</li> <li>・今後の長期の使用に耐えられる施設整備が可能</li> <li>・複合施設の検討が可能</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用しながらの整備は不可</li> <li>・今後の長期間の使用に耐えられない</li> <li>・拡張性がなく、複合機能は限定的</li> <li>・冷凍機の更新は必須(フロン生産終了)</li> <li>・ランニングコストを考慮した冷凍機の更新が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用しながらの整備は不可(現地)</li> <li>・整備費が大規模改修よりも高額</li> <li>・移転の場合の場所の選定</li> </ul>

### (3) 整備にあたり望まれる機能

費用対効果を高め持続可能な運営を目指すため、冬期間のスケートだけでなく通年活用ができるよう複合的な機能が望ましい。

その際は市民や利用者のニーズを踏まえた機能を付加すべきと考える。

#### ① スピードスケート

スピードスケート競技ができる 400m トラックは県内唯一であり、利用者のニーズがあり、競技人口の増加も期待されることから 400m トラックの整備が望ましい。

#### ② 付加すべき機能の検討

今後更なる人口減少が見込まれ、市の財政状況も厳しさを増している中での公共施設の整備にあたっては、市民に丁寧に説明しながら取組を進めることが重要である。持続可能な施設を目指すうえで、スケート以外にもより多くの方から有効に活用いただける多機能性を有する施設について次の視点からの検討が望ましい。

##### ・アーバンスポーツ

冬期間以外の利用として、若い世代に興味・関心の高い活動を可能とする機能についての検討も有効であり、スケートボードやスポーツクライミング、パルクールなどのアーバンスポーツの機能の併設が考えられるが、利用者のニーズを把握しながら、多くの方が利用できるよう検討すべきと考える。

##### ・市民の健康増進機能

スケート施設は、冬期間の生活の質の向上や交流、運動不足の解消など幅広い利用が見込まれることから、気軽に訪れることができる機能や、公共交通機関の利便性も考慮する必要がある。

いくつかの機能は多様なニーズ、年代、住民と観光客等の区分けに応じて対応できるように作られるのが望ましい。

#### ・スピードスケート以外のスケート機能

他施設の400mトラックにはサブリンク(30m×60m)や小さいサブリンクなどが整備されているところもあり、フィギュアスケートやアイスホッケー、親子連れが楽しめる機能についても検討し、利用者数の増加を図る必要がある。

#### ・食事、娯楽、温泉等冬を楽しめる機能の充実

食事、娯楽、温泉など冬の生活を楽しめる機能の充実により、スケートを行わない方の利用やスケート利用者の長時間の滞在が見込まれ、利用率の向上と幅広い世代での活用が期待できる。

#### ・機能を付加する場合の留意点

トラック全体を見渡せるようフィールド内に高さのある構造物整備は避けるべきである。整備には多額の税金が投入されるため、多くの市民に支持され活用できるような施設を作るために、スケート場の施設ではあるものの他の機能や多目的な活用を検討し、収入の面でも多角化できるような事業性も検討を要する。

なお、中地の利用や付加する機能によっては、営業時間の拡大や人件費等直接経費の増加にもつながることから、施設全体のサービス最適化と経営の効率化の両面から検討する必要がある。

屋内施設は天候に左右されず行うことができるため、スケートに踏み出すきっかけとなることや、付加する機能について選択肢が広がることが考えられる。一方、屋外施設はのびのびと運動する機会ができるという代えがたいところもあり、それぞれの利点を考慮し施設整備の方針を決定していく必要がある。

## (4) その他新規整備にあたって留意すべき事項

新規整備を検討するうえで、より多くの方々から利用される施設として整備していくために次の点に留意が必要となる。

### ① 適地の検討

交通の便が集客に大きく関わることから、幅広い世代がアクセスしやすい場所への立地が求められる。

一方、山形市は車社会の傾向が顕著であることを踏まえれば、駐車場の確保など自家用車利用の利便性の考慮が重要である。あわせて、子どもや障がいのある方が自ら施設へ通うことができるよう公共交通機関の利便性も考慮する必要がある。

施設整備において、立地は施設の性格や事業性、利活用の幅に大きく影響する極めて重要な検討事項である。新規の用地取得や、造成・整地を極力要しないよう公有地の利用を前提としながら、施設へのアクセス性も踏まえ、慎重な検討が必要である。

### ② 広域利用

施設の整備にあたってはその立地場所はもとより、機能についても山形市のみならず、広域利用を見据えた設備や機能を持たせる必要がある。具体的内容については稼働率等も考慮し、より多くの利用が見込めるものとなるよう検討する必要がある。

### ③ 夏季の活用方法（暑さ対策）

通年、多機能の利用を検討するうえで夏季の暑さ対策は重要であり、整備する施設の形態（屋外、屋内、半屋外）に合わせ、有効な対策を検討する必要がある。

### ④ 屋内スケート施設との連携のあり方

現在、山形県において屋内スケート施設について検討を行っていることから、他の競技施設とのかかわり方と、スケート施設同士の間わり方についても連携して整理すべきである。

今後示される施設の整備内容や場所によっては、それぞれの施設が果たす役割を十分に考慮し、効率的な整備を検討する必要がある。

### ⑤ 費用対効果

#### ア. 整備コスト

八戸市（YSアリーナ）、長野市（エムウェーブ）などのハイレベルなものが望ましいが、費用対効果を考えると疑問がある。

世界では滑走部分にのみ屋根をかける半屋外リンクなどの例があり、そのメリットやデメリットを踏まえ、整備における有効性についても研究が必要である。

市民が日常的に利用できるとともに、高校生をはじめ次世代を担うアスリートが気軽に練習や合宿等で利用できるグレードの施設を整備し、稼働率を上げるよう工夫することが望ましい。

#### イ. 運営コスト

スケート施設はその整備コストのみならず、製氷・整氷など氷を張るための維持費としての電気水道代や設備が高額であるなど運営コストも増高する特徴があることから、整備後の運営コストについても留意が必要となる。

恒常的に過度な財政負担が続いた場合、持続可能な運営が困難となるため、財政負担の抑制策の検討もすべきである。

## （5）その他

屋外スケート施設の検討と併せて、環境や施設の特性、レジャー利用からのスケート競技の普及についても検討が必要となる。

### ① 環境負荷の低減（カーボンニュートラル）

我が国においては、温室効果ガスの排出を2050年までに実質ゼロ、いわゆる「カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」を目指すことを宣言しており、世界規模でも取り組みが進められている。徹底した省エネの推進、再生可能エネルギーの導入といった視点も持ちながら検討を進めていかなければならない。

特にスケート施設は、エネルギーを多く必要とするため、電気や水を大切にす、効率的に利用する観点は不可欠であり、冷凍機についても環境にやさしい機器の整備を検討する必要がある。

## ② 競技施設としての整備

我が国の人口減少に伴い、スケートの競技人口も減少傾向にあるなか、各県での強化は頭打ちになってきており、東北地方全体での連携なども考慮していく時期にきている。

大規模な大会の開催については、施設のみを整備すれば行えるというのではなく、運営体制やスタッフを十分に整える必要があるものの、現状では難しい状況にある。そのため競技に特化した施設ではなく、スケートの魅力を十分に体感できる施設を基本に多目的に年間を通じて多くの方から利用される施設整備と運営が実現されることが望ましい。

## ③ 樹脂スケートリンクの検討

近年、電力や水を使用しない樹脂リンクを設置している施設も出てきている。樹脂リンクは建設費や維持管理費は氷のリンクより安く、CO<sub>2</sub>の排出量も抑えられることや、レジャー目的の利用など市民の健康増進機能やスケートを気軽に取り組むきっかけとなることが期待されるという点においては、一つの方法と考えられる。

## 4. まとめ

山形市総合スポーツセンタースケート場は、競技スポーツ施設としての活用はもとより、市民のレジャーなど生涯スポーツ施設として広く活用されてきました。

冷凍機に使用しているフロンが生産終了し、現施設は数年のうちに使用できなくなることを前提に、今後の施設のあり方について前向きな意見交換がなされました。

懇談会では、今後の整備に向けた検討としては、400mトラックは必要としたうえで、整備の方法や機能については様々な意見が出され、市においては今回の考え方を踏まえて、立地場所や事業手法など、効率的・効果的な整備・運営にむけて具体的な検討を進めていくことになると思います。

その検討においては、事業費や収支シミュレーション、経済波及効果の試算などより詳細な調査・分析をお願いします。

また、山形県では屋内スケート施設の整備について検討を行っていることから、今後山形県と調整を行い、多くの県民や市民の方から利用される施設として整備、運営していくことが重要と考えます。

終わりに

山形市に屋外スケート施設が整備されることにより、山形市民のみならず広域的に活用され、スケートはもとより通年で身近にスポーツを親しむことができ、また、スケートの競技力向上に寄与し、健康医療先進都市の実現に向けた健康の維持・増進のためのスポーツ活動に資する施設としてより多くの方に活用されることを期待したい。

## 参 考 资 料

## 山形市における屋外スケート施設あり方検討懇談会について

## 1 山形市におけるスケート施設のあり方検討の背景

山形市は健康医療先進都市の実現に向け、日常的に利用できる身近なスポーツ施設の整備を推進し、積極的な学校開放も行ってきましたが、健康の維持・増進のためのスポーツ活動に対する市民ニーズが高まっていることや、新たな種目の増加などにより、施設や設備に求められる機能は年々多様化、高度化しており、これらに対応する環境の整備が求められています。

スポーツ推進計画の成果指標である「スポーツ実施率」は横ばい、「国際・全国・東北大会等開催数」は減少しており、気軽に使える施設の整備や全国大会等が開催できる施設整備等が必要となっています。

主要なスポーツ施設は経年劣化による老朽化が進んでいますが、本市は、同人口規模の都市と比較しても過剰にスポーツ施設を有しているわけではなく、施設を廃止する場合は、同等の代替機能確保の検討が必要となっています。

本市のスケートにおける環境の現状としては、フィギュアスケートやアイスホッケー競技の公式大会を開催できる施設はなく、スピードスケート競技については山形市総合スポーツセンタースケート場は全国的なスピードスケートに係る競技会を開催する基準を満たしているものの、冬期間のみの利用であり、また、平成4年度開催の「べにばな国体」のスピードスケート競技会場として平成元年度に仮設で整備したもので老朽化が進むとともに、冷媒に使用しているフロンは生産が終了し、早ければ7年程度で入手できなくなるため、山形市におけるスケート施設の今後の方向性について本懇談会において御議論をお願いしたい。

## 2 本懇談会で具体的にご検討いただきたいこと

本懇談会では、主に下記の事項について、皆様のそれぞれの立場から御意見をいただきたい。

- ※ 最終的には検討結果を報告書として取りまとめる予定
- ・ 山形市における屋外スケート場の必要性
- ・ 大規模改修もしくは新規整備についての考え方
- ・ 今後検討にあたっての課題・留意点 など

## 山形市総合スポーツセンタースケート場の利用状況

1 竣工日 平成元年 11 月 15 日

2 整備費 908,105 千円

## 3 これまで開催された主な全国大会

全日本実業団スピードスケート競技会（平成 3 年 1 月）

第 47 回国民体育大会冬季大会スケート競技（平成 4 年 1 月 26 日～29 日）

第 13 回全国中学校スケート大会（平成 5 年 2 月）

全日本ジュニアスピードスケート選手権大会（平成 17 年 2 月）

平成 26 年度全国高等学校総合体育大会第 64 回全国高等学校スケート競技選手権大会

第 19 回全日本マスターズスピードスケート競技会（平成 31 年 1 月）

第 24 回全日本マスターズスピードスケート競技会（令和 6 年 1 月予定）

## 4 年間利用者数

年度	利用者数	年度	利用者数	年度	利用者数	年度	利用者数
H1	19,008 人	H10	26,919 人	H19	28,827 人	H28	32,620 人
H2	17,895 人	H11	27,179 人	H20	27,052 人	H29	35,746 人
H3	24,460 人	H12	21,284 人	H21	26,962 人	H30	36,848 人
H4	30,611 人	H13	24,178 人	H22	27,070 人	R1	28,192 人
H5	34,180 人	H14	23,885 人	H23	29,476 人	R2	18,273 人
H6	26,612 人	H15	23,812 人	H24	31,199 人	R3	16,114 人
H7	31,963 人	H16	23,823 人	H25	32,521 人	R4	23,537 人
H8	27,862 人	H17	29,204 人	H26	33,460 人	計	930,562 人
H9	27,926 人	H18	27,538 人	H27	34,326 人		

## 5 令和 4 年度アンケート結果（2021-2022 シーズン）

## (1) 回収率

入場者数	23,537 人
アンケート回収数	3,299 票
アンケート回収率	14.01%

## (2) 年代分布

区分	人数	割合
小学生以下	356 人	10.79%
中学生	283 人	8.58%
高校生	874 人	26.49%
大学生	349 人	10.58%
大学院生	1 人	0.03%
専門学生	78 人	2.36%
一般	1,149 人	34.83%
無回答	209 人	6.34%
計	3,299 人	100.00%

## (3) 利用回数

区分	人数	割合
初めて	2,572 票	77.96%
2回	442 票	13.40%
3回以上	233 票	7.06%
無回答	52 票	1.58%
計	3,299 人	100.00%

## (4) 利用目的

区分	実数	割合
レクリエーション	1,577 人	47.80%
練習	189 人	5.73%
大会	7 人	0.21%
その他	475 人	14.40%
無回答	1,051 人	31.86%
計	3,299 人	100.00%

## (5) 居住地別

区分	実数	割合
山形市	1,442 人	43.71%
山形市以外（県内）	1,007 人	30.52%
山形県外	136 人	4.12%
無回答	714 人	21.64%
計	3,299 人	100.00%

## 内 山形市以外（県内）

区分	実数	割合
村山地域（山形市除く）	839 人	83.32%
置賜地域	134 人	13.31%
最上地域	23 人	2.28%
庄内地域	9 人	0.89%
その他	2 人	0.20%
計	1,007 人	100.00%

## 内 山形県外 10人以上

区分	実数	割合
宮城県	68 人	50.00%
東京都	21 人	15.44%
神奈川県	13 人	9.56%
3県計	102 人	75.00%

※その他都府県計 34 人 (25%)

## 6 専用利用状況

令和4年度 大会 300 人  
練習 1,010 人 計 1,310 人/23,537 人

## 7 山形県のスケート競技人口の推移

## 本県のスケート競技人口の推移①（県スポーツ保健課調べ）

【スケート連盟 スピード選手登録者数】

単位：人

	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3
小学	11	5	8	6	7	4
中学	6	11	8	6	3	4
高校	14	16	15	12	10	9
大学・一般	4	4	1	0	1	1
計	35	36	32	24	21	18

【スケート連盟 フィギュア選手登録者数】

単位：人

	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3
小学	6	6	5	3	0	3
中学	10	7	3	4	3	2
高校	3	1	2	3	3	3
大学・一般	0	0	0	0	1	2
計	19	14	10	10	7	10

## 本県のスケート競技人口の推移②（県スポーツ保健課調べ）

【アイスホッケー連盟 選手登録者数】

単位：人

	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3
小学	16	12	13	8	12	10
中学	17	8	7	5	8	6
高校	10	10	6	0	6	6
大学・一般	57	31	59	42	50	22
計	100	61	85	55	76	44

【アイスホッケー連盟 登録チーム】

	チーム数	備 考
小学	2	山形、庄内
中学	2	山形、庄内
高校	1	山形アイスホッケークラブ
大学	1	山形大学
一般	3	山形3チーム

(山形県 HP 屋内スケート施設あり方検討会議資料より)

## 現施設の現状と課題

## 【現状】

1 竣工日 平成元（1989）年 11 月 15 日 令和 5（2023）年 11 月 15 日で 34 年経過

2 建設費 908,105 千円（工期：H元年 3 月～11 月（9 ヶ月））

施設設備等	屋外リンク	1 周 400m
	冷凍機	遠心冷凍機 2 基 冷凍能力：907,200kcal/h（ブライン仕様）
	リンク面冷却方式	樹脂マット方式（脱着可能）
	管理棟床面積	955.098 m <sup>2</sup> （S 造平屋建）
	リンク面照度	300LX
付帯施設	男女更衣室（各 1 室）／男女トイレ（各 1 ヶ所）／放送室（拡声装置）／会議室／貸靴室／事務室／氷上員室／機械室	

## 3 整備・修繕履歴

和暦	西暦	山形市総合スポーツセンタースケート場		
		経過年数	内容	金額(千円)
H1	1989年度		スケート場完成	908,105
H2	1990年度	1年	スケート場フラッグポール設置	3,708
H3	1991年度	2年	スケート場リンク整備	16,171
H6	1994年度	5年	スケート場リンク整備	22,660
H13	2001年度	12年	スケート場リンク改修	26,775
			スケート場リンク配管改修	39,690
H21	2009年度	20年	スケート場リンク防水	868
			スケート場冷却ファン軸受改修	683
H22	2010年度	21年	スケート場水槽清掃整備修繕	764
H24	2012年度	23年	リンク床下地漏水対策	798
			冷凍機ブライン漏れ修繕	822
H25	2013年度	24年	スケート場外周柵等改修工事	20,370
			リンク床下地改修	998
H26	2014年度	25年	リンク内配管保場修繕	584
			排水槽サブトレチ内清掃修繕	941
H29	2017年度	28年	競技時計計測システム修繕	3,024
			倉庫解体	6,522
H30	2018年度	29年	スケート場冷却水ポンプ整備	594
			スケート場冷却水ポンプ整備	1,242
R1	2019年度	30年	スケート場冷却塔プーリー交換	832
			スケート場冷却塔プーリー交換	2,494
R2	2020年度	31年	スケート場冷却塔プーリー更新	2,494
			冷却水フート弁・冷却塔プーリー更新	7,150
			スケート場冷凍機修繕前処理	748
R3	2021年度	32年	スケート場冷凍機修繕	4,242
			ブラインポンプ・ブライン補給回収ポンプ更新	21,098
			スケート場パイプカバー修繕	589
R4	2022年度	33年	スケート場巾木交換	858
			燃料油ポンプ・散水ポンプ・温水循環ポンプ更新	9,753
累計費用				1,103,083

152,439

↑ 建設費を除く

## 資料 3

### 4 ランニングコスト

令和元年度～令和4年度 山形市総合スポーツセンタースケート場維持管理費（実績報告）

（単位：円）

1. 収入の部	R1	R2	R3	R4
科 目	収入決算額	収入決算額	収入決算額	収入決算額
1 利用料金収入	6,993,300	5,056,800	4,644,550	6,603,600
2 自動販売機等手数料収入	2,087,550	1,279,710	1,210,230	1,825,650
合 計	9,080,850	6,336,510	5,854,780	8,429,250

2. 支出の部	（単位：円）			
科 目	収入決算額	収入決算額	支出決算額	支出決算額
1 通信運搬費	82,470	73,746	82,653	81,000
2 消耗品費	1,299,402	1,995,848	1,847,217	306,742
冷却設備関係	1,009,800	1,504,800	1,320,000	0
整備消耗品	289,602	491,048	527,217	306,742
3 修繕費	2,493,344	4,989,600	2,842,100	5,796,956
設備電気関係	594,000	3,652,000	918,500	4,473,986
整備器具関係	1,899,344	1,337,600	1,923,600	1,322,970
4 保険料	55,000	55,000	55,000	55,000
5 委託料	33,762,960	33,762,960	33,762,960	33,762,960
管理運営業務委託	29,844,360	29,844,360	29,844,360	29,844,360
機械設備保守点検	3,458,400	3,458,400	3,458,400	3,458,400
清掃委託	460,200	460,200	460,200	460,200
6 光熱水費	32,070,585	33,006,756	27,587,252	41,116,231
電気料金	28,074,876	29,735,376	23,582,362	37,142,447
水道料金	2,317,186	1,733,981	2,283,708	2,152,640
プロパンガス料金	219,871	58,732	50,279	0
灯油料金	939,620	927,564	1,119,800	1,254,731
ガソリン料金	519,032	551,103	551,103	566,413
合 計	69,763,761	73,883,910	66,177,182	81,118,889

出典：指定管理者（山形市スポーツ協会）

### 5 利用料金

#### 【個人利用料金】

使用者区分	滑 走 料	回数券 (11回分)	貸 靴 料
一 般	500 円	5,000 円	一律 300 円
高 校 生	300 円	3,000 円	
中学生以下	200 円	2,000 円	

## 【専用利用料金】

使用時間区分		①9時～12時②12時～15時 ③15時～18時④18時～21時	21時～翌日 9時まで	
アマチュアスポーツ に使用する場合	入場料を徴収 しない場合	一使用時間区分 につき	12,000円	4,000円(1h)
	入場料を徴収 する場合	一使用時間区分 につき	36,000円	12,000円(1h)
アマチュアスポーツ以外に使用する場 合		一使用時間区分 につき	72,000円	24,000円(1h)
フィールドのみを使用する場合		一使用時間区分 につき	1,000円	1,000円(1h)

## 【課題】

## 1 施設の老朽化

## (1) 仮設物

山形市総合スポーツセンタースケート場は平成4年度の「べにばな国体」スピードスケート競技会場として平成元年に仮設で建設され、以後34年間リンクや設備の修繕を行いながら使用している。

## (2) 臨時休業

令和元年度 ブライン管の破損により22日間（11月23日～12月14日）臨時休業  
老朽化により今後も同様の事態が懸念される。

## (3) フロン11の生産終了

現施設の冷媒はフロン11を使用しているが生産終了しているため、流通・在庫状  
況から早ければ今後7年程度で供給停止となる見込み（三菱重工冷熱機）である。

## (4) 今後想定される修繕内容

現施設を使用していく場合はフロンを使用しない自然冷媒（アンモニアや二酸化炭  
素などの環境にやさしい物質を使用した冷媒）冷凍機への切り替えが必要となる。

（参考）令和3年度 郡山市磐梯熱海スポーツパークスケートで冷媒機更新 803,000千円

## 2 冬期間のみの開放

現施設は11月～2月の開放期間となっており、それ以外の期間は遊休施設となってい  
る。

## 3 安全マットの収納スペース

管理棟に全ての安全マットを収納することができないため、一部屋外で保管している。  
全体の半分の安全マットを更新したが、劣化を防ぐため屋内収納が望まれる。

## 山形市スポーツ推進計画 2028 における方向性

## 第3章 今後5年間に取り組む具体的施策

## 基本方針3 市民のスポーツ活動を支える環境整備

## 基本施策 3-1 スポーツ施設の充実

主要なスポーツ施設は老朽化に対応する長寿命化・機能維持を行うとともに、成果指標である「スポーツ実施率」は横ばい、「国際・全国・東北大会等開催数」は減少しており、気軽に使える施設の整備や全国大会等が開催できる施設整備等が必要となっています。

なお、広域利用に資する施設については、山形県体育館・山形県武道館の代替施設や新規施設の整備、既存施設の機能強化が必要になっており、山形県等の関係機関と協議を行い整備に向けた方向性やそれぞれの役割分担を明確にする必要があります。

また、山形県は屋内スケート施設あり方検討会議を設置していることから、県の検討状況を注視しながら、山形市独自でも懇談会を開催して、外部有識者の意見を聞きながら、市として総合スポーツセンタースケート場の今後の方向性を調査・研究・検討します。

なお、スポーツ施設の整備充実のためには、多額の資金が必要となるため、費用対効果の最大化、民間活力の活用、国や関係団体からの財源の確保などに努めます。

## (2) スポーツ施設の維持管理・長寿命化

新たな種目の増加やデジタル技術の普及などにより、施設や設備に求められる機能は年々多様化、高度化しており、これらに対応する環境の整備が求められるとともに、主要なスポーツ施設は経年劣化による老朽化が進んでいます。

また、本市は、同人口規模の都市と比較しても過剰にスポーツ施設を有しているわけではなく、施設を廃止する場合は、同等の代替機能確保の検討が必要となっています。

## 【主な取組】

## ① 屋外スケート場整備についてのあり方検討 【新】

山形市総合スポーツセンタースケート場は、県内唯一の400mリンクとして公認大会が開催されている競技スポーツ施設です。施設の老朽化が著しいことを踏まえ、山形市独自で懇談会を開催して、外部有識者の意見を聞きながら、市としての今後の方向性の調査・研究・検討を行います。

なお、検討にあたっては、山形市民に留まらない広域利用がある身近なスポーツ施設としての役割も担っていることから、広域利用に資する施設として整備の促進に向けて山形県等の関係機関と協議を行います。

## (3) 広域利用施設の整備促進

県内唯一または近隣市町村住民の広域利用が相当見込まれる施設は、整備等の役割分担や費用負担のあり方などについて山形県と協議を行います。

また、人口の集積や交通アクセスなどでの県庁所在地の優位性を生かし、交流人口拡大に向けた施設の整備や充実、県全体の競技力向上に繋がる施設として県内唯一となる施設や、広域利用に資する施設整備の促進に向けた方向性や役割分担について山形県等の関係機関と協議を行います。

## ② スケート場整備についての検討 【新】

山形県は屋内スケート施設のあり方について検討していることから、その検討状況を注視していきます。

加えて、山形市総合スポーツセンタースケート場のあり方にあたっては、山形市民に留まらない広域利用がある身近なスポーツ施設としての役割も担っていることから、山形県等の関係機関と協議を行います。

## 資料5

### 他施設の状況

東北のスケート場状況 (公財)日本スケート連盟ホームページより 2021年8月現在

① スケート場の数

県名	山形県	青森県	岩手県	秋田県	宮城県	福島県
計	3	7	7	2	2	3

② 種別

	山形県	青森県	岩手県	秋田県	宮城県	福島県
トラック	1	1	1	1	0	1
アリーナ	2	6	6	1	2	2

③ 屋内・屋外の別

	山形県	青森県	岩手県	秋田県	宮城県	福島県
屋内	1	6	6	2	2	1
屋外	2	1	1	0	0	2

④ 公営・民営の別

	山形県	青森県	岩手県	秋田県	宮城県	福島県
公営	3	6	6	2	0	3
民営	0	1	1	0	2	0

## 資料5

## ⑤ スケート場詳細

※ [ ] は民営

	施設の名称	規模	観客席数	営業団体	開設年月日	開業期間
青森県	YSアリーナ八戸 (八戸市)	屋内400m トラック	3,045	八戸市	R01.08.24	リンク 7月～3月
	八戸市長根公園バイピングスケートリンク (八戸市)	屋外 60m×28m	300	エスプロモ (株)	S45.11.19	11月～2月
	テクノアイスパーク八戸 (八戸市)	屋内 60m×30m	2,046	エスプロモ (株)	S59.05.21	9月～4月
	FLAT HACHINOHE (八戸市)	屋内 60m×30m	3,500	クロススポ ーツマーケ ティン グ(株)	R02.04.01	通年
	青森県営スケート場 (青森市)	屋内 250mトラック 60m×30m	2,028	青森県管 理者 盛運輸(株)	S60.11.23	10月～3月
	三沢アイスアリーナ (三沢市)	屋内 60m×30m	1,548	三沢市	H06.10.01	8月～4月
	ふくちアイスアリーナ (南部町)	屋内 60m×30m	—	(一財)南部町 健康増進公社	H05.11.01	11月～4月
岩手県	岩手県営スケート場 (盛岡市)	屋外400m トラック	1,600	(公財)岩手県 スポーツ振興 事業団	S47.11.15	11月～3月
	岩手県立県北青少年の家 スケート場(二戸市)	屋内 60m×30m	300	(公財)岩手県 スポーツ振興 事業団	S59.11.01	11月～3月
	みどりの郷アイスアリーナ (金ケ崎町)	屋内 60m×30m	300	ホテルみど りの郷	S59.11.01	10月～4月
	山田町立屋内アイススケート場 (下閉伊郡山田町)	屋内 32.5m×22.9m	—	山田町	H03. .	11月～3月
	盛岡市アイスリンク (盛岡市)	屋内 60m×30m	96	(公財)盛岡市 スポーツ協会	H27.9.19	通年
	千厩アイスアリーナ (一関市)	屋内 40m×30m	—	(一社)一関市 体育協会	H06.10.	12月～3月
	石鳥谷アイスアリーナ (花巻市)	屋内 60m×30m	300	(一社)花巻市 体育協会	H07.03.05	11月～3月
宮城県	アイスリンク仙台 (仙台市)	屋内 56m×26m	—	(株)加藤商会	H19.03.22	通年
	ウェルサンピアみやぎ泉 (黒川郡大和町)	屋内 60m×30m	—	厚生年金事業 団	不明	11月～3月
秋田県	秋田県立スケート場 (秋田市)	屋内333×13m トラック	—	(一財)秋田県 総合公社	S46.11.10	10月～3月
	秋田県立スケート場 (秋田市)	屋内 60m×30m	—	(財)秋田県総 合公社	S46.11.10	10月～3月
山形県	山形市総合スポーツセンター スケート場	屋外400m トラック	—	(公財)山形市 スポーツ協会	H01.12.01	11月～2月
	小真木原スケート場 (鶴岡市)	屋外 60m×30m	—	鶴岡市	H04.12.19	12月～2月
	スワンスケートリンク (酒田市体育館)	屋内 37.4m×27m	644	酒田市	H06.12.15	11月～3月
福島県	石川スケート場 (石川郡石川町)	屋外 60m×30m	—	(一財)母畑レイク サイドセンター運 営協会	S57.12.	12月～2月
	磐梯熱海スポーツパーク 郡山スケート場(郡山市)	屋外400m トラック	1,115	ゼビオコーポ レート(株)	H03.12.	12月～3月
	磐梯熱海アイスアリーナ (郡山市)	屋内 60m×30m	216	ゼビオコーポ レート(株)	H06.11.	9月～5月
新潟県	リージョンプラザ上越 アイスアリーナ(上越市)	屋内 60m×30m	228	新東産業(株)	S60.9.29	9月～5月
	新潟県立柏崎アクアパーク (柏崎市)	屋内 60m×30m	300	(公財)かしま ぎ振興財団	H5.11	11月～2月末
	MGC三菱ガス化学アイスアリーナ (新潟市)	屋内 60m×30m	1,000	新潟パティネ レジャー	H26.2.1	通年

※日本スケート連盟HPに掲載されている東北ブロック+新潟県のスケートリンク

【建設費比較】	屋内400mトラック			屋外400mトラック			
	YSアリーナ八戸 (長根屋内スケート場)	明治北海道十勝 オーバル	長野市オリンピック記念アリーナ (エムウエーブ)	磐梯熱海スポーツパーク 郡山スケート場	真駒内セキスイハイム スタジアム	軽井沢風越公園スケートリンク 改修	山形市総合スポーツセンタースケート場
開設年	R1.8	H21.9	H8.11	H3.12	S.45.12	H22.12.11	H1.12
敷地面積	62,274㎡	104,900㎡	111,500㎡	39,000㎡	約46,000㎡	HP記載なし	約22,200㎡
延床面積	26,274㎡	19,218.38㎡	76,100㎡	管理棟1,454.49㎡ 機械室480.00㎡ 倉庫240.00㎡	1階5,119.83㎡ 2階2,072.84㎡ その他343.00㎡	記録室棟193.06㎡	管理棟955.09㎡
構造	鉄筋コンクリート造	鉄筋造・一部鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造	鉄筋造	鉄筋造
階数	3階	2階	3階	3階	2階	平屋	平屋
リンク	屋内400mトラック	屋内400mトラック	屋内400mトラック 屋内60m×30m	屋外トラック400m	屋外トラック400m	屋外トラック400m	屋外トラック400m
リンク開設期間	7月下旬～3月中旬	7月第4日曜～3月第1日曜	10月～3月	12月1日～2月末日	12月～2月中旬	11月下旬～2月下旬	11月23日～2月末
	中地 人工芝コート、多目的コート ランニングコース 2レーン	中地多目的広場：通年 ランニング走路：通年	夏場エンターテインメント会場としての利用	スケート場(夏期)4月1日～10月31日	<夏期>テニスコート(最大8面)、フットサルコート(最大4面)、テニスマシン専用コート(2面)	夏期 ローラースケート フットサル2面	冬期間のみ営業
観客席	3,045	3,000	6,400	1,115	17,324	162	-
駐車場	600台	318台	800台	約300台	150台	553台	230台/2150台
整備費	126億円	55億8,390万円	348億円	14億9,883万円	13億6,000万円	改修 8億8,305万円	9億811万円

R2冷凍機更新8億300万円

(出典：各施設HP等より)

■屋外400mトラック JFS 日本スケート連盟HPより抽出

地域	名称	観客席	開設年月日	開業期間	建設費
中部	軽井沢風越公園スケートリンク	162	H22.12.11	11月下旬～2月下旬	8億8,305万円
中部	岐阜県クリスタルパーク恵那スケート場	2,000	H17.11	11月～2月	
北海道	中標津町運動公園スピードスケート場	-	H15.12.1	12月～2月	
北海道	根室総合運動公園スケートリンク	-	H8.1.6	12月～2月	
中部	松原湖高原スケートセンター	-	H6.12.3	11月～2月	
中部	岡谷市やまびこ国際スケートセンター	917	H6.11.23	11月下旬～2月中旬	
関東	日光霧降スケートセンター (屋外スピードリンク)	750	H3.12.31	11月～3月	
東北	磐梯熱海スポーツパーク郡山スケート場	1,115	H3.12.	12月1日～3月10日	14億9,883万円
東北	山形市総合スポーツセンタースケート場	-	H1.12.1	11月23日～2月末	8億300万円
中部	茅野市運動公園国際スケートセンター (NAO Ice OVAL)	800	H1.12.1	11月下旬～2月下旬	9億811万円
関東	北杜市八ヶ岳スケートセンター	-	S61.12.7	11月下旬～2月末	
関東	富士急ハイランドコドモニアフオレストセイコイオーバル	1,200	S60.11.1	12月～3月	
北海道	千歳市青空公園スケート場	-	S60.11.	1月～2月中旬	
北海道	別海町営スケートリンク	-	S.56.11.10	12月～2月	
北海道	美幌 大正橋スケートリンク	-	S.53.01.	12月～2月	
北海道	網走市営スケートリンク	-	S52.12.20	1月～2月末日	
東北	岩手県営スケート場	1,600	S47.11.15	11月～3月中旬	
北海道	釧路市柳町スピードスケート場	883	S46.12.11	11月～3月	
北海道	真駒内セキスイハイムスタジアム	17,324	S.45.12.01	12月～2月中旬	13億6,000万円
北海道	苫小牧市ハイランドスポーツセンター屋外リンク	700	S42.12.10	11月～3月	
関東	群馬県総合スポーツセンター伊香保リンク	400	S42.1.1	11月～2月末	
北海道	斜里町営スケートリンク	-	-	1月～2月中旬	
北海道	清里町営スケートリンク	-	-	1月～2月中旬	
北海道	小清水町営スケートリンク	-	-	1月～2月中旬	
北海道	標津町営スケートリンク	-	-	12月～2月	
	近畿・中国・四国・九州は400mトラックなし				

■屋内400mスケートリンク

地域	名称	観客席	開設年月日	開業期間	建設費
東北	YSアリーナ八戸 (長根屋内スケート場)	3,045	R1.8.24	7月下旬～3月上旬	126億円
北海道	明治北海道十勝オーバル	3,000	H21.9.1	7月～3月	55億8,390万円
中部	長野市オリンピック記念アリーナ(エムウェーブ)	6,400	H8.11.	10月～3月	348億円

地域	400mリンク		計
	屋内	屋外	
北海道	1	13	19
東北	1	3	19
関東	0	4	24
中部	1	5	17
近畿	0	0	14
中国	0	0	7
四国	0	0	2
九州	0	0	6
	3	25	108
			136

# 山形市における屋外スケート施設あり方検討懇談会報告書【概要版】

## 1 背景

山形市のスケート環境の現状は、フィギュアスケートやアイスホッケー競技の公式大会を開催できる施設はなく、スピードスケート競技は、山形市総合スポーツセンタースケート場が全国的なスピードスケートに係る競技会を開催する基準を満たしているものの、冬期間のみの利用となっている

### 【老朽化】

- 山形市総合スポーツセンタースケート場は平成元年11月に仮設で整備され、竣工から34年が経過し施設の老朽化が進んでいる
- 冷凍機に使用しているフロンが生産終了となり、あと7年程度で入手不可となる見込み

### 【利用者数】

- 平成元年度～令和4年度の累計利用者数930,562人（年平均27,369人）



## 2 検討結果

### (1)山形市における屋外スケート場の必要性

スピードスケート競技用の屋外スケート施設は県内唯一で他に代替施設がないことから、その機能存続が望ましい

### 【望まれる機能】

- スポーツを気軽に親しむ施設
  - 冬期間における運動機会の提供
  - 冬期間における運動不足の解消
- 子どもたちがスケートに触れる機会の確保
  - 幼児期から様々なスポーツに触れる機会が向上
  - 競技人口の増加と普及
- アスリート育成の拠点確保
  - オリンピックやメダリストを輩出しているトラック
  - 次世代のアスリート育成に資する練習拠点

### (2)大規模改修もしくは新規整備についての考え方

大規模改修と新規整備の利点や課題を比較すると、新規整備が望ましい

	大規模改修	新規整備（現地、移転）
利点	<ul style="list-style-type: none"> <li>整備期間が新規整備より短い</li> <li>新規整備より整備費が安価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>維持管理運営コスト削減につながる整備が可能</li> <li>使用しながらの整備が可能（移転）</li> <li>今後の長期の使用に耐えられる施設整備が可能</li> <li>複合施設の検討が可能</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用しながらの整備は不可</li> <li>今後の長期間の使用に耐えられない</li> <li>拡張性がなく、複合機能は限定的</li> <li>冷凍機の更新は必須（フロン生産終了）</li> <li>ランニングコストを考慮した冷凍機の更新が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用しながらの整備は不可（現地）</li> <li>整備費が大規模改修よりも高額</li> <li>移転の場合の場所の選定</li> </ul>

### (3)整備にあたり望まれる機能

費用対効果を高め持続可能な運営を目指すため、冬期間のスケートだけでなく通年活用できるよう複合的な機能が望ましい

- スピードスケートの400mトラックの整備が望ましい
- 付加すべき機能の検討
 

スケート以外にもより多くの方から有効に活用いただける多機能性を有する施設について次の視点からの検討が望ましい

  - アーバンスポーツ
    - ✓スケートボード、スポーツクライミング、パルクールなど
  - 市民の健康増進機能
    - ✓冬期間の生活の質の向上や交流、運動不足の解消など
    - ✓公共交通機関の利便性も考慮が必要
  - スピードスケート以外のスケート機能
    - ✓フィギュアスケートやアイスホッケー親子連れが楽しめる機能
  - 食事、娯楽、温泉等冬を楽しめる機能の充実
  - 機能を付加する場合の留意点
    - ✓全体を見渡せるようフィールド内に高さのある構造物は避ける
    - ✓スケート以外の機能や多目的な活用を検討し収入の面でも多角化できるような事業性も検討
    - ✓施設全体のサービス最適化と経営の効率化の両面から検討
    - ✓屋内施設は天候に左右されずスケートに踏み出すきっかけとなることや、付加する機能について選択肢が広がる
    - ✓屋外施設はのびのびと運動する機会ができるという代えがたいところもあり、それぞれの利点を考慮した方針決定が必要

### (4)その他新規整備にあたって留意すべき事項

新規整備を検討するうえで、より多くの方々から利用される施設として整備していくために次の点に留意が必要となる

- 適地の検討
  - 幅広い世代がアクセスしやすい場所への立地
  - 車社会の傾向を踏まえた駐車場の確保など、自家用車利用の利便性と合わせて、公共交通機関の利便性を考慮
  - 用地取得や、造成・整地を極力要しないよう公有地利用を前提

### ② 広域利用

- 山形市のみならず広域利用を見据えた設備や機能
- 稼働率等を考慮し、より多くの利用が見込めるよう検討

### ③ 夏季の活用方法（暑さ対策）

- 通年、多機能の利用を検討するうえで夏季の暑さ対策は重要

### ④ 屋内スケート施設との連携のあり方

- 山形県が検討を行っている屋内スケート施設や他の競技施設やスケート施設同士の関わり方についても連携した整理が必要

### ⑤ 費用対効果

#### ア. 整備コスト

- 八戸市（YSアリーナ）長野市（エムウェーブ）などのハイレベルなものが望ましいが、費用対効果を考えると疑問
- 市民が日常的に利用できるとともに、高校生をはじめ次世代を担うアスリートが気軽に練習や合宿等で利用できるグレードの施設を整備し、稼働率を上げるよう工夫

#### イ. 運営コスト

- スケート施設はその整備コストのみならず、整備後の運営コストについても留意が必要
- 恒常的に過度な財政負担は、持続可能な運営が困難となるため、財政負担の抑制策を検討

### (5)その他

屋外スケート施設の検討と併せて、環境や施設の特長、レジャー利用からのスケート競技の普及についても検討が必要となる

- 環境負荷の低減（カーボンニュートラル）
  - 徹底した省エネの推進、再生可能エネルギーの導入という視点
  - 冷凍機についても環境にやさしい機器の整備を検討
- 競技施設としての整備
  - 人口減少に伴い、スケートの競技人口も減少傾向
  - 東北地方全体での連携なども考慮していく時期にきている
  - 大規模な大会の開催については、運営体制やスタッフを十分に整える必要があるものの、現状では難しい状況にある
  - 競技に特化した施設ではなく、スケートの魅力を十分に体感できる施設を基本に多目的に年間を通じて多くの方から利用される施設整備と運営を検討
- 樹脂スケートリンクの検討
  - 樹脂リンクは建設費や維持管理費は氷のリンクより安く、CO2の排出量も抑えられることや、レジャー目的の利用など市民の健康増進機能やスケートを気軽に取り組むきっかけとなることが期待される

## 山形市スポーツ推進計画（平成30年度から令和4年度）の最終評価について

資料5

前計画の評価について(平成4年度末データ反映済)

【成果指標について】

- 1「2020年東京大会事前合宿回数」  
・直前合宿は中止となりましたが、平成30年度～令和元年度に、タイ、台湾、サモアのナショナルチームが合宿を実施しました。
- 2「新たに整備するスポーツ施設数」  
・山形市グラウンド・ゴルフ場(認定コース)と地域運動広場(飯塚、鈴川、浜江)を整備しました。  
・広域利用に資するあかねヶ丘陸上競技場(令和3年度より山形県からの貸与)を改修しました。  
・西部工業団地公園再編事業に合わせてソフトボール場(全国大会開催を視野に入れた)3面確保可能なスポーツ施設整備を進めています。
- 3「山形市民スポーツフェスタ参加者数」、「山形シティマラソン大会及び関連イベント参加者数」、「体育施設の利用者数」  
・新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴うスポーツ大会やイベント、スポーツ教室中止、市民の外出活動の制限・自粛など影響を受けました。  
・新型コロナウイルス感染症感染拡大前となる令和元年度(2019年度)時には、目標値を超えており、コロナウイルス収束により一定の効果が見込まれます。
- 4「地区スポーツ、レクリエーション行事への参加人数」、「スポーツ少年団加入率」  
・新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴うスポーツ大会やイベント、スポーツ教室中止、市民の外出活動の制限・自粛など影響を受けました。  
・新型コロナウイルス感染症感染拡大前となる令和元年度(2019年度)時には、目標値を超えており、コロナウイルス収束により一定の効果が見込まれます。
- 5「スポーツ実施率」  
・目標値には達していないものの、新型コロナウイルス感染症感染拡大後もやや増加傾向にあり、今後の動向を注視していく必要があります。
- 6「市民の全国大会、国際大会出場状況」、「東北・北日本・東日本・全国・国際大会開催数」  
・コロナ禍前に比べれば減少しており、コロナウイルス収束後は横ばい又は微増となっており、今後、改善に向けた取り組みが必要です。

前計画成果指標				令和4年度 (2022年度)	令和元年度 (2019年度) 【コロナ禍前】	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	目標値達成状況			
基本方針	指 標	前計画策定時の値		目標値							
基本方針1 誰もが生涯にわたってスポーツに親しむ健康なまちづくり	スポーツ実施率(成人週1回以上)	53.1%	2016年	65.0%	※4年に1回の実施のため	↘	53.8% ※2021年度データ	↘	前計画策定時の値よりは上昇しているが、4年に1回の実施のため、目標値には達成していない。		
	山形市民スポーツフェスタ参加者数	5,751人	2017年	6,000人	○ 7,252人 ※荒天中止のため前年度数値	↘	928人	↘	2,687人	前計画目標値を6,000人と設定し、令和元年度において、目標値を上回ったが、新型コロナ感染状況により、イベント中止や参加者減少などがあり、目標値までは達成できなかった。	
	地区スポーツ・レクリエーション行事への参加者数	27,701人	2016年	30,000人	↘	28,757人	↘	11,360人	↘	14,431人	前計画目標値を30,000人と設定し、令和元年度において、目標値に迫る参加者数であったが、新型コロナ感染状況により、地域行事の中止が数年続き、目標値までは達成できなかった。
基本方針2 アスリートの活躍を支える競技スポーツの推進	市民の全国大会、国際大会出場状況(出場奨励費交付実績)	665人	2016年	700人	↘	656人	↘	342人	↘	491人	前計画目標値を700人と設定したが、新型コロナ感染状況により、大会中止などの影響から目標値までは達成できなかった。
	スポーツ少年団加入率(小学生)	18.1%	2017年	19.0%	↘	18.5%	↘	16.5%	↘	17.0%	前計画目標値を19%と設定し、令和元年度において、目標値に迫る加入率であったが、新型コロナ感染状況により、スポ少活動が制限されたことや少子化なども要因となり、目標値までは達成できなかった。
基本方針3 スポーツを通じた交流促進による明るく活気あるまちづくり	山形シティマラソン大会及び関連イベント参加者数	5,531人	2017年	5,800人	○	5,953人	↘	1,209人	↘	3,607人	前計画目標値を5,800人と設定し、令和元年度において、目標値を上回ったが、新型コロナ感染状況により、イベント中止や参加者減少などがあり、目標値までは達成できなかった。
	東北・北日本・東日本・全国・国際大会開催数(補助金・負担金交付実績)	23件	2017年	25件	↘	15件	↘	12件	↘	12件	前計画目標値を25件と設定したが、新型コロナ感染状況により、大会中止などの影響から目標値までは達成できなかった。
	2020年東京大会事前合宿回数(2018年度～2022年度累計)	-	-	3回	○	4回	○	4回	○	4回	目標達成
基本方針4 市民のスポーツを支える環境整備	新たに整備するスポーツ施設数(2018～2022年度累計)	-	-	3施設	○	4施設	○	5施設	○	5施設	目標達成
	体育施設の利用者数	655,845人	2016年	700,000人	○	719,542人	↘	508,775人	↘	664,775人	前計画目標値を700,000人と設定し、令和元年度において、目標値を上回ったが、新型コロナ感染状況により、大会中止、利用制限などが要因となり、目標値までは達成できなかったが、前計画策定値までは回復している。

凡例 ○ 目標達成 ↘ 目標値は達成していないが増加傾向 ↘ 目標値は達成していません横ばい又はは減少傾向

最終評価：令和4年度実績から、「体育施設の利用者数」については、前計画策定時(2016年度)の値を超えましたが、その他の指標については、1年前の評価と変わりませんでした。

## 山形市スポーツ推進計画2028の進捗状況について 令和5年度スポーツ推進事業の報告

### 基本方針1「誰もが生涯にわたってスポーツに親しむ健康なまちづくり」

成果指標	令和4年度	令和5年度	目標値 令和9年度
スポーツ実施率（成人週1回以上） ※県政アンケートより	58.3%	58.3%	65.0%
山形市民スポーツフェスタ参加者数	2,687人	3,750人	7,500人
地区スポーツ、レクリエーション 行事への参加者数	14,431人	17,204人	30,000人

#### 1-1 生涯にわたるスポーツに親しむ機会の充実

##### (1) 山形市民スポーツフェスタ

山形市総合スポーツセンターを主会場に、スポーツ参画人口の拡大やスポーツを通じた健康増進を目的に、子どもから高齢者までの多世代の市民を対象として、東京オリンピック以降盛り上がりを見せているアーバンスポーツや障がい者向けスポーツの体験、健康づくりに向けた軽スポーツの紹介を行った。

- ・開催日：令和5年10月8日（日）
- ・内容：21プログラム 3,750名参加

##### ① メインプログラム

スケートボード、ボルダリング、スラックライン、ブレイキンの体験

##### ② その他のプログラム

羽賀龍之介氏、中村美里氏による柔道教室、VRによるスキージャンプ体験、モンテディオ山形ファミリーサッカー教室、楽天イーグルス野球教室、パスラボ山形ワイヴァンズバスケットボール教室、ボッチャ・カローリング・モルック体験会、みんなで歩こうさわやかウォーキング、地区親善グラウンド・ゴルフ大会 飲食ブース等

#### 1-2 郷土愛の醸成や定住につなげる若者のスポーツ参加の促進

##### (1) 「(仮称)アーバンスポーツ普及方針」策定と推進

本市におけるアーバンスポーツの関心やニーズ、大会等の参加状況及び施設の整備状況などの実態把握に努め、「アーバンスポーツ普及方針(案)」を作成した。今後、競技団体や関係者の意見を聞き、令和6年度中の完成を目指す。

### 1-3 ウィンタースポーツへの参加の促進

#### (1) FIS女子ジャンプワールドカップ2024蔵王大会

今大会は雪不足の中、蔵王エコーラインから雪を搬入し、陸上自衛隊や関係団体の協力により開催した。

- 1 開催日程：令和6年1月19日から21日 3日間
- 2 会場：アリオンテック蔵王シャンツェ
- 3 参加者：14か国99名（内選手50名 ※日本選手12名）
- 4 観客数：19日（個人戦第1戦）900名  
20日（スーパーチーム）1,500名  
21日（個人戦第2戦：悪天候により中止）400名  
延べ2,800名

### 1-4 中学校運動部活動の地域移行

#### (1) 検討協議会の設置

学識経験者や学校組織の代表者、文化スポーツ関係団体の代表者を構成員とした「山形市における部活動の地域移行に係る検討協議会」（以下「検討協議会」という。）を設置し、中学校の部活動の地域移行・地域連携に関する事、地域クラブ活動の在り方に関する事について検討を行った。

- ・構成員：学識経験者3名、関係団体6名、市職員4名 計13名
- ・開催状況：第1回 令和5年7月31日、第2回 令和6年2月27日

#### (2) コーディネーターの配置

部活動と受け皿団体をマッチングするコーディネーター3名（校長経験者）を配置した。

#### (3) モデル事業の実施

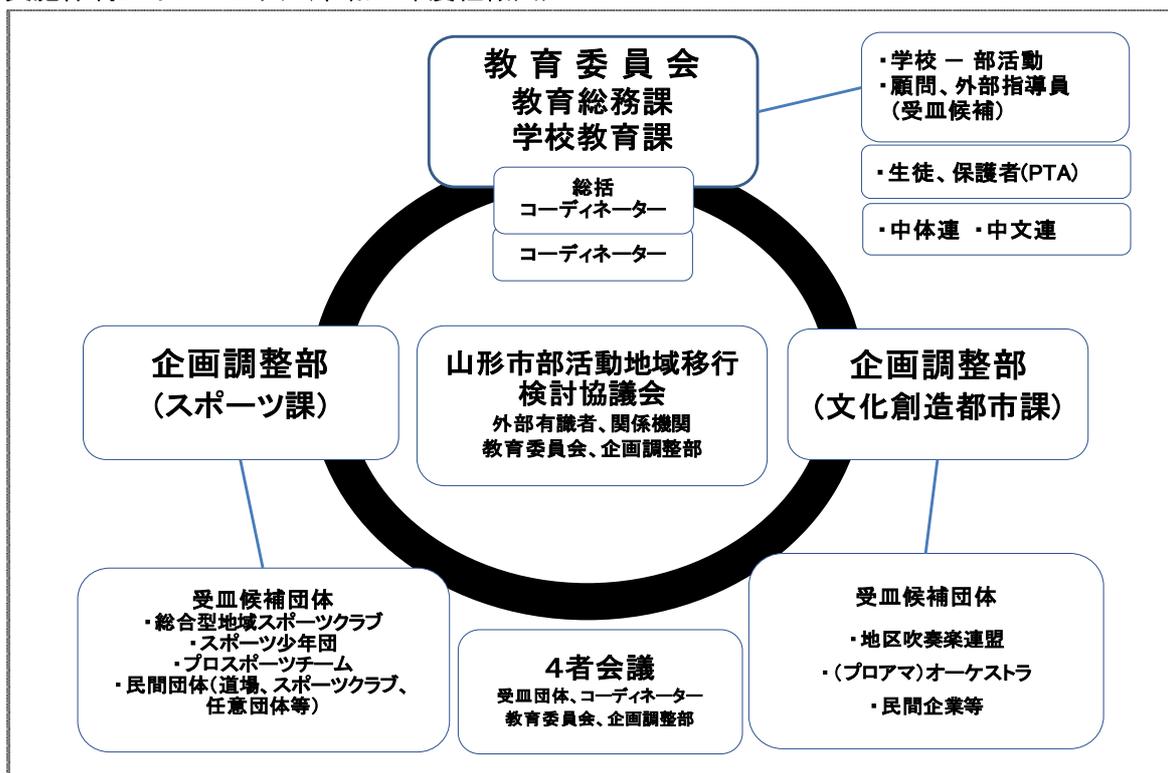
受け皿となる団体に休日の部活動を委託するモデル事業を実施した。四者会議（モデル事業の受け皿団体、コーディネーター、市、教育委員会）において、実施後の成果と課題について検討を行った。

- ・運動部活動：14部活動
- ・実施期間：令和5年10月～令和6年1月
- ・実施種目：（高楯中）野球、男子バスケ、女子バスケ、ソフトボール、卓球、剣道（競技団体等）なぎなた、ラグビー、ボルダリング、スケートボード、ハンドボール、バレーボール

#### (4) アンケート調査の実施

学校（小学5～6年とその保護者、中学1～2年とその保護者、中学校教職員）スポーツ団体等及びスポーツ少年団、文化のモデル事業に参加した生徒と保護者を対象に、今後の部活動の在り方に関するアンケート調査を実施した。

実施体制のイメージ図（令和5年度組織図）



## 基本方針2「スポーツを通じた活気あるまちづくり」

成果指標	令和4年度	令和5年度	目標値 令和9年度
国際・全国大会出場者数	491人	600人	700人
山形まるごとマラソン及び関連イベント参加者数	3,614人	5,438人	6,000人
国際・全国・東北大会等開催数	14件	14件	25件

### 2-1 スポーツの力による地域活性化と郷土愛の醸成

#### 2-1-1 競技スポーツの活性化（アスリートの育成と活躍の支援）

##### (1) サマースキージャンプ山形蔵王大会開催

将来にわたり世界の第一線で活躍できる次世代の選手育成を目指すとともに、夏の大会を開催することで、夏の蔵王の賑わい創出と新たなスポーツ文化、日本におけるスキージャンプの発展普及に貢献することを目的として開催した。

- ① 開催日 令和5年8月19日、20日
- ② 主催 (公財)全日本スキー連盟、山形県スキー連盟等
- ③ 会場 アリオンテック蔵王シャンツェ
- ④ 参加者 男子成年47名 少年31名 計78名、女子29名 (合計107名)
- ⑤ 観客数 1,500名

#### 2-1-2 スポーツによる交流人口・関係人口の増加と地域コミュニティの醸成

##### (1) 山形まるごとマラソン

第10回記念大会であり、お城マラソンに関連したイベントのほか、箱根駅伝参加チームの招待、インバウンドの受入れ等、新たな企画を実施する等、種目や定員をコロナ禍前の状態に戻すだけでなく、スポーツ振興や経済活性化の取り組みも行いながら開催した。

##### ○大会の概要

- ・開催日 令和5年10月1日(日)
- ・コース 山形市総合スポーツセンターをスタート・ゴールとした市街地コース
- ・種目、定員等 参加者5,438名

	種目	第10回大会
定員	ハーフ	定員 4,000 名 (参加者 4,133 名) 18 歳以上
	5 k m	定員 500 名 (参加者 557 名) 高校生以上
	3 k m	定員 一般 300 名 (参加者 216 名) ファミリー 400 名 (200 組) (参加者 226 組 532 名) 小学 4 年生～中学生、60 歳以上 小学生と保護者のペア
参加料	ハーフ	5,500 円
	5 k m	2,500 円
	3 k m	一般 1,500 円、ファミリー 3,000 円

## (2) 第78回国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会

令和4年度に市実行委員会を設立し、令和5年度は、山形市を会場として行われる競技（ジャンプ、コンバインドジャンプ）に必要な準備や広報啓発活動、関係機関等との調整を行い、大会を開催した。

- ・主催 (公財) 日本スポーツ協会、文部科学省、山形県、  
(公財) 全日本スキー連盟、山形市
- ・関係団体等 (公財) 山形県スポーツ協会、山形県スキー連盟
- ・開催期間 令和6年2月21日(水)～24日(土)(4日間)
- ・選手 スペシャルジャンプ 74名、コンバインドジャンプ 48名
- ・観覧者 2/21 300名 2/22 500名  
2/23 300名 合計1,100名
- ・実施競技及び会場

市町村名	競技名	施設名
山形市	ジャンプ	アリオンテック蔵王シャンツェ
	コンバインドジャンプ	
上山市	クロスカントリー	坊平高原クロカン競技場
	コンバインドクロスカントリー	
最上町	アルペン	赤倉温泉スキー場

※ 昭和59年に第39回大会が蔵王で開催されてから、本市では5回目の開催となり、山形市ではジャンプとコンバインドジャンプの2競技が実施された。

### (3) ドリームベースボール開催事業

一般財団法人自治総合センターによる、宝くじの社会貢献広報事業として、タイトルホルダー等の著名な元プロ野球選手からなるドリームチームと、開催地チームとの親善試合や野球教室等を行った。

- ・主催 (一財) 自治総合センター、山形市
- ・関係団体等 (公財) 山形県スポーツ協会、山形県野球連盟、山形地区野球連盟
- ・開催期間 令和5年10月29日(日)
- ・実施会場 きらやかスタジアム
- ・野球教室 小学生255名、中学生179名(合計434名)
- ・観客数 1,721名

## 2-2 プロスポーツとの連携の推進

### (1) プロスポーツチームの支援

#### ① モンテディオ山形

- ・市町村応援デー(7月22日)の実施
- ・リボンマグネット募金による支援活動 募金額 381,110円

#### ② 東北楽天ゴールデンイーグルス

- ・1軍公式戦(5月17日)の実施 観客数 9,912人
- ・ファーム公式戦(8月27日)の実施 観客数 2,049人

#### ③ 楽天イーグルス山形市支援協議会の活動

- ・応援パートナーの募集管理 登録者数1,039名(3/31現在)
- ・ポスター、チラシ、横断幕・応援フラッグの作成及び掲示

#### ④ パスラボ山形ワイヴァンズ

- ・公式戦開催に対する支援 スポーツセンター試合数8試合

### (2) その他の連携支援

第16回山形市民スポーツフェスタにおいて、東北楽天ゴールデンイーグルス、モンテディオ山形、パスラボ山形ワイヴァンズと連携して、スポーツ教室を実施した。

### 基本方針 3 「市民のスポーツを支える環境整備」

成果指標	令和 4 年度	令和 5 年度	目標値 令和 9 年度
スポーツ施設利用者数 ※山形市スポーツ課所管施設	664, 775 人	741, 759 人	730, 000 人
スポーツ施設の新設等	0 施設	0 施設	3 施設

#### 3-1 スポーツ施設の充実

##### (1) スポーツ施設の新設・拡充

###### ① 西部工業団地公園内スポーツ施設整備事業について

令和 4 年度に策定した基本設計によりスポーツ施設の実施設計を行っていたが、ソフットボール競技のルールが改正されることになり、これに合わせて実施設計の内容を変更した。

事業スケジュール

年 度	内 容
令和 4 年度	スポーツ施設整備に係る基本設計、実施設計(スポーツ施設分)
令和 5 年度	スポーツ施設整備に係る実施設計(スポーツ施設分)
令和 6 年度 以降	スポーツ施設整備工事 (令和 6 年 9 月着工、令和 9 年 6 月完了予定) 市道敷拡幅工事、備品等購入 用具庫兼管理棟整備工事 鋳物町運動広場・庭球場解体

##### (2) スポーツ施設の維持管理・長寿命化

###### ① 蔵王ジャンプ台スロープカー整備事業

女子スキージャンプワールドカップ等の大会における選手移動や物資の運搬等に使用されるスロープカーについて経年劣化していることから、車両を更新増設し、駅舎増築工事を行った。また、搭乗定員も増加することから観光資源としての活用を検討した。

【R 4 年度】・実施設計 20, 999 千円 ・改修工事 86, 010 千円

【R 5 年度】・改修工事 89, 100 千円 ・駅舎増築工事 42, 668 千円

合 計 238, 777 千円

###### ② 総合スポーツセンター改修整備事業

デジタルを活用した施設利用者へのサービスの向上、老朽化している施設の機能維持、施設利用者の競技力向上を図るため、施設改修や備品の購入を行った。

・体育館等 Wi-Fi 環境整備 5, 478 千円

- ・スケート場設備機器更新 1, 848千円
- ・卓球台購入 6台 1, 142千円

### ③ 市民プール改修事業

老朽化している市民プールについて安全に使用していくため、プール槽の塗装等の改修工事を行った。

- ・北市民プール改修（R4～5年度）
- ・みなみ市民プール改修（R4～5年度）

## (3) 広域利用施設の整備促進

### ① 山形県体育館・山形県武道館の整備促進

山形県体育館及び山形県武道館については、今なお多くの利用者がいることを踏まえ、撤去後の代替施設の山形市中心市街地への整備について、県知事への重要事業要望を行った。

代替施設の整備については、引き続き、山形県の担当部局と施設のあり方等について具体的に対応すべき課題を共有し、今後の方向性（整備主体・場所等）について丁寧に話を進めていく。

### ② 屋外スケート場整備についてのあり方検討

山形市総合スポーツセンタースケート場（以下「現施設」）は、開設から30年以上が経過しており、設備機器等が経年劣化している施設であることから、現施設の大規模改修又は新規施設の新築について、外部有識者を含めた懇談会を開催して、山形市におけるスケート施設の今後の方向性を調査・研究・検討を行った。

#### ・懇談会の開催

調査・研究・検討にあたっては、外部有識者を含めた懇談会を開催した。

#### ・先進都市の視察

先進都市のスケート施設の事例調査を実施した。八戸市、郡山市

基本方針				基本施策			
<b>基本方針1 誰もが生涯にわたってスポーツに親しむ健康なまちづくり</b>				<b>基本施策</b>			
基本方針名		達成度	平均点数	施策名		達成度	平均点数
誰もが生涯にわたってスポーツに親しむ健康なまちづくり		×	2.65	生涯にわたってスポーツに親しむ機会の充実		○	4.00
成果指標		達成度	点数	施策名		達成度	平均点数
スポーツ実施率(成人週1回以上)※県政アンケートより R5 58.3%/目標 65.0% = 89.69%		○	4.00	郷土愛の醸成や定住につなげる若者のスポーツ参加の促進		×	1.00
山形市民スポーツフェスタ参加者数 R5 3,750人/目標 7,500人 = 50.00%		△	3.00	ウインタースポーツへの参加の促進		○	4.50
地区スポーツ、レクリエーション行事への参加者数 R5 17,204人/目標 30,000人 = 57.34%		△	3.00	中学校運動部活動の地域移行		×	1.00
令和5年度 評価結果(基本方針1)				令和5年度 評価結果(基本方針2)			
各種スポーツ大会やイベントへの参加者数がコロナ禍前に回復してきている傾向が見受けられ、各施策において、50%を超える達成度であることから、概ねスポーツに親しむ環境整備が整いつつある。				プロスポーツに関連する公式試合や交流イベントの開催数が伸びており、交流人口の拡大や地域経済及び地域コミュニティの活性化が図られてきている。			
<b>基本方針2 スポーツを通じた活気あるまちづくり</b>				<b>基本施策</b>			
基本方針名		達成度	平均点数	施策名		達成度	平均点数
スポーツを通じた活気あるまちづくり		△	3.50	スポーツの力による地域活性化と郷土愛の醸成		○	4.00
成果指標		達成度	点数	施策名		達成度	平均点数
国際・全国大会出場者数 R5 600人/目標 700人 = 85.71%		○	4.00	プロスポーツとの連携の推進		△	3.00
山形まるごとマラソン及び関連イベント参加者数 R5 5,438人/目標 6,000人 = 90.63%		○	4.00	プロスポーツとの連携の推進		△	3.00
国際・全国・東北大会等開催数 R5 14件/目標 25件 = 56.00%		△	3.00				
令和5年度 評価結果(基本方針3)				令和5年度 評価結果(基本方針3)			
市民のスポーツを支える環境整備				日常的に利用できる身近なスポーツ施設の整備として、西部工業団地公園内スポーツ施設整備事業において、ソフトボール場の整備に着手しており、令和9年度の完成に向け進めてきている。			
基本方針名		達成度	平均点数	達成度		点数	達成割合
市民のスポーツを支える環境整備		×	2.50	◎	5点	R5/目標値	達成 100%超
成果指標		達成度	点数	○	4点	R5/目標値	達成見込 70%~99%
スポーツ施設利用者数※山形市スポーツ課所管施設 R5 741,759人/目標 730,000人 = 101.61%		◎	5.00	△	3点	R5/目標値	未達成 30%~69%
スポーツ施設の新設等 R5 0施設/目標 3施設 = 0.00%		×	1.00	×	1点	R5/目標値	未達成 0%~29%
				—	一点	R5/目標値	評価不可

山形市スポーツ推進計画2028 成果指標表(施策別)

資料5-4

基本方針 基本施策 基本施策

施策

基本方針 1 誰もが生涯にわたってスポーツに親しむ健康なまちづくり	1-1 生涯にわたってスポーツに親しむ機会の充実	(1) 多様で身近なスポーツ参加の機会・環境の充実													取り組み内容と成果 31地区の体育振興会へ奨励費事業を交付し、大会の開催を支援した。地域におけるスポーツ活動の活性化が図られた。	課題 人口減少による担い手不足から、地区体育振興会のイベント数と参加者が減少していく。	今後 生涯にわたってスポーツに親しむ機会と高齢者の健康寿命の延伸のための、既存の競技スポーツを定着させるとともにニューススポーツも推進し、参加者数を令和6年度末において「20,000人以上」にしていく。			
		成果指標名	単位	R4	R5	R6 見込	R7	R8	R9	目標値 (R9年度)	達成度	点数	担当係(主)	主な取り組み						
		1-1-(1)	1	地区スポーツ、レクリエーション行事への参加者数	人	14,431	17,204	20,500				30,000	△	3				スポーツ振興係	地区体育振興会等への支援	
		(2) レクリエーションスポーツ等の育成																取り組み内容と成果 レクリエーション競技の体験や競技会を開催運営費の支援をし、大会の充実が図られ、スポーツを通じた市民交流やスポーツをする楽しみの提供を図ることができた。	課題 人口減少による競技者の減少や高齢化による担い手不足から、競技種目と参加者が減少していく。	今後 募集案内を、広報誌、ホームページ等を通して情報発信するなど市民の関心を高め、新たな募集方法を検討し、参加者数を令和6年度末において「380人以上」にしていく。
		成果指標名	単位	R4	R5	R6 見込	R7	R8	R9	目標値 (R9年度)	達成度	点数	担当係(主)	主な取り組み						
		1-1-(2)	2	山形市レクリエーション大会への参加者数	人	320	376	380			380	○	4	スポーツ振興係				山形市レクリエーション協会と連携した「山形市レクリエーション大会」の開催		
		(3) 総合型地域スポーツクラブの活性化													取り組み内容と成果 各種研修会の開催案内の情報提供し、運営と質の向上を図った。	課題 人口減少による競技者の減少や高齢化による担い手不足から、登録者が減少していく。	今後 新たなクラブの立ち上げを育成するため、関係機関からの情報収集を図っていき、クラブ数を令和6年度末において「5クラブ」にしていく。			
		成果指標名	単位	R4	R5	R6 見込	R7	R8	R9	目標値 (R9年度)	達成度	点数	担当係(主)	主な取り組み						
		1-1-(3)	3	総合型地域スポーツクラブ数	団体数	5	4	5			5	○	4	スポーツ振興係	総合型地域スポーツクラブの設立支援					
		(4) スポーツ少年団活動の活性化													取り組み内容と成果 活躍が期待されるスポーツ少年団への運営及び活動を支援し、少年団によるスポーツの育成が図られた。	課題 人口減少による児童数の減少や指導者の担い手不足から、スポーツ少年団が減少していく。	今後 スポーツ少年団本部と連携し、優秀なスポーツ少年団に支援を継続していき、優秀指定団を入れ替えつつ令和6年度末において「24団体数」を継続していく。			
		成果指標名	単位	R4	R5	R6 見込	R7	R8	R9	目標値 (R9年度)	達成度	点数	担当係(主)	主な取り組み						
		1-1-(4)	4	スポーツ少年団育成事業の優秀指定団数	団体数	24	24	24			24	◎	5	スポーツ振興係	スポーツ少年団本部運営への支援					
		(5) 市民が参加する大会・イベントの開催													取り組み内容と成果 スポーツ参画人口の拡大やスポーツを通じた健康増進を目的に、様々なプログラムにより開催し、参加者を増やすことができた。	課題 指導者の減少からプログラム数を増やすことが難しくなっていく。	今後 人気があるアーバンスポーツやニュースポーツ等の新たなプログラムを検討し、イベント等と連携を図りながら開催していき、参加者数を令和6年度において「3,500人以上」にしていく。			
		成果指標名	単位	R4	R5	R6 見込	R7	R8	R9	目標値 (R9年度)	達成度	点数	担当係(主)	主な取り組み						
		1-1-(5)	5	山形市スポーツフェスタへの参加者数	人	2,687	3,450	3,750			7,500	△	3	スポーツ交流係	「山形市民スポーツフェスタ」の開催					
		(6) 障がい者スポーツの普及・参加促進													取り組み内容と成果 障がい者スポーツ競技の体験会を実施し、市民への普及に努めた。障がい者スポーツへの理解と参加促進につながった。	課題 指導者の担い手不足から、競技数が限られ、新しい競技の普及が図れなくなる。	今後 新たな障がい者スポーツ競技の普及を図っていくために、種目数を令和6年度末において「1種目以上」実施していく。			
		成果指標名	単位	R4	R5	R6 見込	R7	R8	R9	目標値 (R9年度)	達成度	点数	担当係(主)	主な取り組み						
		1-1-(6)	6	山形市民スポーツフェスタでの障がい者スポーツの種目数	種目	1	1	1			1	◎	5	スポーツ振興係	体験会等を通じた障がい者スポーツの普及					
1-2 若者郷土愛の醸成や加齢の住に促す	(1) 「(仮称)アーバンスポーツ普及方針」策定と推進													取り組み内容と成果 アーバンスポーツ普及方針を策定し、今後の支援方法を検討した。競技団体との協議により、課題等を整理することができた。	課題 ルール変更も多く、流行にも左右されやすい傾向がある競技のため、普及や環境整備の検討が難しい。	今後 競技ごとの支援策として、県外への遠征費や大会参加費等への支援方法を競技団体と協議していく。				
	成果指標名	単位	R4	R5	R6 見込	R7	R8	R9	目標値 (R9年度)	達成度	点数	担当係(主)	主な取り組み							
	1-2-(1)	7	アーバンスポーツ普及に向けた競技団体との協議回数(累計)	回		1	2			5	×	1	スポーツ振興係	アーバンスポーツ普及への支援						
	(2) 冬季エクスゲームズ等の調査研究													取り組み内容と成果 冬季エクスゲームズの調査や聞き取りを実施し、広大なゲレンデが必要なことや、営業補償等の費用が膨大になる等の問題を整理することができた。	課題 広大なゲレンデが必要であり、長期間のスキー場使用となると、営業補償が膨大になる。	今後 冬季エクスゲームズを開催した国内外の実施状況等の情報収集を図っていく。				
成果指標名	単位	R4	R5	R6 見込	R7	R8	R9	目標値 (R9年度)	達成度	点数	担当係(主)	主な取り組み								
1-2-(2)	8	冬季エクスゲームズ等の調査研究した報告回数(累計)	回		1	2			5	×	1	スポーツ振興係	冬季エクスゲームズ等の調査研究							

山形市スポーツ推進計画2028 成果指標表(施策別)

基本方針1 誰もが生涯にわたってスポーツに親しむ健康なまちづくり	1-3 参加の促進 ウインタースポーツへの	1-3-1	成果指標名	単位	R4	R5	R6 見込	R7	R8	R9	目標値 (R9年度)	達成度	点数	担当係(主)	主な取り組み	取り組み内容と成果	課題	今後			
			1-3-1(1)	9	新たなウインタースポーツのイベントの開催数	開催数	1	1	1				1	◎	5	スポーツ振興係	新たなウインタースポーツのイベントの開催	蔵王スキージャンプ台を活用した「スノースポーツフェスティバル」開催の運営を支援し、ウインタースポーツの普及が図られた。	スキー人口の減少や温暖化の影響により、ウインタースポーツができる環境が制限されていく。	体験教室や見学ツアー等により、ウインタースポーツの普及を図るため、イベントを令和6年度末において「1以上」開催していく。	
			(2) ウインタースポーツ競技大会の開催																		
			1-3-1(2)	10	女子スキージャンプワールドカップ蔵王大会観戦者数	人	3,800	2,800	2,800				4,000	○	4	スポーツ交流係	「女子スキージャンプワールドカップ蔵王大会」の開催	雪不足の中、蔵王エコラインから雪を搬入し、開催した。ウインタースポーツの魅力向上につながった。	温暖化により、競技が開催できなくなる可能性がでてきた。	次年度も世界クラスの大会が開催できるようイベント等と連携し、魅力ある大会としていき、観戦者数を令和6年度において「2,800人以上」にしていく。	
			(1) 部活動の地域移行																		
			1-4-1(1)	11	中学校運動部活動の地域移行率(休日)	%	/	0	0				100	×	1	部活動地域移行連携係	運動部活動の地域移行	部活動の地域移行・地域連携に向け、受け皿団体の整備充実、指導者の確保、費用負担等の支援についてスポーツ活動でのモデル事業を実施。競技団体等を受け皿とし、市内全域をカバーできる体制を作るなどして取り組んでいる。	財源は国庫金のみで実施している現状であり、国庫金の継続性が不透明である。	生徒の交通手段や会場の確保、保護者負担への軽減策など、今後も課題を整理しながら解決策の検討を進めていく。また、地域移行に向けた計画、ガイドライン等を令和7年度末まで作成していく。	
	基本方針2 スポーツを通じた活気あるまちづくり	2-1 スポーツの力による地域活性化と郷土愛の醸成	(アスリートの競技スポーツの育成と活躍の支援性)	(1) アスリートの発掘・育成																	
				2-1-1-1(1)	12	ジュニアスポーツ育成・強化事業での育成者数	人	432	458	470				500	○	4	スポーツ振興係	山形市体育・スポーツ総合推進本部によるジュニア期の選手強化	競技人口の確保及び競技力の向上を図るため、ジュニア世代の育成をしている団体等を支援した。競技の普及と競技力の向上が図られた。	競技人口の減少と活動場所への遠征費等の支援が必要である。	競技力の向上を図るため、育成団体への支援を継続し、育成者数を令和6年度末において「450人以上」にしていく。
				(2) アスリートの活躍の支援																	
				2-1-1-2(2)	13	国際・全国大会出場者数	人	491	600	600				700	○	4	スポーツ振興係	国際・全国大会出場者への支援	国際大会や全国大会等に出場する選手に奨励金を交付し、選手の意欲を向上させた。	全国大会等に出場者を増やすため、ジュニア世代の育成強化が必要である。	引き続き、全国大会等に出場する選手に対し支援していき、大会参加の意欲の喚起につなげていく。
				(3) スポーツ指導者の養成・活用																	
				2-1-1-3(3)	14	競技団体指導者養成事業の支援団体数(累計)	団体	7	15	24				45	△	3	スポーツ振興係	山形市体育・スポーツ総合推進本部、山形市スポーツ協会等との連携による指導者育成	指導者養成を図るための講習会等への支援をした。指導者の育成、普及が図られた。	人口減少から競技指導者の担い手が不足していく。	様々な競技団体の指導者育成を図っていき、支援団体を令和6年度末において「9団体以上」に支援していく。
2-1 スポーツの力による地域活性化と郷土愛の醸成	2-1-2 スポーツの力による地域活性化と郷土愛の醸成	2-1-2-1 関係人口の増加と地域コミュニティの醸成	(1) スポーツによる交流人口・関係人口の増加の推進																		
			2-1-2-1(1)	15	まるごとマラソン大会参加者数	人	3,614	5,438	6,000				6,000	○	4	スポーツ交流係	「山形まるごとマラソン大会」の開催	第10回記念大会として、お城マラソンイベントや箱根駅伝チームの参加等、新たな企画を実施し開催した。昨年を上回る参加者であった。	気候変動による暑さ対策や同様の大会とのバッティングによる参加者の減少が懸念される。	スポーツ振興や経済活性化の取り組みを検討し、インバウンドの受け入れなど新たな企画を推進していき、参加者数を令和6年度において「5,500人以上」にしていく。	
			(2) 地域コミュニティの醸成																		
			2-1-2-2(2)	16	体育振興会連合会主催大会への参加者数	人	443	528	500				500	◎	5	スポーツ振興係	体育振興会連合会と連携したスポーツ大会の開催	グラウンド・ゴルフ、ソフトボール、ソフトバレーボール大会を開催し、競技者同士の親睦と生涯スポーツの活性化が図られた。	人口減少による参加者の減少や地区体育振興会の担い手不足から、生涯スポーツの普及が図れなくなる。	参加チーム数を増やすため、参加資格等の緩和やルール改正を行い、参加者数を令和6年度において「500人以上」にしていく。	

山形市スポーツ推進計画2028 成果指標表(施策別)

基本方針2 スポーツを通じた活気あるまちづくり	2-2 プロスポーツとの連携の推進	(1) 体験教室・動画配信やイベント等による地元プロスポーツ団体との連携													取り組み内容と成果	課題	今後				
		成果指標名	単位	R4	R5	R6 見込	R7	R8	R9	目標値 (R9年度)	達成度	点数	担当係(主)	主な取り組み							
		2-2-(1)	17	プロチームとの交流イベント開催数	件	3	6	6				10	△	3	スポーツ交流係	体験教室・動画配信やイベント等による地元プロスポーツ団体との連携	ホームゲーム開催時のイベントの連携や子ども向け体験教室を開催した。身近でプロスポーツの魅力を観戦、体験することができた。	休日等のイベント会場を確保することが困難になっている。	イベントとの連携や体験教室を開催し、開催数を令和6年度末において「6以上」を開催していく。		
		(2) 試合開催時の使用料減免や募金活動等による地元プロスポーツ団体の活動を支えるための支援													取り組み内容と成果	課題	今後				
		成果指標名	単位	R4	R5	R6 見込	R7	R8	R9	目標値 (R9年度)	達成度	点数	担当係(主)	主な取り組み							
		2-2-(2)	18	使用料を減免するチーム数	件	2	2	2				3	△	3	スポーツ施設管理係	試合開催時の使用料減免や募金活動等による地元プロスポーツ団体の活動を支えるための支援	ホームゲーム開催時の使用料を減免した。多くの市民がプロスポーツの観戦をすることができた。	毎年、ホームゲーム開催ができるような支援や要望または、施設を維持していく必要がある。	ホームゲームの開催できるよう施設を維持し、試合数を令和6年度末において「2以上」実施していく。		
		(3) 楽天イーグルス山形市支援協議会設立													取り組み内容と成果	課題	今後				
		成果指標名	単位	R4	R5	R6 見込	R7	R8	R9	目標値 (R9年度)	達成度	点数	担当係(主)	主な取り組み							
		2-2-(3)	19	公式戦開催数	回	0	2	2				2	◎	5	スポーツ交流係	「楽天イーグルス山形市支援協議会」による情報提供、各種イベント等賑わいを創出、公式戦時のボランティア活動等の実施	公式戦開催の情報提供やボランティア活動を募り、賑わいを創出した。観戦者が増加した。	毎年、公式戦を開催してもらえるよう要望していく必要がある。	次年度も引き続き、公式戦を開催し、各種イベント等と連携しながら、試合を令和6年度末において「2以上」開催していく。		
		(4) 部活動地域移行に向けたプロスポーツ団体との連携													取り組み内容と成果	課題	今後				
		成果指標名	単位	R4	R5	R6 見込	R7	R8	R9	目標値 (R9年度)	達成度	点数	担当係(主)	主な取り組み							
		2-2-(4)	20	部活動地域移行に向けたプロスポーツ団体との連携数	団体数	-	0	0				1	×	1	部活動地域移行連携係	部活動地域移行に向けたプロスポーツ団体との連携	部活動の地域移行に向けたプロスポーツ団体と連携についての協議をした。お互いの課題を整理することができた。	具体的な連携について、引き続き協議を重ねて行く必要がある。	部活動の地域移行に向けて受皿団体又は講師の派遣などをプロスポーツ団体と協議し、令和7年度以降において団体数を「1以上」と連携していく。		
		基本方針3 市民のスポーツを支える環境整備	3-1 スポーツ施設の充実	(1) スポーツ施設の新設・拡充													取り組み内容と成果	課題	今後		
				成果指標名	単位	R4	R5	R6 見込	R7	R8	R9	目標値 (R9年度)	達成度	点数	担当係(主)	主な取り組み					
				3-1-(1)	21	スポーツ施設の新設数	施設	0	0	0				3	×	1	文化スポーツ施設整備室	スポーツ施設の新設等	西部工業団地公園内のスポーツ施設を整備するため、ソフトボール場の実施設計をした。	ルール変更等により、設計の変更が生じた場合には、対応が難しくなる。	ソフトボール場を令和9年度の完成を目指している。
				(2) スポーツ施設の維持管理・長寿命化													取り組み内容と成果	課題	今後		
成果指標名	単位			R4	R5	R6 見込	R7	R8	R9	目標値 (R9年度)	達成度	点数	担当係(主)	主な取り組み							
3-1-(2)	22			長寿命化計画による施設の修繕箇所(累計)	件	7	11	15				30	△	3	スポーツ施設管理係	「山形市スポーツ施設長寿命化計画」の見直しと推進	老朽化により、緊急的な改修が必要となった設備、備品を中心に改修を実施した。一時的な改修では、抜本的な解決とはならない設備、備品が散在している。	財源不足により、経過年数が満了した設備や備品の更新が行われていない。	既存施設を末永く活用するため、計画的な改修を行うとともに、競技ルール変更や設備備品の老朽化へ対応し、良好なスポーツ環境を保持していき、修繕箇所を令和6年度末において「4か所以上」していく。		
(3) 広域利用施設の整備促進													取り組み内容と成果	課題	今後						
成果指標名	単位			R4	R5	R6 見込	R7	R8	R9	目標値 (R9年度)	達成度	点数				担当係(主)	主な取り組み				
3-1-(3)	23			スポーツ施設利用者数 ※スポーツ課所管施設	人	664,775	741,759	742,000				730,000	◎	5	スポーツ施設管理係	スポーツ施設の広域利用	広域利用に資するため、県・東北大会等の開催を支援した。	老朽化したスポーツ施設が増えていることから、長寿命化のため計画的な改修が必要である。	引き続き、広域利用を促進し、大規模な大会を開催していき、利用者数を令和6年度末において「730,000以上」にしていく。		
(4) 国民スポーツ大会に向けた環境整備													取り組み内容と成果	課題	今後						
成果指標名	単位			R4	R5	R6 見込	R7	R8	R9	目標値 (R9年度)	達成度	点数				担当係(主)	主な取り組み				
3-1-(4)	24			国民スポーツ大会の開催に関する動向の報告回数(累計)	回	/	/	1				4	×	1	スポーツ振興係	令和17年から3巡目となる予定の国民スポーツ大会について、開催方法等の情報収集	日本スポーツ協会において、大会のあり方を議論する有識者会議を設置し、今後の開催方法等の検討を開始した。(令和6年度中に提言をまとめ理事会に提出する方針)	施設の整備への負担減や競技者への支援強化等を国に要望していく必要がある。	スポーツ施設の整備や競技者の強化につながっているため、継続実施としていく。また、国へ開催地の負担軽減となる支援を求めている。		